

第6期 第3回 横浜市子ども・子育て会議（総会）

日時：令和5年7月31日（月）午後6時30分～

場所：市庁舎18階 みなと1・2・3会議室

次 第

1 こども青少年局長あいさつ

2 各部会からの報告

3 議事

第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について

4 報告事項

(1) 「はじめてのおあずかり券」及び「子サポ de あずかりおためし券」の
配付について

(2) 横浜市立大学と連携したハマスタディ調査結果について

=====

資料1 第6期横浜市子ども・子育て会議 委員名簿・部会名簿

資料2 第6期横浜市子ども・子育て会議 事務局名簿

資料3 横浜市子ども・子育て会議条例、横浜市子ども・子育て会議運営要綱

資料4 部会報告 子育て部会

資料5 部会報告 保育・教育部会

資料6 部会報告 放課後部会

資料7 部会報告 青少年部会

資料8 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について

資料9 「はじめてのおあずかり券」配付開始！〔記者発表資料〕

資料10 地域で子どもを預かる「横浜子育てサポートシステム」無料クーポン（子サポ de あずかり
おためし券）を配付し、利用料の改定を行います！〔記者発表資料〕

資料11 横浜市立大学と連携したハマスタディ調査結果について〔記者発表資料〕

第6期 横浜市子ども・子育て会議 委員名簿

◎：委員長 ○：副委員長

(敬称略・50音順)

| | 氏名 | 所属・役職等 |
|----|-----------------------|---------------------------------|
| 1 | あおやま てっぺい 青山 鉄兵 | 文教大学人間科学部 准教授 |
| 2 | ○ あかし よういち 明石 要一 | 千葉敬愛短期大学 名誉教授 |
| 3 | いけだ ひろひさ 池田 浩久 | 市民委員 |
| 4 | いしい あきひと 石井 章仁 | 大妻女子大学家政学部児童学科 准教授 |
| 5 | うえおか ともこ 上岡 朋子 | 市民委員 |
| 6 | おおば りょうじ 大庭 良治 | 一般社団法人横浜市私立保育園こども園園長会 会長 |
| 7 | ◎ おおひなた まさみ 大日向 雅美 | 恵泉女学園大学 学長 |
| 8 | きん あき 金 明希 | 一般社団法人ラシク045 |
| 9 | くらね みほ 倉根 美帆 | 横浜市PTA連絡協議会 副会長 |
| 10 | しみず じゅんや 清水 純也 | 公益社団法人横浜市幼稚園協会 会長 |
| 11 | たなか けん 田中 健 | 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 児童福祉部会 |
| 12 | つとみ ひろし 津富 宏 | 静岡県立大学国際関係学部 教授 |
| 13 | はぎわら けんじろう 萩原 建次郎 | 駒澤大学総合教育研究部 教授 |
| 14 | へんみ しんいち 辺見 伸一 | 横浜市青少年指導員連絡協議会 会長 |
| 15 | ほり さとこ 堀 聡子 | 東京福祉大学短期大学部こども学科 専任講師 |
| 16 | まつい ようこ 松井 陽子 | 横浜商工会議所 女性会 副会長 |
| 17 | みうら なおみ 三浦 尚美 | 横浜市民生委員児童委員連絡協議会 青葉区主任児童委員連絡会代表 |
| 18 | みずたに たかし 水谷 隆史 | 一般社団法人横浜市医師会 常任理事 |
| 19 | やぎさわ えな 八木澤 恵奈 | 横浜障害児を守る連絡協議会 副会長 |

第6期 横浜市子ども・子育て会議 部会名簿

◎：部会長 ○：職務代理者

(敬称略・50音順)

| 部会 | 氏名 | 所属・役職等 | |
|-------------|----------|----------------------|-------------------------------|
| 子育て 部会 | 委員 | うえおか ともこ 上岡 朋子 | 市民委員 |
| | | ○ みずたに たかし 水谷 隆史 | 一般社団法人横浜市医師会 常任理事 |
| | | きん あき 金 明希 | 一般社団法人ラシク045 |
| | | たなか けん 田中 健 | 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 児童福祉部会 |
| | | ◎ ほり さとこ 堀 聡子 | 東京福祉大学短期大学部こども学科 専任講師 |
| | | まつい ようこ 松井 陽子 | 横浜商工会議所 女性会 副会長 |
| | | やぎさわ えな 八木澤 恵奈 | 横浜障害児を守る連絡協議会 副会長 |
| 保育・教育 部会 | 委員 | ◎ いしい あきひと 石井 章仁 | 大妻女子大学家政学部児童学科 准教授 |
| | | おおば りょうじ 大庭 良治 | 一般社団法人横浜市私立保育園こども園園長会 会長 |
| | | くらね みほ 倉根 美帆 | 横浜市PTA連絡協議会 副会長 |
| | | しみず じゅんや 清水 純也 | 公益社団法人横浜市幼稚園協会 会長 |
| | 臨時 委員 | おおさわ ひろみ 大澤 洋美 | 東京成徳短期大学幼児教育科 教授 |
| | | おぎ まり 尾木 まり | 子どもの領域研究所 所長 |
| | | さいた ひろし 斉田 裕史 | 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 常務理事・事務局長 |
| | | てんみょう みほ 天明 美穂 | 一般社団法人ラシク045 |
| | | もり かよこ 森 佳代子 | 横浜障害児を守る連絡協議会 会長 |
| | | ○ やませ のりこ 山瀬 範子 | 國學院大學人間開発学部子ども支援学科 准教授 |
| 放課後 部会 | 委員 | ○ あおやま てつべい 青山 鉄兵 | 文教大学人間科学部 准教授 |
| | | ◎ あかし よういち 明石 要一 | 千葉敬愛短期大学 名誉教授 |
| | | いけだ ひろひさ 池田 浩久 | 市民委員 |
| | | へんみ しんいち 辺見 伸一 ※ | 横浜市青少年指導員連絡協議会 会長 |
| | | みうら なおみ 三浦 尚美 | 横浜市民生委員児童委員協議会 青葉区主任児童委員連絡会代表 |
| | 臨時 委員 | すずき ゆうこ 鈴木 裕子 | 国土舘大学文学部教育学科 教授 |
| | | えぐち かずよし 江口 和良 | 横浜市立小学校長会 副会長 |
| | | たかすぎ ようこ 高杉 陽子 | 横浜市PTA連絡協議会 会計 |
| | | まつもと ゆたか 松本 豊 | 横浜市子ども会連絡協議会 会長 |
| | | みやなが ちえこ 宮永 千恵子 | 横浜障害児を守る連絡協議会 副会長 |

◎：部会長 ○：職務代理者

(敬称略・50音順)

| 部会 | | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----------|----------|------------------------|---------------------------------------|
| 青少年 部会 | 委員 | くらね みほ 倉根 美帆 | 横浜市 P T A 連絡協議会 副会長 |
| | | ◎ つとみ ひろし 津富 宏 | 静岡県立大学国際関係学部 教授 |
| | | ○ はぎわら けんじろう 萩原 建次郎 | 駒澤大学総合教育研究部 教授 |
| | | へんみ しんいち 辺見 伸一 ※ | 横浜市青少年指導員連絡協議会 会長 |
| | 臨時 委員 | しまだ のりたか 島田 徳隆 | 特定非営利活動法人アンガージュマン・よこすか 理事長 |
| | | ひらもり よしのり 平森 義教 | 横浜市立中学校校長会 |
| | | みわ のりえ 三輪 律江 | 横浜市立大学大学院都市社会文化研究科 教授 |
| | | やお さとし 矢尾 覚史 | 神奈川県弁護士会所属弁護士 |
| | | やなだ りえこ 梁田 理恵子 | 横浜市民生委員児童委員協議会 理事 中区民生委員児童委員協議会 会長 |
| | | よこた たかゆき 横田 孝行 | 横浜市立高等学校校長会 |

※で表示の委員については、複数部会へ所属

横浜市子ども・子育て会議〔総会〕 事務局名簿

資料2

子ども青少年局

| 区分 | 所 属 | 氏 名 |
|--------------------|-------------------|-----------|
| 局長 | 子ども青少年局長 | 吉 川 直 友 |
| 部 長 | 子ども青少年局副局長(総務部長) | 福 嶋 誠 也 |
| | 子ども青少年局医務担当部長 | 岩 田 眞 美 |
| | 子ども青少年局総務部担当部長 | 白 井 正 和 |
| | 青少年部長 | 田 口 香 苗 |
| | 保育・教育部長 | 齋 藤 眞 美 奈 |
| | 保育・教育部保育対策等担当部長 | 渡 辺 将 |
| | 子ども福祉保健部長 | 武 居 秀 顕 |
| | 子ども福祉保健部担当部長 | 松 永 朋 美 |
| | 中央児童相談所長 | 川 尻 基 晴 |
| 課 長 | 青少年育成課長 | 森 脇 美 也 子 |
| | 青少年相談センター所長 | 小 栗 由 美 |
| | 放課後児童育成課長 | 佐 藤 治 憲 |
| | 保育・教育支援課長 | 大 槻 彰 良 |
| | 保育・教育支援課幼保小連携担当課長 | 田 村 憲 一 |
| | 保育・教育運営課長 | 岡 本 今 日 子 |
| | 保育・教育運営課担当課長 | 齋 藤 淳 一 |
| | 保育・教育給付課長 | 石 田 登 |
| | 保育・教育認定課長 | 馬 淵 由 香 |
| | 保育対策課長 | 安 藤 敦 久 |
| | 保育対策課担当課長 | 大 島 範 子 |
| | 保育対策課担当課長 | 岡 崎 有 希 |
| | 子ども施設整備課長 | 安 達 友 彦 |
| | 子ども家庭課長 | 藤 浪 博 子 |
| | 地域子育て支援課長 | 五 十 川 聡 |
| | 地域子育て支援課親子保健担当課長 | 戸 矢 崎 悦 子 |
| | こどもの権利擁護課長 | 上 原 嘉 明 |
| | こどもの権利擁護課児童施設担当課長 | 真 舘 裕 子 |
| | 障害児福祉保健課長 | 高 島 友 子 |
| | 中央児童相談所支援課担当課長 | 坂 清 隆 |
| 中央児童相談所虐待対応・地域連携課長 | 石 神 光 | |
| 係 長 | 放課後児童育成課担当係長 | 奈 木 修 人 |
| | 子ども家庭課子ども家庭係長 | 名 倉 孝 典 |
| | 地域子育て支援課担当係長 | 高 瀬 博 子 |
| | 地域子育て支援課担当係長 | 長 澤 昇 平 |
| | こどもの権利擁護課養護支援係長 | 稲 村 良 介 |
| | 障害児福祉保健課担当係長 | 嶋 田 慶 一 |

事務担当

| | |
|-----------|---------|
| 企画調整課長 | 柿 沼 千 尋 |
| 企画調整課担当係長 | 生 野 元 康 |
| 企画調整係長 | 宗 川 淳 |

○横浜市子ども・子育て会議条例

(設置)

第1条 子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号。以下「支援法」という。)第72条第1項、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成18年法律第77号。以下「認定こども園法」という。)第25条等の規定に基づき、横浜市子ども・子育て会議(以下「子育て会議」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 子育て会議は、次に掲げる事務を行うものとする。

- (1) 支援法第72条第1項各号に掲げる事務を処理すること。
 - (2) 認定こども園法第17条第3項、第21条第2項及び第22条第2項並びに横浜市幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営の基準に関する条例(平成26年9月横浜市条例第46号)第4条の規定によりその権限に属させられた事項を調査審議すること。
 - (3) その他支援法第6条第1項に規定する子ども等に係る施策に関し市長が必要と認める事項を調査審議すること。
- 2 支援法第61条第1項の規定に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画は、次世代育成支援対策推進法(平成15年法律第120号)第8条第1項の規定に基づく市町村行動計画と一体のものとして策定し、及び評価するため、子育て会議は、当該市町村行動計画の策定及び当該市町村行動計画の実施状況に係る評価についての調査審議を併せて行うものとする。

(組織)

第3条 子育て会議は、委員20人以内をもって組織する。

- 2 委員は、支援法第7条第1項に規定する子ども・子育て支援に関し学識経験のある者その他市長が必要と認める者のうちから、市長が任命する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(臨時委員)

第5条 市長は、子育て会議に特別の事項を調査審議させるため必要があると認めるときは、臨時委員若干人を置くことができる。

- 2 臨時委員は、市長が必要と認める者のうちから市長が任命する。
- 3 臨時委員の任期は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときまでとする。

(委員長及び副委員長)

第6条 子育て会議に委員長及び副委員長1人を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。
- 3 委員長は、子育て会議を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 子育て会議の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長及び副委員長が選出されていないときは、市長が行う。

- 2 子育て会議は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 子育て会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(部会)

第8条 子育て会議に、部会を置くことができる。

- 2 部会は、委員長が指名する委員又は臨時委員をもって組織する。
- 3 部会に部会長を置き、委員長が指名する。
- 4 部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、委員長の指名する部会の委員が、その職務を代理する。
- 5 第6条第3項の規定は部会長の職務について、前条(第1項ただし書を除く。)の規定は部会の会議について、それぞれ準用する。この場合において、第6条第3項並びに前条第1項本文及び第3項中「委員長」とあるのは「部会長」と、第6条第3項及び前条中「子育て会議」とあるのは「部会」と、同条第2項及び第3項中「委員」とあるのは「部会の委員」と読み替えるものとする。

(関係者の出席等)

第9条 委員長又は部会長は、それぞれ子育て会議又は部会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第10条 子育て会議の庶務は、こども青少年局において処理する。

(委任)

第 11 条 この条例に定めるもののほか、子育て会議の運営に関し必要な事項は、委員長が子育て会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 第 3 条第 2 項の規定により平成 27 年 4 月 1 日に任命される委員の任期は、第 4 条第 1 項本文の規定にかかわらず、同日から平成 28 年 10 月 31 日までとする。

附 則(平成 26 年 9 月条例第 59 号)

(施行期日)

1 この条例は、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律(平成 24 年法律第 66 号)の施行の日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 横浜市子ども・子育て会議条例第 1 条に規定する子育て会議は、この条例の施行の日前においても、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律による改正後の就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成 18 年法律第 77 号)第 17 条第 3 項の規定によりその権限に属させられる事項について、この条例による改正後の横浜市子ども・子育て会議条例の規定の例により、調査審議することができる。

附 則(平成 27 年 2 月条例第 12 号) 抄

(施行期日)

1 この条例は、子ども・子育て支援法(平成 24 年法律第 65 号)の施行の日から施行する。ただし、附則を附則第 1 項とし、同項に見出しを付し、附則に 1 項を加える改正規定は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 5 年 3 月条例第 7 号)

この条例は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

横浜市子ども・子育て会議運営要綱

制定 平成 27 年 3 月 5 日 こ企第1019号（局長決裁）
最近改正 平成 30 年 8 月 1 日 こ企第142号（局長決裁）

（趣旨）

第1条 この要綱は、横浜市子ども・子育て会議条例（平成 25 年 3 月横浜市条例第 18 号。以下「条例」という。）に基づき設置される、横浜市子ども・子育て会議（以下「子育て会議」という。）の組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

（部会）

第2条 子育て会議は、条例第 8 条に基づき次の左欄に掲げる部会を置き、右欄に掲げる事項を調査審議する。

| 部会の名称 | 調査審議事項 |
|---------|---|
| 子育て部会 | 1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係） |
| 保育・教育部会 | 1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係） 2 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確認及び利用定員の設定に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号関係） 3 幼保連携型認定こども園の認可等に関する事（条例第 2 条第 1 項第 2 号関係） 4 幼保連携型認定こども園の整備費補助対象の審査に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 5 幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 6 幼稚園・認定こども園預かり保育事業の認定先の審査に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 7 幼稚園 2 歳児受入れ推進事業実施園の審査に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） 8 子ども・子育て支援法に係る支給認定、利用者負担額等に関する事（条例第 2 条第 1 項第 3 号関係） |
| 放課後部会 | 1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係） |
| 青少年部会 | 1 横浜市子ども・子育て支援事業計画の調査審議に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号及び第 2 条第 2 項関係） |

2 部会は、必要に応じ部会長が招集する。

3 保育・教育部会における次の事項の決定は、子育て会議の決定とみなす。ただし、次回の子育て会議に報告しなければならない。

- (1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の設定に関する事（条例第 2 条第 1 項第 1 号関係）
- (2) 幼保連携型認定こども園の認可等に関する事（条例第 2 条第 1 項第 2 号関係）
- (3) 幼保連携型認定こども園の整備費補助対象の審査に関する事（条例第 2 条第 1

項第3号関係)

- (4) 幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定に関する事(条例第2条第1項第3号関係)
- (5) 幼稚園・認定こども園預かり保育事業の認定先の審査に関する事(条例第2条第1項第3号関係)
- (6) 幼稚園2歳児受け入れ推進事業実施園の審査に関する事(条例第2条第1項第3号関係)

(委員長又は部会長の専決事項)

第3条 委員長は、軽易又は急施を要する事項で、子育て会議を招集する暇がないときは、これを専決できる。ただし、次の子育て会議に報告しなければならない。

- 2 第1項の規定は、第2条第3項について、部会長に準用する。この場合において、第1項中「委員長」とあるのは「部会長」と、第1項中「子育て会議」とあるのは「部会の会議」と読み替えるものとする。

(会議の公開)

第4条 横浜市に保有する情報の公開に関する条例(平成12年2月横浜市条例第1号)第31条の規定により、子育て会議(部会の会議を含む。)については、一般に公開するものとする。ただし、委員の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(意見の聴取等)

第5条 委員長は、子育て会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

- 2 第1項の規定は、部会長に準用する。この場合において、第1項中「委員長」とあるのは「部会長」と、第1項中「子育て会議」とあるのは「部会の会議」と読み替えるものとする。

(守秘義務)

第6条 委員及び臨時委員は、職務上知り得た秘密をもらしてはならない。その身分を失った後も同様とする。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、運営に必要な事項は、委員長が子育て会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年8月1日から施行する。

令和4年度・令和5年度 子ども・子育て会議部会報告書

(期間) 令和5年3月1日～令和5年7月14日

資料4
子育て部会

1.部会開催状況

| 回数 | 開催日時、会場等 | 主な審議内容等 |
|-----|--|--|
| 第1回 | 令和5年7月4日 16:00～17:30 (市庁舎18階みなど 6・7会議室) | 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた ニーズ調査について |

1

2.主な報告事項

| 第1回 | |
|------|--|
| 報告事項 | 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について |
| 報告内容 | ニーズ調査の概要や調査票の事務局案に対して、意見交換を行った。 |
| 主な意見 | <ul style="list-style-type: none">・子どもの発達、障害に関して、「基幹相談支援センター」も選択肢に加えてはどうか。また、質問の順番を、最初に「相談の有無」、次に「医師の診断の有無」にするなど、回答しやすいように工夫が必要ではないか。・児童発達支援の利用に関して、利用していない理由の選択肢に、本人が利用したがらないから、本人が疲れてしまうからといった、子ども側の理由も入れても良いのではないか。・子育てサポートシステムの利用について、子育てサポートシステムを知らない可能性があるため、利用意向の前に、事業を知っているかの設問があると良いのではないか。・子ども本人への質問は、小学生1年生が回答する場合、親が丁寧に説明しても、子どもには分からない部分があるため、子どもが分かる範囲で回答する形になってしまうのではないか。また、抽象的な言葉などは、小学1年生だとイメージが持ちにくいいため、分かりやすい表現にしていきたい。・中高生の意見が聞かれていないので、今後の課題として捉えてもらいたい。 |

2

令和4年度・令和5年度 子ども・子育て会議部会報告書

(期間) 令和5年3月1日～令和5年7月14日

資料5

保育・教育部会

1.部会開催状況

| 回数 | 開催日時、会場等 | 主な審議内容等 |
|-----|---|---|
| 第2回 | 令和5年3月28日 18:00～22:10 (市庁舎18階なみき 14・15会議室) | 1 審議事項 (1)私立幼稚園等預かり保育事業の認定先の審査について (2)特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について (3)幼保連携型認定こども園の認可及び補助金交付先法人の審査について |
| 第3回 | 令和5年6月5日 18:00～21:10 (市庁舎18階みなと 6・7会議室) | 1 報告事項 (1)令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について (2)第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査概要について |

1

| 回数 | 開催日時、会場等 | 主な審議内容等 |
|-----|---|--|
| 第4回 | 令和5年7月14日 18:30～20:23 (市庁舎18階みなと 1・2・3会議室) | 1 審議事項 (1)第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について (2)私立幼稚園等預かり保育事業の認定先の審査について |

2

2.主な報告事項

| 第2回 | |
|------|--|
| 報告事項 | (1)私立幼稚園等預かり保育事業の認定先の審査について |
| 報告内容 | 審議の結果、1法人1件を新規認定園として承認した。 |
| 主な意見 | 預かり保育に特化した避難訓練を行うことも必要ではないか。 |
| 報告事項 | (2)特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について |
| 報告内容 | 審議の結果、付議された全ての利用定員について承認した。 |
| 主な意見 | 特になし |
| 報告事項 | (3)幼保連携型認定こども園の認可及び補助金交付先法人の審査について |
| 報告内容 | 審議の結果、付議された1法人1件については、引き続き検討することとした。 |
| 主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・定員超過が二度も続いているのは問題である。 ・教育・保育の計画内容案が、3歳以上の話が中心で、1・2歳児の姿が見えず心配である。 |

【添付資料】 第6期横浜市子ども・子育て会議第2回保育・教育部会の審議結果

3

| 第3回 | |
|------|--|
| 報告事項 | (1)令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について |
| 報告内容 | 令和5年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について、報告を受けた。 |
| 主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童の受入れ園を探すのに苦労している。情報発信等の園探しの支援が必要ではないか。 ・情報発信について、保育・教育コンサルジュに期待している。 ・定員割れが発生している園もあるが、誰でも通園制度などの展開を見据え、0歳児の枠も減らしすぎないように考慮すべき。 |
| 報告事項 | (2)第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査概要について |
| 報告内容 | 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査概要について、報告を受けた。 |
| 主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・前回調査では、回収率が約45%となっており、回答者は自分事としてとらえていると思われる。 ・調査項目のスリム化によって回答率向上を期待したい。 |

【添付資料】 なし

4

| 第4回 | |
|------|---|
| 報告事項 | (1) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について |
| 報告内容 | ニーズ調査の概要や調査票の事務局案に対して、意見交換を行った。 |
| 主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 不定期の教育・保育等の利用について、「必要な日数」は保護者にとって必要かどうかの判断が難しく答えにくいのではないかと。「利用したい日数」が良いのではないかと。 ・ 児童発達支援について、回答者に対し児童発達支援についての説明が必要。 ・ 人口の年齢構成も変わっているため、子育てに必要なサポートで重要だと思えるものや子育てで感じる困りごとで、「周囲の子育てに関する理解」を把握する選択肢も必要ではないかと。 ・ 子ども本人への質問について、設問の意図が分かりづらい。どのように施策に活かしたいかを明確にすることが必要と思う。 |
| 報告事項 | (2) 私立幼稚園等預かり保育事業の認定先の審査について |
| 報告内容 | 審議の結果、2件を新規認定園として承認した。 |
| 主な意見 | 現在、預かり保育を実施していない園は、近隣の預かり実施園を見学する等のサポートを受けたほうが利用する保護者も安心するのではないかと。 |

【添付資料】 第6期横浜市子ども・子育て会議第4回保育・教育部会の審議結果

第6期横浜市子ども・子育て会議 第2回保育・教育部会の審議結果

令和5年3月28日開催の保育・教育部会における審議結果は、次のとおりです。

(1) 私立幼稚園等預かり保育事業の認定先の審査について

審議の結果、1法人1件を新規認定園として承認しました。

| | 所在区 | 施設名 | 法人名 | 受入れ枠 | 事業開始日(予定) |
|---|-----|----------|----------|------|-----------|
| 1 | 南区 | 横浜れんげ幼稚園 | (学) 蓮花学園 | 30人 | 令和5年4月1日 |

(2) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員について

審議の結果、付議された全ての利用定員について承認しました。

(2) 幼保連携型認定こども園の認可及び補助金交付先法人の審査について

審議の結果、付議された1法人1件については、引き続き検討することとしました。

| | 所在区 | 施設名(仮称) | 法人名 | 定員 | 事業開始日(予定) |
|---|-----|----------|----------|------|-----------|
| 1 | 旭区 | 横浜三輪こども園 | (学) 三輪学園 | 119人 | 令和7年4月1日 |

第6期横浜市子ども・子育て会議 第4回保育・教育部会の審議結果

令和5年7月14日開催の保育・教育部会における審議結果は、次のとおりです。

(1) 私立幼稚園等預かり保育事業の認定先の審査について

審議の結果、2件を新規認定園として承認しました。

| | 所在区 | 施設名(仮称) | 法人名 | 定員 | 事業開始日(予定) |
|---|------|---------|----------------|-----|-----------|
| 1 | 港北区 | 樽町白梅幼稚園 | 個人立 | 20人 | 令和6年5月1日 |
| 2 | 神奈川区 | 神大寺幼稚園 | 学校法人 北村文化学園 | 15人 | 令和6年4月1日 |

令和4年度・令和5年度 子ども・子育て会議部会報告書

(期間) 令和5年3月1日～令和5年7月14日

資料6
放課後部会

1.部会開催状況

| 回数 | 開催日時、会場等 | 主な審議内容等 |
|-----|---|--|
| 第1回 | 令和5年6月16日 18:30～19:15 (市庁舎18階みなど 6・7会議室) | (1)第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について (2)放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に 向けた調査について |

1

2.主な報告事項

| 第1回 | |
|------|--|
| 報告事項 | (1)第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について |
| 報告内容 | ニーズ調査の概要や調査票の事務局案に対して、意見交換を行った。 |
| 主な意見 | ・小学校低学年の児童は統計的に回答が信頼できない。対象範囲を小学校4年生以上にすべき ・保護者と児童で調査票は分けるか、お互いの回答を見れないようにしてほしい (親にとって子に年収を知られたくないことや子の回答を親が知らないようにするため) |
| 報告事項 | (2)放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査について |
| 報告内容 | 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査の概要や事務局案に対して、意見交換を行った。 |
| 主な意見 | ・複数選択は子どもが選択しづらいので、各項目でいるかないかなどの2択にするとよい ・低学年の児童でもクラブの職員が補佐してくれるのであれば回答が期待できる。 ・事前に職員でアンケート調査を行ったのは非常に良い取組。 |

2

令和4年度・令和5年度 子ども・子育て会議部会報告書

(期間) 令和5年3月1日～令和5年7月14日

1.部会開催状況

| 回数 | 開催日時、会場等 | 主な審議内容等 |
|-----|--|--|
| 第1回 | 令和5年6月29日 10:00～12:00 (青少年交流・活動支援スペース 第1研修室) | (1)第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について (2)青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討について |

1

2.主な報告事項

| 第1回 | |
|------|--|
| 報告事項 | (1)第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について |
| 報告内容 | ニーズ調査の概要や調査票の事務局案に対して、意見交換を行った。 |
| 主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・回答をする間、お子さんを隣に待機させなければならないということがないように、保護者の回答項目とお子さんの回答項目を別紙などで分けるべき。 ・低学年と高学年では理解力に差があるので対象のお子さんが誰でも答えやすい書き方にするべき。 ・保護者やお子さん自身に調査の目的をご理解いただくために冒頭などに説明が必要。 ・子どものストレス状況を把握できる項目を追加すべき。 ・保護者の回答をお子さんが知ってしまう、お子さんの回答を保護者が知ってしまうことがないように配慮が必要。 ・家庭、学校などが居場所になっていない子どもの回答も得られるようにしてほしい。 |

2

第1回

| | |
|------|--|
| 報告事項 | (2)青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討について |
| 報告内容 | 議題について説明を受け、今後検討していくことについて了解した。 |
| 主な意見 | <ul style="list-style-type: none">・近くに学校があるかなど配置についても検討していく必要がある。・地区センターなど施設との併設や連携など、複合的な設置・運営を検討していく必要がある。・特化した機能を持つ特徴的な施設を整備することも検討の余地がある。・拠点の広報活動にも力をいれるべき。 |

第3期子ども・子育て支援事業計画 策定に向けたニーズ調査について

1 趣旨

現行の「第2期横浜市子ども・子育て支援事業計画」が令和6年度に終了することに伴い、令和5年度から次期計画（計画期間：令和7～11年度）の策定に向けた検討を行います。

計画の具体的な検討に先立ち、本市の子育て家庭の状況や意向を把握するため、子ども・子育て支援法等に基づき、子育て家庭を対象とした「利用ニーズ把握のための調査（以下、「ニーズ調査」）」を実施する予定です。

令和5年6月上旬～7月中旬にかけて、子ども・子育て会議の各部会において、調査項目案に対するご意見をいただき、調査票への反映等を行った調査票案について報告します。

横浜市として、10月からの調査実施に向けて、引き続き準備を進めていきます。

2 ニーズ調査の実施概要

(1) 調査の種類

- ①未就学児童の保育等に関する現状及び保護者ニーズ調査（以下「未就学児調査」）
- ②小学生の放課後等に関する現状及び保護者ニーズ調査（以下「小学生調査」）

(2) 抽出方法・抽出数、実施時期

| | | R 5年度調査 | 参考：前回調査（H30年度） | |
|------|-----------|------------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 抽出方法 | | 住民基本台帳から無作為抽出 | 住民基本台帳から無作為抽出 | 【回収状況】 |
| 抽出数 | (1)未就学児調査 | 約65,000人 | 62,677人 | 28,721人 (回収率 45.8%) |
| | (2)小学生調査 | 約67,000人 | 66,358人 | 30,738人 (回収率 46.3%) |
| | 合計 | 約132,000人 | 129,035人 | 59,459人 (回収率 46.1%) |
| 実施時期 | | R 5年10月 | H30年6月14日 対象者あて発送 H30年7月10日 調査回答期限 | |
| 回答方法 | | ①郵送による回収 ②インターネット回答 | 郵送による回収 | |

※外国籍の方は、外国語（英語及び中国語）の調査票を別途作成し、郵送回収

3

3 調査項目設定の考え方

- (1) 子ども・子育て支援法で定める、保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」の算出に必要な項目を設けます。
- (2) 回答者の負担軽減や回収率の向上を図る観点から、調査項目全体のスリム化を図ります。
- (3) 中期計画2022～2025の基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を踏まえ、横浜で子育てして良かったと実感していただけるような施策につなげる項目を設定します。

【参考】横浜市中期計画2022～2025の基本戦略

『子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ』

未来の横浜を担う次世代を育むことで、共に未来を切り拓く市民を増やし、都市の活力・持続可能性を高めます。

横浜に関わる様々な人・団体の皆様との協働・共創を通じて、横浜の魅力を更に高め、「住みたい都市」「住み続けたい都市」「選ばれる都市」を目指します

4

4 調査項目のスリム化



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

調査項目のスリム化にあたっては、下記の2つの観点から、既存の設問（前回調査）の見直しを行いました。

①「量の見込み」の算出に必要な設問など、優先度の高い項目を精査。

《主な見直し項目》

保護者の休日等の勤務状況、育児短時間勤務の取得状況 等

②利用者向けの設問などは、利用者を対象とした他のアンケート・調査等の実施を検討。また、他の調査等で把握可能な項目の精査。

《主な見直し項目》

児童発達支援の利用日数や時間、地域子育て支援拠点等の認知度 等

【参考】他のアンケート・調査等

- 妊娠から出産にかかる支援のニーズに関する子育て世帯に対するアンケート調査
- 横浜市放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査
- 障害児通所支援事業（児童発達支援・放課後等デイサービス）の利用者向けアンケート
- 家庭と子育てに関するコホート研究：ハマスタディ（R4年度から5年間の継続調査）
※横浜市立大学と共同

5

5 施策につなげる項目の設定



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

「子育てしたいまち」の実現に向けた施策検討につなげていくための項目を設定します。

《主な項目》

・子育て支援の情報入手方法、子育てする上で知りたい情報 等

…負担軽減につながる施策

・子どもの発育等の不安・疑問に対するオンライン相談の利用意向 等

…安心感につながる施策

6 その他

本市施策への反映を目的に小学生調査において「子ども自身に回答してもらう項目」を新たに設定します。

《主な項目》

・学校が休みの日にやりたいこと、家や学校以外で楽しく過ごせる場所 等

6

7 調査票の構成



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

(1) 未就学児調査

| 大項目 | | 設問数 |
|-----|-------------------|-----|
| 1 | 家族の状況 | 8問 |
| 2 | 保護者の就労状況 | 8問 |
| 3 | 子どもの発達、障害の状況 | 4問 |
| 4 | 日中の定期的な教育・保育事業の利用 | 5問 |
| 5 | 不定期な預かりや一時預かり等の利用 | 3問 |
| 6 | 病気の際の対応 | 4問 |

| 大項目 | | 設問数 |
|-----|-----------------|-----|
| 7 | 地域における子育て支援等 | 2問 |
| 8 | 児童発達支援 | 1問 |
| 9 | 小学校就学後の放課後の過ごし方 | 1問 |
| 10 | 育児休業などの両立支援制度 | 7問 |
| 11 | 妊娠・出産・子育て全般 | 24問 |

計 67問

(うち全員回答40問、該当者のみ回答27問)

(2) 小学生調査

| 大項目 | | 設問数 |
|-----|--------------|-----|
| 1 | 家族の状況 | 7問 |
| 2 | 保護者の就労状況 | 4問 |
| 3 | 子どもの発達、障害の状況 | 4問 |
| 4 | 放課後の過ごし方 | 21問 |

| 大項目 | | 設問数 |
|-----|-----------|-----|
| 5 | 病気の際の対応 | 4問 |
| 6 | 子育て全般 | 22問 |
| 7 | 子ども本人への質問 | 5問 |

計 67問

(うち全員回答41問、該当者のみ回答26問)

8 各部会における意見聴取等



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

令和5年6月～7月の各部会においてご意見をいただきました。

(1) 未就学児調査

各部会での対象部分に○

| 部会 | | 子育て部会 | 保育・教育部会 | 放課後部会 | 青少年部会 |
|-----|-------------------|-------|---------|-------|-------|
| 日にち | | 7/4 | 7/14 | 6/16 | 6/29 |
| 1 | 家族の状況 | ○ | ○ | ○ | |
| 2 | 保護者の就労状況 | ○ | ○ | ○ | |
| 3 | 子どもの発達、障害の状況 | ○ | ○ | | |
| 4 | 日中の定期的な教育・保育事業の利用 | | ○ | | |
| 5 | 不定期な預かりや一時預かり等の利用 | | ○ | | |
| 6 | 病気の際の対応 | ○ | ○ | | |
| 7 | 地域における子育て支援等 | ○(※1) | | ○(※2) | |
| 8 | 児童発達支援 | ○ | ○ | | |
| 9 | 小学校就学後の放課後の過ごし方 | | | ○ | |
| 10 | 育児休業などの両立支援制度 | ○ | ○ | | |
| 11 | 妊娠・出産・子育て全般 | ○ | ○ | | |

※1…親子の居場所

※2…プレイパーク

8 各部会における意見聴取等

(2) 小学生調査

各部会での対象部分に○

| 部会 | | 子育て部会 | 保育・教育部会 | 放課後部会 | 青少年部会 |
|-----|--------------|-------|---------|-------|-------|
| 日にち | | 7/4 | 7/14 | 6/16 | 6/29 |
| 1 | 家族の状況 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 保護者の就労状況 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 子どもの発達、障害の状況 | ○ | | | |
| 4 | 放課後の過ごし方 | ○(※1) | | ○(※2) | |
| 5 | 病気の際の対応 | ○ | | ○ | |
| 6 | 子育て全般 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 7 | 子ども本人への質問 | ○ | ○ | ○ | ○ |

※1…放課後等デイサービス、子育てサポートシステム

※2…放課後等デイサービス、子育てサポートシステム以外

9

9 主なご意見と対応の考え方（詳細は別添4）

| 部会 | ご意見の概要 | 対応の考え方 |
|---------|---|---|
| 子育て部会 | 子どもの発達や障害について、質問の順番を、最初に「相談の有無」、次に「医師の診断の有無」にするなど、回答しやすいように工夫したほうが良い。 | 相談の有無、医師の診断の有無の順となるよう、設問の順序を修正しました。 |
| | 選択肢「子どもの食事」は、離乳食、アレルギー、食事を作ることの負担など、人によって解釈が異なると思われる。どのようなこと把握したいのかを分かるようにした方が良い。 | 回答者に趣旨が明確になるよう「子どもの食事」の選択肢に補足を追記しました。また、食事をつくること等家事の負担についても回答いただけるよう選択肢を追加しました。 |
| 保育・教育部会 | 不定期の教育・保育等の利用について、「必要な日数」では回答者によって必要性のとらえ方が異なるため、「利用したい日数」が良いのではないかと。 | 設問文を「必要な日数」から「利用したい日数」に修正しました。 |
| | 人口の年齢構成も変化しているため、子育てに必要なサポートで重要だと思うものや子育てで感じる困りごとで、「周囲の子育てに関する理解」を把握する選択肢も必要ではないかと。 | 各設問に、「子育てに対する周囲の理解」に関する選択肢を追加しました。 |

10

9 主なご意見と対応の考え方（詳細は別添4）



| 部会 | ご意見の概要 | 対応の考え方 |
|-----------|---|--|
| 放課後部会 | 子どもへの調査の場合は脳の発達段階等から考えて、小学校4年生からとすることが望ましい。 | 子ども本人への質問について、対象を「小学校4年生以上」としました。 |
| 青少年部会他各部会 | 子どもと親それぞれのプライバシーに配慮できるように、保護者の回答項目とお子さんの回答項目を別紙などで分けるなどの工夫が必要である。 | 調査票で、子どもに回答してもらう項目は、切り離せるようにします。子どもの回答も紙またはウェブを選択できるように調整しています。また、答えたくない場合は答えなくてよいことを予め伝えます。 |

※子ども本人への質問については、各部会で数多くのご意見をいただきましたので、改めて実施の考え方を整理し、内容を修正しました。
(12～14ページ)

10 子ども本人への質問について



(1) 目的

ニーズ調査において、小学4年生以上の子どもに対し、本市施策の充実につなげることを目的とした調査項目を設けます。

(2) 実施方法

保護者から調査票を渡し、子どもが回答を記載したうえで、保護者を通じ、市に提出します。

(3) 実施のポイント

- ・調査票で、子どもに回答してもらう項目は、切り離せるようにします。
- ・子どもの回答も、紙またはウェブを選択できるようにします。【調整中】
- ・答えたくない場合は答えなくてよいことを予め伝えます。

10 子ども本人への質問について



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

(4) 設問と施策反映について

| 項目 | 設問（ルビあり） | 質問意図・ねらい |
|-----|--|--|
| 問42 | あなたが、学校がお休みの日にやりたいことに○をつけてください。 | 子どもの関心に合わせた体験活動や社会活動の充実 「放課後児童育成事業」や「青少年を育む地域の環境づくり」において、体験活動プログラム等の充実を図る。 |
| 問43 | 自分の家や学校以外で、楽しく過ごせる場所に○をつけてください。 | 子どもの志向に合わせた居場所の充実 自宅や学校とは違う第3の場（サード・プレイス）の検討や、既存の居場所の充実、よりよい環境づくりにつなげる。 |
| 問44 | あなたは、横浜市がどのようなまちになってほしいと思いますか。 | 子どもの希望に合わせた政策の充実 子どもの意見を一層取り入れるべき政策分野を把握し、ニーズ反映につなげる。 |
| 問45 | あなたが、学校の授業以外で、新しいことを知ったり学んだりするのはどのようなときですか。 | 子ども向けの広報の充実 子どもがより多く触れるメディア・媒体を把握し、計画や子ども施策の効果的な広報につなげる。 |
| 問46 | あなたが、学校の先生や役所の人などの大人に伝えたいことがあれば、どのようなことでも良いので、教えてください。 | 自由な意見聴取と計画・施策への反映 子どもの自由な意見聴取を行うことで、子ども・子育て支援事業計画自体や、各施策等への反映につなげる。 |

13

10 子ども本人への質問について



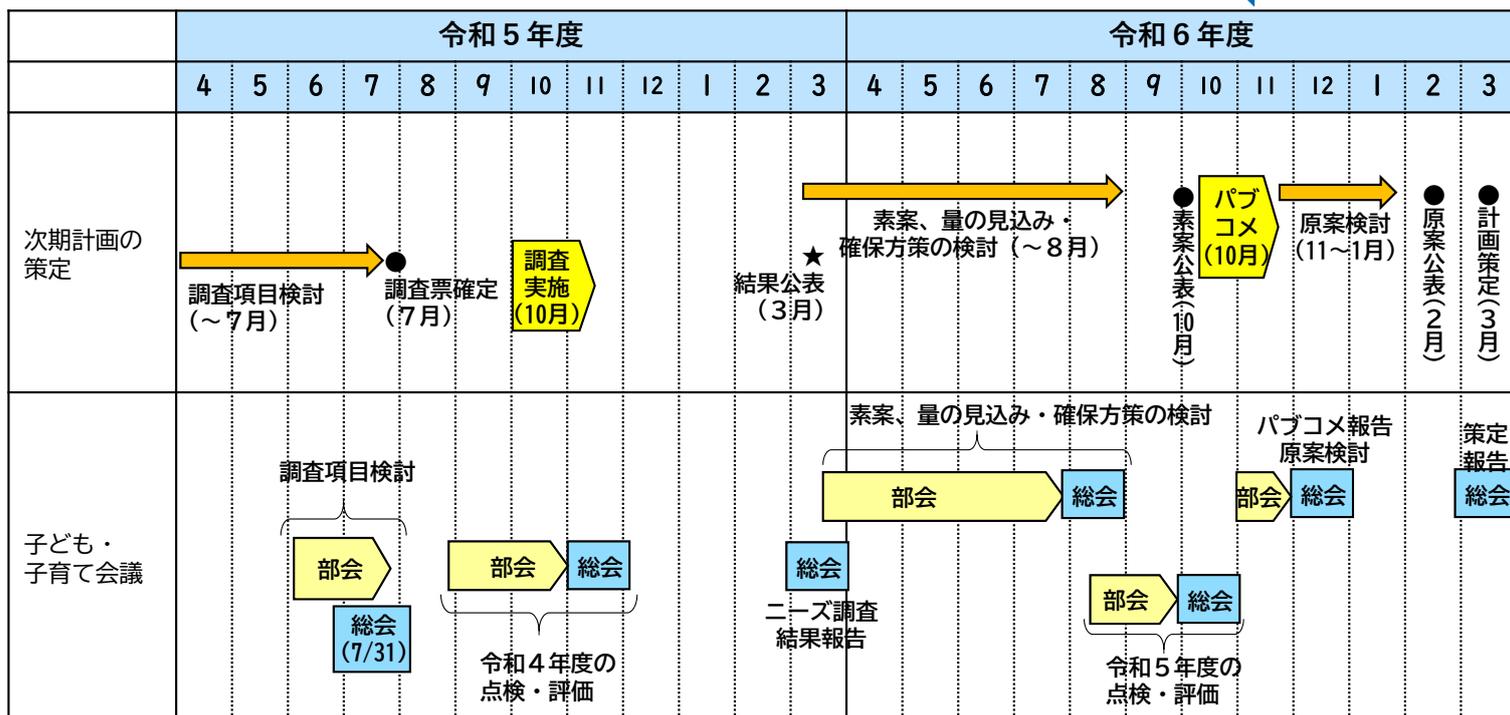
明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

(5) その他

- ・子どもの生活実態や心身の状況等については、「横浜市の子どもの生活実態調査」（令和2年度）結果を計画策定に活用します。
- ・こども基本法の趣旨を踏まえ、子どもの意見を施策に反映するため、ニーズ調査アンケートでの子ども自身への設問設定のほか、中高生等に対するヒアリング、事業利用者等へのアンケートや意見聴取についても実施し、これらの結果についても、計画策定に活かしていきます。

14

11 次期計画策定までのスケジュール



15



参考

子どもの意見を聞く取組について

- 趣旨
- こども基本法について
- 子ども等の意見反映に関する国の考え
- 令和5年度の実施内容
- 令和6年度以降の実施について

子どもの意見を聞く取組について【趣旨／こども基本法】



■ 趣旨

こども基本法の趣旨を踏まえ、横浜市の子ども施策の検討・実施にあたり、子どもの意見を施策に反映していくための取組（子どもの意見を聞く取組）を実施します。令和5年度は、「第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画」策定の参考のほか、こども青少年局事業の推進や支援の質向上等を目的として取り組めます。

■ こども基本法について

第3条

「こども施策は、次に掲げる事項を基本理念として行わなければならない。

（第3号）全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。」

第11条

「国及び地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。」

17

子どもの意見を聞く取組について【国の考え】



■ 子ども等の意見反映に関する国の考え

【こども基本法第11条関連】

こども基本法説明資料（内閣官房こども家庭庁設立準備室）より抜粋

こどもの意見を反映させるために必要な措置については、当該施策の目的等によって様々であると考えられますが、例えば、以下のような手法が想定されます。

- ①こどもや若者を対象としたパブリックコメントの実施
- ②審議会・懇談会等の委員等へのこどもや若者の参画の促進
- ③こどもや若者にとって身近なSNSを活用した意見聴取などこどもや若者から直接意見を聴く仕組みや場づくり

→本市では、令和5年度については、第3期子ども・子育て支援事業計画策定の参考とすること等を目的に、「③こどもや若者から直接意見を聴く仕組みや場づくり」を中心に取り組めます。

18

子どもの意見を聞く取組について【令和5年度の実施内容】



■ 令和5年度の実施内容

(1) 次期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査等

【こども基本法第11条関連→主に計画素案に反映】

(2) こども青少年局が実施する事業等の利用者へのアンケート・ヒアリング

【こども基本法第11条関連→主に計画素案・局事業推進に反映】

(3) 既存の枠組みの中での意見聴取

【こども基本法第3条関連→主に支援の質向上に反映】

19

子どもの意見を聞く取組について【令和5年度の実施内容】



(1) 次期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査等

【第11条関連→主に計画素案に反映】

① アンケート

【手法】 小学生調査の中で、子ども本人に向けた項目を設定

【対象】 小学生（4年生以上）

【時期】 10月

【内容】 ・学校がお休みの日にやりたいことは何ですか
・横浜市がどのようなまちになってほしいと思いますか 等

② ヒアリング

【手法】 青少年地域活動拠点、支援拠点「よこはまPort For」等を訪問

【対象】 利用者（元利用者を含む。中高生等） 【時期】 9～10月頃

【内容】 「子どもたちが安心して気軽に集い過ごすことができる居場所と

は」

「こんな支援があればよかったと思うこと」
などをテーマにヒアリング

20

子どもの意見を聞く取組について【令和5年度の実施内容】



(2) こども青少年局が実施する事業等の利用者へのアンケート・ヒアリング

【第11条関連→主に計画素案・局事業推進に反映】

- ① 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けたアンケート調査
【時期】 令和5年7月
【対象】 各クラブを利用している子ども
【調査内容】 クラブでの過ごし方、困ることや変えてほしいこと、満足度等
- ② 放課後等デイサービスに係る実態調査やヒアリング
【時期】 令和5年秋～冬頃
【対象】 放課後等デイサービス利用児童
【調査内容】 放課後等デイサービスのサービス内容等
- ③ 障害児入所施設利用児童の意見聴取
【時期】 随時
【対象】 障害児入所施設利用児童（主に高校生年代）
【調査内容】 18歳以降の生活への意向等

21

子どもの意見を聞く取組について【令和5年度の実施内容】



(2) こども青少年局が実施する事業等の利用者へのアンケート・ヒアリング（続き）

【第11条関連→主に計画素案・局事業推進に反映】

- ④ 社会的養護下で生活する児童の意見聴取（アンケート）
【時期】 令和5年度中
【対象】 児童養護施設等や里親家庭で生活する児童
- ⑤ 青少年相談センター利用満足度アンケート
- ⑥ 地域ユースプラザ利用満足度アンケート
【時期】 令和5年11～12月頃
【対象】 期間中に青少年相談センターや地域ユースプラザに来た利用者
【調査内容】 施設の利用状況や事業に対する意見等
- ⑦ 高校生の体験活動等に関するニーズ調査
【時期】 令和5年6～7月 【対象】 市立高等学校生徒
【調査内容】 放課後・休日の体験活動や施設の利用状況等

22

(2) こども青少年局が実施する事業等の利用者へのアンケート・ヒアリング（続き）

【第11条関連→主に計画素案・局事業推進に反映】

- ⑧ 青少年の地域活動拠点事業及び青少年の交流・活動支援事業利用者アンケート
【時期】 令和5年7月～ 【対象】 事業利用者
【調査内容】 事業の利用状況や事業に対する意見等

(3) 既存の枠組みの中での意見聴取

【第3条関連→主に支援の質向上に反映】

- ① 社会的養護下にある児童からの意見表明手段である「子どもの権利ノート」
② 児童相談所アドボケイト事業

■ 令和6年度以降の取組について

第3期子ども・子育て支援事業計画の素案に対して、子ども・若者を対象に意見を聴くなど、令和5年度の取組状況等を踏まえて検討していきます。

| 回答の対象 | | 通し 番号 | 問No. | 調査項目 ※R 5年7月26日時点 ※赤字は、新たな子育て支援施策につなげる調査項目 |
|-------|-----------|---------------------|-------|---|
| 全員 | 該当者 のみ | | | |
| 8 | 0 | 1 お子さんご家族の状況について | | |
| 1 | | 1 | 問1 | 居住区 |
| 1 | | 2 | 問2 | 子どもの生年月 |
| 1 | | 3 | 問3 | 子どもの人数、一番下の子の年齢 |
| 1 | | 4 | 問4 | アンケートの回答者 |
| 1 | | 5 | 問5 | 配偶関係 |
| 1 | | 6 | 問6 | 父親・母親の年齢 |
| 1 | | 7 | 問7 | 世帯の年収 |
| 1 | | 8 | 問8 | 赤ちゃんの世話経験の有無 |
| 2 | 6 | 2 保護者の就労状況について | | |
| 1 | | 9 | 問9 | 父親の就労状況 |
| | 1 | 10 | 問9-1 | (就労中の父親) 1週当たりの就労日数、就労時間、家を出る時間、帰宅時間 |
| | 1 | 11 | 問9-2 | (パート・アルバイト就労中の父親の) フルタイムへの転換希望 |
| | 1 | 12 | 問9-3 | (就労していない父親の) 就労希望、希望する就労形態 |
| 1 | | 13 | 問10 | 母親の就労状況 |
| | 1 | 14 | 問10-1 | (就労中の母親) 1週当たりの就労日数、就労時間、家を出る時間、帰宅時間 |
| | 1 | 15 | 問10-2 | (パート・アルバイト就労中の母親の) フルタイムへの転換希望 |
| | 1 | 16 | 問10-3 | (就労していない母親の) 就労希望、希望する就労形態 |
| 2 | 2 | 3 お子さんの発達、障害の状況について | | |
| 1 | | 17 | 問11 | 子どもの発達、障害に関する相談の有無 |
| | 1 | 18 | 問11-1 | (相談している場合) 発達、障害についての相談機関 |
| 1 | | 19 | 問12 | 子どもの発達に関して、医師の診断の有無 |
| | 1 | 20 | 問12-1 | (診断を受けている場合) 診断内容 |

| 回答の対象 | | 通し 番号 | 問No. | 調査項目 ※R 5年7月26日時点 ※赤字は、新たな子育て支援施策につなげる調査項目 | |
|-------|-----------|-------------------------------------|-------|--|--|
| 全員 | 該当者 のみ | | | | |
| 2 | 3 | 4 お子さんの日中の定期的な教育・保育事業の利用について | | | |
| 1 | | 21 | 問13 | 幼稚園や保育所などの「日中の定期的な教育・保育の事業」を利用状況 | |
| | 1 | 22 | 問13-1 | (利用している人の) 定期的に利用している教育・保育の事業 | |
| | 1 | 23 | 問13-2 | (利用している人の) 教育・保育の事業の利用日数、利用時間【現状、希望】 | |
| 1 | | 24 | 問14 | 平日の日中の教育・保育の事業として「定期的に」利用したいと考える事業 | |
| | 1 | 25 | 問14-1 | (保育所等の利用を希望かつ現在利用していない人の) 利用を開始したい時期 | |
| 1 | 2 | 5 お子さんの不規則の預かりや一時預かり等の利用について | | | |
| | 1 | 26 | 問15 | (幼稚園・認定こども園を定期的に利用したい人に) 幼稚園の一時預かりの利用意向、日数 | |
| 1 | | 27 | 問16 | 不規則の預かりや宿泊を伴う一時預かり等を利用したい日数 | |
| | 1 | 28 | 問17 | (一時預かり事業を利用したい人に) 一時預かり事業の利用を開始したい・しなかった時期 | |
| 0 | 4 | 6 お子さんの病気等の際の対応について | | | |
| | 1 | 29 | 問18 | (日中の定期的な教育・保育事業を利用している人に) この1年間に、病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無 | |
| | 1 | 30 | 問18-1 | (定期的な教育・保育の事業が利用できなかった人の) 1年間の対処方法と日数 | |
| | 1 | 31 | 問18-2 | (病児・病後児保育施設等を利用していない人に) できれば病児・病後児保育施設等を利用したかった日数 | |
| | 1 | 32 | 問18-3 | (病児・病後児保育を利用しなかった人に) 利用しなかった理由 | |
| 2 | 0 | 7 地域における子育て支援等について | | | |
| 1 | | 33 | 問19 | 「親子の居場所」の利用状況、利用日数、利用目的、利用希望日数 | |
| 1 | | 34 | 問20 | プレイパークの認知度、利用状況、今後の利用希望 | |
| 1 | 0 | 8 児童発達支援の利用について | | | |
| 1 | | 35 | 問21 | 児童発達支援の利用状況、今後の利用希望 | |
| 0 | 1 | 9 小学校就学後の放課後の過ごし方について | | | |
| | 1 | 36 | 問22 | (子どもが3歳以上の人に) 小学校で放課後過ごさせたい場所、日数 | |

| 回答の対象 | | 通し 番号 | 問No. | 調査項目 ※R 5年7月26日時点 ※赤字は、新たな子育て支援施策につなげる調査項目 | |
|-------|-----------|-------------------------------|-------|---|--|
| 全員 | 該当者 のみ | | | | |
| 1 | 6 | 10 育児休業など職場の両立支援制度について | | | |
| 1 | | 37 | 問23 | 父・母それぞれの育児休業を取得状況 | |
| | 1 | 38 | 問23-1 | (育児休業を取得していない人に) 取得していない理由 | |
| | 1 | 39 | 問24 | (育児休業を取得した人に) 育児休業取得後の職場復帰の状況 | |
| | 1 | 40 | 問24-1 | (育児休業を取得した人の) 育児休業からの復帰したタイミング(年度初めかどうか) | |
| | 1 | 41 | 問24-2 | (育児休業を取得した人の) 育児休業からの復帰時期(実際と希望) | |
| | 1 | 42 | 問24-3 | (育児休業からの復帰時期の実際と希望に違いがある人に) 育児休業からの復帰時期の実際と希望が違った理由 | |
| | 1 | 43 | 問25 | (育児休業を取得した人に) 1歳又は2歳に必ず預けることができる場合の保育所等の利用開始時期の希望 | |
| 21 | 3 | 11 妊娠・出産・子育て全般について | | | |
| 1 | | 44 | 問26 | 現在、お子さんの子育て(教育を含む)について、気軽に相談できる人 | |
| 1 | | 45 | 問27 | 現在、子育てに対する周囲からの支え(育児の手伝い)があるか | |
| 1 | | 46 | 問28 | 現在、お子さんを預かってもらえる親族・知人の有無 | |
| 1 | | 47 | 問29 | 日常の子育てを楽しく安心して行うために必要なサポートで、重要だと思うもの | |
| 1 | | 48 | 問30 | 子育てについて、不安を感じたり自信が持てなくなることがあるか(妊娠中、出産後、現在) | |
| 1 | | 49 | 問31 | 現在、子育てをされていて感じている困りごと | |
| 1 | | 50 | 問31-1 | 子育てに関する困りごとについて、相談したことはあるか | |
| | 1 | 51 | 問31-2 | (相談したことがある人に) 相談先 | |
| | 1 | 52 | 問31-3 | (相談したことがない人に) 相談したことがない理由 | |
| 1 | | 53 | 問32 | 子育てに関する困りごとに具体的に対応するために、相談しやすい相談先 | |
| 1 | | 54 | 問33 | 子どもの発育や健康状態に関する不安・疑問に対して「チャットでのオンライン相談」等の利用意向 | |
| 1 | | 55 | 問34 | 地域の子育て支援に関する情報の入手手段(第1子妊娠中と現在) | |
| 1 | | 56 | 問35 | 子育てをする上で、知りたい情報は何か。 | |
| 1 | | 57 | 問36 | 子育て支援に関するオンライン上での手続きの利用有無 | |
| | 1 | 58 | 問37 | (オンライン上での手続きをしたことない人に) 利用したことが無い理由 | |
| 1 | | 59 | 問38 | 子育て支援の電子化に関連して期待すること | |
| 1 | | 60 | 問39 | 横浜市に10年度も住んでいると思うか | |

| 回答の対象 | | 通し 番号 | 問No. | 調査項目 ※R 5年7月26日時点 ※赤字は、新たな子育て支援施策につなげる調査項目 |
|-----------|-----------|-----------|------------|---|
| 全員 | 該当者 のみ | | | |
| 1 | | 61 | 問40 | 現在の暮らしの状況 |
| 1 | | 62 | 問41 | 子育てをしていて、地域社会から見守られている、支えられていると感じるか |
| 1 | | 63 | 問42 | 現在、子育てをしていて、楽しさと大変さのどちらを感じる人が多いか |
| 1 | | 64 | 問43 | 子どもを育てている現在の生活の満足度 |
| 1 | | 65 | 問44 | これまでで、子育てをしてよかったこと、うれしかったこと |
| 1 | | 66 | 問45 | 子育て支援の充実に向けて望むこと |
| 1 | | 67 | 問46 | 自由記述 |
| 40 | 27 | | | |
| 67 | | | | |

【小学生調査】

| 回答の対象 | | 通し 番号 | 問No. | 調査項目 ※R 5年7月26日時点 ※赤字は、新たな子育て支援施策につなげる調査項目 | |
|-----------|-----------|----------------------------|-------|---|--|
| 全員 | 該当者のみ | | | | |
| 7 | 0 | 1 お子さんご家族の状況について | | | |
| 1 | | 1 | 問1 | 居住区 | |
| 1 | | 2 | 問2 | 子どもの学年 | |
| 1 | | 3 | 問3 | 子どもの人数、年齢区分ごとの人数 | |
| 1 | | 4 | 問4 | アンケートの回答者 | |
| 1 | | 5 | 問5 | 配偶関係 | |
| 1 | | 6 | 問6 | 父親・母親の年齢 | |
| 1 | | 7 | 問7 | 世帯の年収 | |
| 2 | 2 | 2 保護者の就労状況について | | | |
| 1 | | 8 | 問8 | 父親の就労状況 | |
| | 1 | 9 | 問8-1 | (就労中の父親) 1週当たりの就労日数、就労時間、家を出る時間、帰宅時間 | |
| 1 | | 10 | 問9 | 母親の就労状況 | |
| | 1 | 11 | 問9-1 | (就労中の母親) 1週当たりの就労日数、就労時間、家を出る時間、帰宅時間 | |
| 2 | 2 | 3 お子さんの発達、障害の状況について | | | |
| 1 | | 12 | 問10 | 子どもの発達、障害に関する相談の有無 | |
| | 1 | 13 | 問10-1 | (相談している場合) 発達、障害についての相談機関 | |
| 1 | | 14 | 問11 | 子どもの発達に関して、医師の診断の有無 | |
| | 1 | 15 | 問11-1 | (診断を受けている場合) 診断内容 | |
| 10 | 11 | 4 お子さんの放課後の過ごし方について | | | |
| 1 | | 16 | 問12 | 通常期(学校の長期休業中を除く)の放課後等の時間の過ごし方 | |
| 1 | | 17 | 問13 | 学校の長期休業中(夏休み、冬休み等)の放課後等の時間の過ごし方 | |
| 1 | | 18 | 問14 | 「放課後キッズクラブ」の利用状況、利用している・していない理由 | |
| | 1 | 19 | 問14-1 | (利用していない人に) 今後の利用希望 | |
| | 1 | 20 | 問14-2 | (利用している人に) 現在の利用時間(通常期、学校の長期休業中、土曜) | |
| | 1 | 21 | 問14-3 | (利用している人に) 現在の利用時間が希望通りであるか否か | |

| 回答の対象 | | 通し 番号 | 問No. | 調査項目 ※R 5年7月26日時点 ※赤字は、新たな子育て支援施策につなげる調査項目 |
|-----------|----------|----------------------------|------------|---|
| 全員 | 該当者のみ | | | |
| | 1 | 22 | 問14-4 | (利用時間が希望通りでない人に) 希望の利用時間(通常期、学校の長期休業中、土曜) |
| 1 | | 23 | 問15 | 「放課後キッズクラブ」に今後望むこと |
| 1 | | 24 | 問16 | 「放課後児童クラブ」の利用状況、利用している・していない理由 |
| | 1 | 25 | 問16-1 | (利用していない人に) 今後の利用希望 |
| | 1 | 26 | 問16-2 | (利用している人に) 利用時間、利用希望時間(通常期、学校の長期休業中、土曜) |
| | 1 | 27 | 問16-3 | (利用している人に) 現在の利用時間が希望通りであるか否か |
| | 1 | 28 | 問16-4 | (利用時間が希望通りでない人に) 希望の利用時間(通常期、学校の長期休業中、土曜) |
| 1 | | 29 | 問17 | 「放課後児童クラブ」に今後望むこと |
| 1 | | 30 | 問18 | 「民間企業等が運営する学童保育事業所」の利用状況 |
| | 1 | 31 | 問18-1 | (利用している人に) 利用時間(通常期、学校の長期休業中、土曜) |
| 1 | | 32 | 問19 | 「放課後等デイサービス」の利用状況、今後の利用希望 |
| | 1 | 33 | 問19-1 | (利用していない人に) 今後の利用希望 |
| 1 | | 34 | 問20 | 横浜子育てサポートシステムの認知度、今後の利用希望と利用したい日数 |
| 1 | | 35 | 問21 | プレイパークの認知度、利用状況、今後の利用希望 |
| | 1 | 36 | 問21-1 | (利用していない人に) 今後の利用希望 |
| 1 | 3 | 5 お子さんの病気等の際の対応について | | |
| 1 | | 37 | 問22 | この1年間に、病気やケガで登校できなかったことがあったか |
| | 1 | 38 | 問22-1 | (登校できなかった場合の) 1年間の対処方法と日数 |
| | 1 | 39 | 問22-2 | (病児・病後児保育施設等を利用していない人に) できれば病児・病後児保育施設等を利用したかった日数 |
| | 1 | 40 | 問22-3 | (病児・病後児保育を利用したかった人に) 利用しなかった理由 |
| 19 | 3 | 6 子育て全般について | | |
| 1 | | 41 | 問23 | 小学生が利用する場所を整備する際に、よく利用されるための機能 |
| 1 | | 42 | 問24 | 中高生世代が利用する場所を整備する際に、よく利用されるための機能 |
| 1 | | 43 | 問25 | お子さんの過去1年間の学校以外での体験の状況 |
| 1 | | 44 | 問26 | 現在、お子さんの子育て(教育を含む)について、気軽に相談できる人 |
| 1 | | 45 | 問27 | 現在、子育てをしていて感じている困りごと |

| 回答の対象 | | 通し 番号 | 問No. | 調査項目 ※R 5年7月26日時点 ※赤字は、新たな子育て支援施策につなげる調査項目 |
|-------|-------|---------------|-------|---|
| 全員 | 該当者のみ | | | |
| 1 | | 46 | 問27-1 | 子育てに関する困りごとについて、相談したことの有無 |
| | 1 | 47 | 問27-2 | (相談したことがある人に) 相談先 |
| | 1 | 48 | 問27-3 | (相談したことがない人に) 相談したことがない理由 |
| 1 | | 49 | 問28 | 子育てに関する困りごとに具体的に対応するために、相談しやすい相談先 |
| 1 | | 50 | 問29 | 子どもの発育や健康状態に関する不安・疑問に対して「チャットでのオンライン相談」等の利用意向 |
| 1 | | 51 | 問30 | 地域の子育て支援に関する情報の入手手段 |
| 1 | | 52 | 問31 | 子育てをする上で、知りたい情報は何か。 |
| 1 | | 53 | 問32 | 子育て支援に関するオンライン上での手続きの利用有無 |
| | 1 | 54 | 問33 | (オンライン上での手続きをしたことない人に) 利用したことが無い理由 |
| 1 | | 55 | 問34 | 子育て支援の電子化に関連して期待すること |
| 1 | | 56 | 問35 | 横浜市に10年度も住んでいると思うか |
| 1 | | 57 | 問36 | 現在の暮らしの状況 |
| 1 | | 58 | 問37 | 子育てをしていて、地域社会から見守られている、支えられていると感じるか |
| 1 | | 59 | 問38 | 子どもを育てている現在の生活の満足度 |
| 1 | | 60 | 問39 | 子育て支援の充実に向けて望むこと |
| 1 | | 61 | 問40 | 自由記述 |
| 1 | | 62 | 問41 | 子ども本人への質問への回答可否 |
| 0 | 5 | 7 お子さんご本人への質問 | | |
| | 1 | 63 | 問42 | 学校が休みの日にやりたいこと |
| | 1 | 64 | 問43 | 家や学校以外で楽しく過ごせる場所 |
| | 1 | 65 | 問44 | 横浜市がどのようなまちになってもらいたい |
| | 1 | 66 | 問45 | 学校の授業以外で、新しいことを知ったり学んだりする機会 |
| | 1 | 67 | 問46 | 自由記述 (大人に伝えたいこと) |
| 41 | 26 | | | |
| 67 | | | | |

横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた 利用ニーズ把握のための調査 <未就学児調査>

【調査票】

◆本アンケート調査について

- ・ご回答いただいた内容は、本アンケート調査の目的以外に使用することは一切ございません。
また、その内容によって個人を特定することもございません。

◆ご回答にあたってのお願い

- ・ご回答は、この調査票の封筒のあて名のお子さんの保護者の方をお願い申し上げます。
- ・本アンケート調査は、Web上でのインターネット回答と、この調査票に直接記入する回答方法があります。
- ※Web上でのインターネット回答かこの調査票のどちらか一方のみご回答ください。
設問数が多いため、インターネット回答を推奨します。

<Web上でのインターネット回答の場合>

右の二次元コードを読み取り、以下のログインID、PASSを入力し、
回答画面にアクセスしてください。

ID :

PASS :

※こちらのIDとPASSは回答画面にアクセスするためのものであり、個人を特定するものではありません。

<この調査票に直接記入する回答の場合>

調査票への記入は、黒または青のボールペン、万年筆、濃い鉛筆等をご使用ください。

調査にご協力いただけましたら、お手数ですが、

令和5年10月31日（火）までに

Web上でのインターネット回答 もしくは 同封の返信用封筒をご利用の上、
切手は貼らずにご投函ください。

◆お問合せ先

- ・アンケート調査に関わるご不明な点は、右の二次元コードを読み取り、
ご確認ください。お問合せについては、下記までご連絡ください。

<横浜市コールセンター（8時～21時、土日祝日含む毎日）>

電話：〇〇〇〇、ファックス：〇〇〇〇

※問合せ内容によっては、担当部署の横浜市こども青少年局企画調整課へ転送もしくは
おかけ直しをお願いすることがあります。

<担当部署>

横浜市こども青少年局企画調整課 生野・野口

電話：045-671-4281 E-Mail：kd-kikaku@city.yokohama.jp

目次（調査内容）

| | 頁 |
|------------------------------------|----|
| 1 お子さんご家族の状況について | 1 |
| 2 保護者の就労状況について | 2 |
| 3 お子さんの発達、障害の状況について | 5 |
| 4 お子さんの日中の定期的な教育・保育事業の利用について | 6 |
| 5 お子さんの不規則の預かりや一時預かり等の利用について | 10 |
| 6 あて名のお子さんの病気等の際の対応について | 11 |
| 7 地域における子育て支援等について | 13 |
| 8 児童発達支援の利用について | 15 |
| 9 小学校就学後の放課後の過ごし方について | 16 |
| 10 育児休業など職場の両立支援制度について | 18 |
| 11 妊娠・出産・子育て全般について | 21 |

1 あて名のお子さんご家族の状況について

問1 お住いの区はどこですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|---------|
| 1. 青葉区 | 2. 旭区 | 3. 泉区 | 4. 磯子区 | 5. 神奈川区 |
| 6. 金沢区 | 7. 港南区 | 8. 港北区 | 9. 栄区 | 10. 瀬谷区 |
| 11. 都筑区 | 12. 鶴見区 | 13. 戸塚区 | 14. 中区 | 15. 西区 |
| 16. 保土ヶ谷区 | 17. 緑区 | 18. 南区 | | |

問2 あて名のお子さんの生年月を伺います。

西暦 20 年 月生まれ

問3 あて名のお子さんを含めたお子さん人数は何人ですか。
また、一番下の子の年齢(令和5年4月1日時点)は何歳ですか。

お子さんの人数 人 一番下の子の年齢 歳

問4 アンケートにお答えいただく方を伺います。(あてはまる番号1つに○)

※あて名のお子さんからみた関係を回答してください。

1. 父親 2. 母親 3. その他 ()

問5 アンケートにお答えいただく方の配偶関係を伺います。(あてはまる番号1つに○)

1. 配偶者・パートナーがいる 2. 配偶者・パートナーはいない

問6 あて名のお子さんの父親、母親の年齢を伺います。

※ひとり親家庭の場合は、養育している親の年齢のみ回答してください。

【父親】 歳 【母親】 歳

問7 令和4年1年間の世帯全体の年間収入(税・社会保険料等控除前)を伺います。(あてはまる番号1つに○)

※ここでは、あなた以外の世帯員の収入も合計した金額を選択してください。

- | | | | |
|---------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 200万円未満 | 2. 200～299万円 | 3. 300～399万円 | 4. 400～499万円 |
| 5. 500～599万円 | 6. 600～699万円 | 7. 700～799万円 | 8. 800～899万円 |
| 9. 900～999万円 | 10. 1,000～1,249万円 | 11. 1,250～1,499万円 | 12. 1,500～1,999万円 |
| 13. 2,000万円以上 | | | |

問8 はじめてのお子さん生まれる前に、赤ちゃんのお世話をしたことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. ある 2. ない

2 あて名のお子さんの保護者の就労状況について

問9 父親の就労状況（自営業及びその家族従事者を含む）を伺います。（あてはまる番号1つに○）
 【母子家庭の場合は、回答不要です。問10にお進みください。】
 ※フルタイムは、1週5日程度・1日8時間程度の就労

- | | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない | } →問9-3にお進みください |
| 2. フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である | |
| 3. パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない | |
| 4. パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である | |
| 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない | |
| 6. これまで就労したことがない | |

問9-1 問9で「1～4」に○をつけた方に伺います。

1週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間（残業時間を含む）、家を出る時間、帰宅時間をお答えください。

※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンをお答えください。

※育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況をお答えください。

※自宅ですら就労している場合は、仕事を開始する時間、仕事を終了する時間をお答えください。

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----------------------|----------------------|------------|----------------------|----------------------|----|----------------------|----------------------|----------------------|---|----------------------|----------------------|---|
| 1週当たりの就労日数 | <input type="text"/> | 日 | 1日当たりの就労時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 | | | | |
| 家を出る時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 | 帰宅時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 |

【必ず24時間制でご記入ください。（例：午後6時半の場合は18時30分）】

問9-2 問9で「3・4」に○をつけた方に伺います。

フルタイムへの転換希望はありますか。（あてはまる番号1つに○）

- | |
|--|
| 1. 今年度中に、フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある |
| 2. 来年度中に、フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある |
| 3. フルタイムへの転換希望はあるが、具体的な予定や、実現できる見込みはない |
| 4. パート・アルバイト等の就労を続けることを希望 |
| 5. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい |

問9-3 問9で「5・6」に○をつけた方に伺います。

就労したいという希望はありますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1. 今年度中に、就労したい
- 2. 来年度中に、就労したい
- 3. 具体的な就労の見込みはないが、一番下の子どもが 歳になったころに就労したい
- 4. 子育てや家事に専念したい (就労の希望はない)

▶「1または2に○をつけた方」は**希望する就労形態**をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

- 1. フルタイム
- 2. パートタイム、アルバイト等

→1週当たり 日、1日当たり 時間

問10 **母親の就労状況** (自営業及びその家族従事者を含む) を伺います。(あてはまる番号1つに○)

【父子家庭の場合は、回答不要です。問11にお進みください。】

※フルタイムは、1週5日程度・1日8時間程度の就労

- 1. フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない
- 2. フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である
- 3. パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない
- 4. パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である
- 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
- 6. これまで就労したことがない

→問10-3にお進みください

問10-1 問10で「1~4」に○をつけた方に伺います。

1週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間 (残業時間を含む)、家を出る時間、帰宅時間をお答えください。

※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンをお答えください。

※育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況をお答えください。

※自宅で就労している場合は、仕事を開始する時間、仕事を終了する時間をお答えください。

1週当たりの就労日数 日 1日当たりの就労時間 時間 分

家を出る時間 時 分 帰宅時間 時 分

【必ず24時間制でご記入ください。(例：午後6時半の場合は18時30分)】

問 10-2 問 10 で「3・4」に○をつけた方に伺います。

フルタイムへの転換希望はありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

1. 今年度中に、フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
2. 来年度中に、フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
3. フルタイムへの転換希望はあるが、具体的な予定や、実現できる見込みはない
4. パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
5. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

問 10-3 問 10 で「5・6」に○をつけた方に伺います。

就労したいという希望はありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

1. 今年度中に、就労したい
2. 来年度中に、就労したい
3. 具体的な就労の見込みはないが、一番下の子どもが 歳になったころに就労したい
4. 子育てや家事に専念したい (就労の希望はない)

→「1 または 2 に○をつけた方」は**希望する就労形態**をお答えください。(あてはまる番号 1 つに○)

1. フルタイム
2. パートタイム、アルバイト等

→ 1 週当たり 日、1 日当たり 時間

3 あて名のお子さんの発達、障害の状況について

問 11 これまでお子さんの発達や障害に関して、どこかに相談したことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1. ある | 2. ない →問 12 にお進みください。 |
|-------|-----------------------|

問 11-1 問 11 で「1」に○をつけた方に伺います。
これまで相談した、もしくは相談している地域の相談機関はどちらですか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|---------------------------|---|-------------|
| 1. 区役所 | 2. 児童相談所 | 3. 地域療育センター |
| 4. 地域活動ホーム・ 基幹相談支援センター | 5. かかりつけの医師 | 6. 児童発達支援 |
| 7. 障害児相談支援事業所 | 8. その他 () (例)地域子育て支援拠点、地域訓練会、保育園や幼稚園等 | |

問 12 これまでお子さん発達に関して、何らかの医師の診断を受けたことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

- | |
|-----------------------|
| 1. ある |
| 2. ない →問 13 にお進みください。 |

問 12-1 問 12 で「1」に○をつけた方に伺います。
それはどんな診断ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 身体障害 | 2. 知的障害 | 3. 発達障害 |
| 4. 医療的ケア | 5. その他 | |

身体障害…視覚障害、聴覚障害・平衡機能障害、音声・言語障害(咀嚼障害を含む)、肢体不自由、心臓・腎臓等の内部障害の5種類に関する診断が該当します。
(診断の結果、身体障害者手帳を所有している方が該当します。)

知的障害…知的機能の障害が発達期(おおむね18歳まで)にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にある診断が該当します。
(診断の結果、愛の手帳(療育手帳)を所有している方が該当します。)

発達障害…自閉スペクトラム症(自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害)、限局性学習症(学習障害)、注意欠陥・多動症(注意欠陥多動性障害)等の診断が該当します。

医療的ケア…人工呼吸器による呼吸管理、喀痰(かくたん)吸引その他の医療行為をいい、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケアを受けることが不可欠である児童が該当します。

その他…「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」に定める難病等の診断が該当します。

4 あて名のお子さんの日中の定期的な教育・保育事業の利用について

※「日中の定期的な教育・保育事業」とは、年間を通じて定期的に利用している事業を指します。

問 13-1 の選択肢以外の一時保育・一時預かり等の名称の事業については、高い頻度で利用している場合でも問 15～問 17 でご回答ください。

問 13 あて名のおさんは現在、幼稚園や保育所などの「日中の定期的な教育・保育の事業」を利用していますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 利用している |
| 2. 利用していない →問 14 にお進みください。 |

問 13-1 問 13 で「1」に○をつけた方に伺います。
年間を通じて「定期的に」利用している教育・保育の事業をお答えください。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1. 幼稚園 (教育時間の利用) | 2. 私立幼稚園等預かり保育事業(横浜市型預かり保育) (就労等の理由により、教育時間の前後に在園児を定期的に預かる事業) |
| 3. 認可保育所(公立含む) (国が定める基準に適合した保育施設) | 4. 認定こども園 (幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設) |
| 5. 小規模保育事業・家庭的保育事業・事業所内保育事業 (国が定める基準に適合した、少人数または会社や事業所内での保育事業) | 6. 企業主導型保育事業 (企業が主に従業員用に運営する施設) |
| 7. 横浜保育室 (一定の基準(面積、職員配置等)を満たし、横浜市が独自に認定した認可外保育施設) | 8. その他の認可外保育施設 |
| 9. 居宅訪問型保育 (ベビーシッター: 保育者が子どもの家庭で保育する事業) | 10. 地域療育センター (小学校期までの障害児の療育に関する相談・診療等を行っている施設) |
| 11. 児童発達支援 (主に未就学児を対象とした障害児通所支援事業所) | 12. その他() |

問 14 **現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの「日中の定期的な教育・保育の事業」で利用したいと考える事業**をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)
 ※回答にあたっては、「ご家庭の状況」や「事業の内容」等を総合的に判断してお答えください。
 ※これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生する場合があります。必ず、「事業の内容と利用料」をご確認ください。

| | |
|----------|--|
| < 幼稚園等 > | |
| 1. | 幼稚園 (教育時間の利用) |
| 2. | 認定こども園<教育利用> (幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設。保育の必要性によらず、3歳児以上のお子さんに幼児教育を提供) |
| 3. | 幼稚園・認定こども園の長時間預かり保育 (私立幼稚園等預かり保育事業(横浜市型預かり保育)) (就労等の理由により、教育時間の前後に在園児を定期的に預かる事業) |
| 4. | 私立幼稚園2歳児受入れ推進事業 (就労等の理由により、長時間保育が必要な2歳児を幼稚園で受入れる事業) |
| < 保育所等 > | |
| 5. | 認可保育所(公立含む) (国が定める基準に適合した保育施設) |
| 6. | 認定こども園<保育利用> (幼稚園と保育施設の機能をあわせ持つ施設。教育時間に加えて保育時間が設けられており、一日を通して、保護者が就労などで日中家庭で保育できないお子さんに保育を提供) |
| 7. | 小規模保育事業・家庭的保育事業・事業所内保育事業 (国が定める基準に適合した、少人数または会社や事業所内での保育事業) |
| 8. | 企業主導型保育事業 (企業が主に従業員用に運営する施設) |
| 9. | 横浜保育室 (一定の基準(面積、職員配置等)を満たし、横浜市が独自に認定した認可外保育施設) |
| 10. | その他認可外の保育施設 |
| 11. | 居宅訪問型保育 (ベビーシッター:保育者が子どもの家庭で保育する事業) |
| 12. | 地域療育センター (小学校期までの障害児の療育に関する相談・診療等を行っている施設) |
| 13. | 児童発達支援 (主に未就学児を対象とした障害児通所支援事業所) |
| 14. | その他 () |

問 14-1 問 14 で「4～11」と回答し、かつ回答した事業を**現在利用していない方**に伺います。
その事業の利用開始を希望する時期を教えてください。(あてはまる番号1つに○)
 ※「4～11」のうち複数の事業に○をつけた方は、開始時期の希望が最も早い事業についてお答えください。

| | |
|-------------------|------------------|
| 1. 今年度中に利用開始したい | 2. 来年度以降に利用開始したい |
| 3. 利用開始時期はまだわからない | |

前ページの各事業の概要（別紙「事業の内容と利用料から抜粋」） ※このページに質問はありません。

| 名称 | 内容と利用料（令和5年4月1日現在） |
|--------------------------|---|
| 幼稚園 | <ul style="list-style-type: none"> ・3歳から就学前までを対象に幼児教育を行う学校教育法に基づく教育施設です。幼稚園の教育時間は主に9時から14時までで、教育時間の前後に預かり保育を行う園もあります。 ・利用料：子ども・子育て支援新制度における給付対象に移行した幼稚園：0円 それ以外の幼稚園：利用料は園ごとに異なりますが、毎月25,700円を上限に無償 |
| 認定こども園 ＜教育利用＞ | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と保育所の機能や特徴をあわせ持った施設です。保育の必要性によらず、3歳児以上のお子さんに幼児教育を提供しています。 ・利用料：0円 |
| 幼稚園・認定こども園の長時間預かり保育 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・認定こども園＜教育利用＞の教育時間の前後に、保育を必要とする在園児を長時間預かる事業です。横浜市から認定を受けた園で実施しています。平日は教育時間を含め7時30分から18時30分まで利用でき、夏休みなどの長期休業期間も対応しています。 ・利用料：＜3～5歳児＞0円 ＜満3歳児＞0円～9,000円 |
| 私立幼稚園2歳児受入れ推進事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育を必要とする2歳児を対象に、幼稚園で長時間の受入れを実施する事業です。 ・利用料：実施園が設定（上限あり） |
| 認可保育所 （公立含む） | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が就労などで日中家庭で保育できないお子さんを、保護者に代わって保育する施設です。 ・利用料：＜3～5歳児クラス＞0円 ＜0～2歳児クラス＞0円～77,500円/月（市民税非課税世帯は無償） |
| 認定こども園 ＜保育利用＞ | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と保育所の機能や特徴をあわせ持った施設です。教育時間に加えて保育時間が設けられており、一日を通して、保護者が就労などで日中家庭で保育できないお子さんに保育を提供しています。 ・利用料：＜3～5歳児クラス＞0円 ＜0～2歳児クラス＞0円～77,500円/月（市民税非課税世帯は無償） |
| 小規模保育事業・家庭的保育事業・事業所内保育事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が就労などで日中家庭で保育できないお子さんを、保護者に代わって保育する事業です。対象は0～2歳児のお子さんです。 【小規模保育事業】 低年齢児に特化した定員が比較的小さな施設です（6～19人）。 【家庭的保育事業】 家庭的保育者が家庭的な雰囲気の中で保育を行う事業です（3～5人）。 【事業所内保育事業】 会社や事業所の保育施設などで、従業員のお子さんと一緒に保育を行う事業です。 ・利用料：0円～58,100円/月（市民税非課税世帯は無償） |
| 企業主導型保育事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業や病院などが、従業員のために設置した認可外の保育施設です。 ・利用料：各施設が自由に設定 |
| 横浜保育室 | <ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所ではありませんが、横浜市が独自に設けた基準を満たしており、市が認定し、運営に対して助成を行なっている施設です。0～2歳のお子さんを対象としています。 ・利用料：58,100円/月を上限に各施設で設定 |
| その他の認可外保育施設 | <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市による設置認可を受けていない保育施設の総称です。 ・利用料：各施設が自由に設定 |
| 居宅訪問型保育 （ベビーシッター） | <ul style="list-style-type: none"> ・ベビーシッターのように保育者が子どもの家庭で保育するものです。 ・利用料：各事業者が自由に設定 |
| 地域療育センター | <ul style="list-style-type: none"> ・0歳から小学校期までの、心身に障害のあるまたはその可能性のあるお子さん及びその家族を対象に、療育に関する相談、診療・評価、集団療育を行います。 ・利用料：利用費用の一割を負担（所得により上限額あり） |
| 児童発達支援 （障害児通所） | <ul style="list-style-type: none"> ・主に未就学の障害児に対し、集団生活への適応や、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供する事業です。 ・利用料：利用費用の一割を負担（所得により上限額あり） |

5 あて名のお子さんの不定期の預かりや宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 15 幼稚園、認定こども園＜教育利用＞を定期的にご利用したいと考える方（問 14 で「1・2」に○をつけた方）に伺います。

幼稚園・認定こども園では、在園児を対象に、保護者の急な用事やリフレッシュなど、理由を問わず利用できる一時預かり保育を実施している場合がありますが、利用したいですか。

（あてはまる番号 1 つに○）。※原則、保育・教育の無償化の対象ではありません。

| |
|--|
| 1. 利用したい ⇒ 年間 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日程度 |
| 2. 利用したくない |

問 16 不定期の預かりや宿泊を伴う一時預かり等(※1)を利用したい日数について伺います。

あて名のお子さんについて、これからの 1 年間の見込みについて回答してください。

※1…不定期の預かりや宿泊を伴う一時預かり等とは、パートタイム就労やアルバイトなどの不定期の就労、冠婚葬祭、親の通院、リフレッシュ等の理由で、一時的にお子さんを預けることです。

※各事業の詳細は別紙「事業の内容と利用料」をご確認いただき、ご回答ください。

※利用する必要が無い場合「0」と記載してください。

(1) 不定期の預かりや宿泊を伴う一時預かり等を利用したい日数

| |
|--|
| 年間で利用したい日数をご回答ください。 |
| 年 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |

(2) 各事業ごとの利用したい日数 ※ (1) の内訳

| 事業名 | 年間で利用したい日数をご回答ください。 |
|--|--|
| ①保育所等での一時保育・一時預かり 原則利用料及び給食代などが発生します。 ・ 3 歳児未満 300～500 円/1 時間 ・ 3 歳児以上 160～500 円/1 時間 | 年 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| ②24 時間型緊急一時保育（夜間・宿泊も含め、緊急に子どもを預かる事業） 原則利用料及び給食代などが発生します。 ・ 0～1 歳児 600～700 円/1 時間 ・ 2～3 歳児 500～600 円/1 時間 ・ 4 歳児以上 400～500 円/1 時間 | 年 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| ③休日一時保育（日曜・祝日の日中に、不定期に子どもを預かる事業） 原則利用料及び給食代などが発生します。 ・ 3 歳児未満 420 円/1 時間、 ・ 3 歳児以上 230 円/1 時間 | 年 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| ④横浜子育てサポートシステム（地域住民がそれぞれ会員登録を行い、会員間で子どもの預け・預かりを行う事業） | 年 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |

※問 18-2 と問 18-3 は、問 18-1 で「1・3・4・7・8」のいずれかに○をつけた方に伺います。

問 18-2 「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったことはありますか。また、利用したいと思った日数をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

※病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかります。また、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

- | |
|--|
| 1. できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したかった →年間 <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| 2. 利用したいと思わなかった |

問 18-3 病児・病後児保育を利用しなかった理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 病児・病後児保育を知らなかった | 2. 利用手続きが面倒だった |
| 3. 予約が取れなかった | 4. 立地がよくない・近くにない |
| 5. 利用可能時間・曜日が合わなかった | 6. 利用料がかかる・高い |
| 7. 自分たちで見たかった | 8. その他 () |
| 9. 特に理由はない | |

7 地域における子育て支援等について

親子の居場所事業(※1)について伺います。

※1…親子の居場所とは：主に就学前の子どもとその保護者(妊娠期を含みます。)を対象とした施設・事業で、
①地域子育て支援拠点、②親と子のつどいの広場、③認定こども園及び保育所子育てひろば、④私立幼稚園等はまっ子広場、⑤子育て支援者事業の5つの事業の総称です。
 親子が気軽につどい、親子同士の交流や、子育てに関する相談・情報提供等を行っています。
 (各事業内容については、別紙も合わせてご確認ください。)

問 19 「親子の居場所」について、現在の利用有無・利用回数・利用目的等を伺います。

(1) 親子の居場所を利用していますか。(あてはまる番号に1つに○)

| |
|--------------------------------------|
| 1. 利用している → (2) にお進みください。 |
| 2. 利用していない/過去に利用していた → (3) にお進みください。 |

(2) (1) で「1」に○をつけた方にお聞きします。

※ひと月あたりの利用日数が1日より少ない場合は、年間の日数をお答えください。

| | |
|--|--|
| ①現在のおおよその利用日数をお答えください。 | 月 <input type="text"/> <input type="text"/> 日 または 年 <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| ②利用目的・理由をお答えください。(あてはまる番号すべてに○) | |
| 1. 保護者同士の交流 | 2. 子どもの遊び、子ども同士の交流 |
| 3. 子育ての悩みの相談 | 4. 子育てに関する情報収集 |
| 5. 子育てに関する施設、事業の利用方法を相談 | 6. 子育てに関するイベント、研修会への参加 |
| 7. 横浜子育てサポートシステムの利用 | 8. 地域でのつながり作りのため |
| 9. その他 () | |
| ③利用日数を増やしたいと思いませんか。 (あてはまる番号に○をして、利用日数を増やした場合のひと月あたりの利用日数をご回答ください。) | 1. 今後利用日数を増やしたい 月 <input type="text"/> <input type="text"/> 日 または 年 <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| | 2. 利用日数を増やしたいとは思わない |

(3) (1) で「2」に○をつけた方にお聞きします。

※ひと月あたりの利用日数が1日より少ない場合は、年間の日数をお答えください。

| | |
|--|---|
| ①利用していない理由をお答えください。(あてはまる番号すべてに○) | |
| 1. 施設の内容や利用方法がわからない | 2. 施設がどこにあるかわからない |
| 3. 家から遠い | 4. 子どもが大きく室内では遊びづらい |
| 5. 施設が混んでいる | 6. 施設の雰囲気が合わない |
| 7. スタッフや他の利用者と馴染めるか不安 | 8. 料金がかかる・高い |
| 9. 保育所や幼稚園などに通っている | 10. 忙しくて利用する時間がない |
| 11. 特に利用する必要を感じない | 12. その他 () |
| ②今後利用したいと思いませんか。 (あてはまる番号に○をして、利用したいおおよその日数をご回答ください。) | 1. 今後利用したい 月 <input type="text"/> <input type="text"/> 日 または 年 <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| | 2. 利用したいと思わない |

9 あて名のお子さんが3歳以上の方に、小学校就学後の放課後の過ごし方について

問 22 あて名のお子さんが、3歳以上の方にお伺いします。

あて名のお子さんが小学生になったときの、放課後（平日の小学校終了後（夏休み等長期休業含む）の過ごし方についてお答えください。

また、「4. 放課後キッズクラブ」に○をつけた場合は、16時以降の利用希望をお答えください。

※4～7の各事業の内容は次ページ参照。

| 放課後の過ごし方 (あてはまる番号すべてに○) | 日数 |
|------------------------------|------------------------------|
| 1. 自宅 | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 2. 親戚・友人等宅 | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など） | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 4. 放課後キッズクラブ（小学校施設を使った放課後事業） | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 5. 放課後児童クラブ | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 6. 民間企業等が運営する学童保育事業所 | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 7. 放課後等デイサービス | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 8. その他 | 週 <input type="checkbox"/> 日 |
| 9. 現時点ではわからない | |

16時以降の利用希望の有無
(あてはまる番号に1つ○)

※16時以降も利用するためには、お子さんが帰宅する時間帯に保護者が就労等でいないこと、利用料を支払うことが必要です。

1. 希望する

2. 希望しない

| 名称 | 内容と利用料（令和5年4月1日現在） | | | | |
|-----------------------------------|--|---------------------------|--|--------------------|--------------------|
| 放課後キッズクラブ （小学校施設を 使った放課後事業） | <ul style="list-style-type: none"> 就労等で昼間保護者がいない子どもたちをはじめとする、すべての子どもたちを対象に、小学校施設を活用して「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所を一体的に提供する事業です。 | | | | |
| | 利用区分 | | わくわく 【区分1】 | すくすく【区分2】 | |
| | | | | ゆうやけ【A】 | ほしぞら【B】 |
| | 対象児童 | | 当該実施校に通学している小学生又は当該小学校区内に居住する私立学校等に通学する小学生 | | |
| | | | すべての児童 | 留守家庭児童 | |
| | 利用時間 | 平日 | 放課後～ 午後4時まで | 放課後～ 午後5時まで | 放課後～ 午後7時まで |
| | | 土曜日 | なし | 午前8時30分～ 午後5時まで | 午前8時30分～ 午後7時まで |
| | | 学校休業日 （長期休業日等） | 各クラブが指定 する時間のうち 2時間程度 | 午前8時～ 午後5時まで | 午前8時～ 午後7時まで |
| 利用料 | 月額 （7,8月を除く） | 無料 | 2,000円＋ おやつ代 | 5,000円＋ おやつ代 | |
| | 月額 （7,8月） | 無料 | 2,500円＋ おやつ代 | 5,500円＋ おやつ代 | |
| | 1回利用 （午後7時まで） | 800円＋ おやつ代 | 400円 （午後5時以降も 利用する場合） | — | |
| 保険加入料 | | 年額800円以下 ※クラブによって異なります | | | |
| 放課後児童クラブ | <ul style="list-style-type: none"> 就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象に、保護者や地域のNPO法人などが安全で豊かな放課後の居場所を提供する事業です。 対象児童： 主に就労等で昼間保護者が不在の小学生（留守家庭児童等） 開所時間： 平日：放課後～午後7時 （クラブによっては午後7時以降も開所しています。） 土曜・長期休業日：午前9時～午後7時 （クラブによっては午前9時以前及び午後7時以降も開所しています。） 利用料：月額平均17,000円（おやつ代は別途） ※令和4年4月1日現在 | | | | |
| 民間企業等が運営する学童保育事業所 | <ul style="list-style-type: none"> 一般的に、預かり時間の長さや多彩な活動プログラムの実施などを特徴とする、民間企業等が運営する事業所です。 （利用にあたって保護者の就労状況等を問わない事業所もあります。） <p>※開所時間や利用料は施設によって異なります。（横浜市からの補助は受けていません。）</p> | | | | |
| 放課後等 デイサービス | <ul style="list-style-type: none"> 学校通学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所を提供することを目的とした事業です。 利用料：利用費用の一割を負担（所得により上限額あり） | | | | |

10 すべての方に、育児休業など職場の両立支援制度について

問 23 あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。取得した場合や取得中である場合はその日数をお答えください。

※育児休業を分割して取得された方は、合計の日数をお答えください。

※「産後パパ育休（出生児育児休業）」を取得された場合は、その日数を含めてお答えください。

| 父親（あてはまる番号1つに○） | |
|-----------------|--|
| 1. 取得した（取得中である） | →取得日数 約 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| 2. 取得していない | |
| 3. 働いていなかった | |

| 母親（あてはまる番号1つに○） | |
|-----------------|--|
| 1. 取得した（取得中である） | →取得日数 約 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| 2. 取得していない | |
| 3. 働いていなかった | |

問 23-1 問 23 で、「2」に○をつけた方に伺います。

育児休業を取得していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

| 父親 | 母親 | 理由 |
|----|----|--|
| 1 | 1 | 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった |
| 2 | 2 | 仕事が忙しかった |
| 3 | 3 | （産休後に）仕事に早く復帰したかった |
| 4 | 4 | 仕事に戻るのが難しそうだった |
| 5 | 5 | 昇給・昇格などが遅れそうだった |
| 6 | 6 | 収入減となり、経済的に苦しくなる |
| 7 | 7 | 保育所（園）などに預けることができた |
| 8 | 8 | 配偶者が育児休業制度を利用した |
| 9 | 9 | 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった |
| 10 | 10 | 子育てや家事に専念するため退職した |
| 11 | 11 | 職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった |
| 12 | 12 | 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった |
| 13 | 13 | 育児休業を取得できることを知らなかった |
| 14 | 14 | その他 |

問 24 育児休業を取得した方（問 23 で「1」に○をつけた方）に伺います。

育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（あてはまる番号1つに○）

※職場復帰についての設問は、育児休業を分割して取得した（取得する）場合、最終的な職場復帰についてお答えください。

※ごきょうだいの育児休業は含めず、あて名のお子さんの育児休業についてのみお答えください。

(1) 父親

| | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. 育児休業取得後、職場に復帰した | 2. 一時的に職場に戻っているが、再度取得予定である |
| 3. 現在も育児休業中である | 4. 育児休業中に離職した |

(2) 母親

| | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. 育児休業取得後、職場に復帰した | 2. 一時的に職場に戻っているが、再度取得予定である |
| 3. 現在も育児休業中である | 4. 育児休業中に離職した |

問 24-1 問 24 で「1」に○をつけた方に伺います。

育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（あてはまる番号1つに○）

※年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合なども「1」に当てはまります。また、年度初めでの入所を希望して復帰したが、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1」を選択してください。

(1) 父親

| | |
|-------------------------|------------|
| 1. 年度初めの入所に合わせたタイミングだった | 2. それ以外だった |
|-------------------------|------------|

(2) 母親

| | |
|-------------------------|------------|
| 1. 年度初めの入所に合わせたタイミングだった | 2. それ以外だった |
|-------------------------|------------|

問 24-2 問 24 で「1」に○をつけた方に伺います。

育児休業から「実際」に職場復帰した時期と、いつまで育児休業を取得することを「希望」していたか、それぞれお答えください。

(1) 父親

| | |
|-----------|---|
| 実際 | あて名のお子さんが <input type="text"/> 歳 <input type="text"/> <input type="text"/> か月 |
| 希望 | あて名のお子さんが <input type="text"/> 歳 <input type="text"/> <input type="text"/> か月 |

(2) 母親

| | |
|-----------|---|
| 実際 | あて名のお子さんが <input type="text"/> 歳 <input type="text"/> <input type="text"/> か月 |
| 希望 | あて名のお子さんが <input type="text"/> 歳 <input type="text"/> <input type="text"/> か月 |

問 24-3 問 24-2 で**職場復帰時期の実際と希望に違いがあった方に伺います。その理由**を教えてください。
 (それぞれ、あてはまる番号すべてに○)

(1) 父親

| 希望より 早く 職場復帰した場合の理由 | 希望より 遅く 職場復帰した場合の理由 |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 希望する保育所に入るため | 1. 希望する保育所に入れなかったため |
| 2. 配偶者や家族の希望があったため | 2. 自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため |
| 3. 経済的な理由で早く復帰する必要があったため | 3. 配偶者や家族の希望があったため |
| 4. 人事異動の時期に合わせるため | 4. 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため |
| 5. 勤め先の育児休業の制度で期間が決められていたため | 5. 子どもをみってくれる人がいなかったため |
| 6. 新型コロナウイルス感染症の影響 | 6. 新型コロナウイルス感染症の影響 |
| 7. その他 () | 7. その他 () |

(2) 母親

| 希望より 早く 職場復帰した場合の理由 | 希望より 遅く 職場復帰した場合の理由 |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 希望する保育所に入るため | 1. 希望する保育所に入れなかったため |
| 2. 配偶者や家族の希望があったため | 2. 自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため |
| 3. 経済的な理由で早く復帰する必要があったため | 3. 配偶者や家族の希望があったため |
| 4. 人事異動の時期に合わせるため | 4. 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため |
| 5. 勤め先の育児休業の制度で期間が決められていたため | 5. 子どもをみってくれる人がいなかったため |
| 6. 新型コロナウイルス感染症の影響 | 6. 新型コロナウイルス感染症の影響 |
| 7. その他 () | 7. その他 () |

問 25 育児休業を取得した方(問 23 で「1」に○をつけた方)に伺います。

あて名のお子さんが**1歳や2歳になったときに確実に預けられる保育所等がある場合、何歳児クラスからお子さんを保育所等に入れたかった(入れたい)ですか。**

| | |
|-----------|----------------------|
| 1. 0歳児クラス | 2. 1歳児クラス |
| 3. 2歳児クラス | 4. 3歳児クラス以上 |
| 5. わからない | 6. 保育所等を利用していない(しない) |

問 30 妊娠中から現在までで、子育てについて、不安を感じたり自信が持てなくなることがありますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

| | よくあつた | 時々あつた | なほ かと つた ど | な か つ た |
|---------------|-------|-------|---------------------|------------------|
| ① 妊娠中 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 出産後、半年くらいの間 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 現在 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 31 現在、子育てをしていて感じている困りごとは何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

| | | |
|--------------------------|---------------------|-------------------|
| 1. 子どもの食事（アレルギーや偏食、卒乳など） | 2. 子どもとの過ごし方・遊び方 | 3. 子どもの健康 |
| 4. 子どもの発達・発育 | 5. 夫婦での子育ての分担 | 6. 夫婦での子育ての考え方の違い |
| 7. 家事の負担 | 8. 子どものしかり方・しつけ | 9. 子どもの教育 |
| 10. 子どものネットやゲームとの付き合い方 | 11. 子育ての心理的・身体的な負担 | 12. 経済的な負担 |
| 13. 自分自身の病気や障害 | 14. 家族の病気や障害 | 15. 仕事との両立 |
| 16. 介護との両立 | 17. 子育てに対する周囲の理解の不足 | 18. その他（ ） |
| 19. 特にない →問 32 にお進みください | | |

問 31-1 問 31 で感じている子育てに関する困りごとについて、相談したことはありますか。
 (あてはまる番号1つに○)

| |
|--------------------------------|
| 1. ある →問 31-2 の後、問 32 にお進みください |
| 2. ない →問 31-3 にお進みください |

問 31-2 相談したことがある方は、どこに相談しましたか。(電話でも来所でもどちらでも可)

(あてはまる番号すべてに○)

| | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 2. 親やきょうだいなどの親族 |
| 3. 友人や知人 | 4. 近所の人 |
| 5. 地域子育て支援拠点の横浜子育てパートナー | 6. 地域子育て支援拠点・親と子のつどいの広場等のスタッフ・子育て支援者 |
| 7. 子どもが通う幼稚園、保育所等の先生 | 8. 地域の幼稚園、保育所等(子育て相談) |
| 9. 民生委員・児童委員・主任児童委員 | 10. 区役所の子育て相談 |
| 11. 電話児童相談室 | 12. 児童家庭支援センター |
| 13. 児童相談所 | 14. かかりつけの医師 |
| 15. 地域療育センター | 16. 障害児相談支援事業所 |
| 17. 児童発達支援 | 18. 医療的ケア児・者等コーディネーター |
| 19. 地域活動ホーム・基幹相談支援センター | 20. その他() (例)地域訓練会等 |

問 31-3 相談したことがない方は、その理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 相談するほどのことでもないと思うから | 2. 相談することが恥ずかしい |
| 3. (施設や機関など) 相談の時間が合わない | 4. 自分が忙しい |
| 5. 相談場所が遠い | 6. 適切な相談先がない |
| 7. 相談したことの秘密が守られるか不安 | 8. 相談先自体を知らない |
| 9. その他() | |

問 32 子育てに関する困りごとに具体的に対応するために、どのような相談先があれば相談しやすいですか。

(あてはまる番号すべてに○)

| |
|--|
| 1. 地域子育て支援拠点など地域の人が集える身近な場所での気軽な相談 |
| 2. 区役所や市役所において、子育ての専門職(保健師や助産師等)があらゆる困りごとに応じ、相談から支援までを一体的に行う窓口 |
| 3. 区役所や市役所の子育ての専門職(保健師や助産師等)が家庭に訪問して行う相談 |
| 4. 地域の子育て経験者による相談 |
| 5. 同じ悩みをもった子育て中の当事者同士の相談 |
| 6. 土日や夜間も対応できる子育ての専門職(保健師や助産師等)による相談 |
| 7. インターネットや SNS、メールでの相談 |
| 8. 子育てに関する情報の取得や相談ができるスマートフォンのアプリ |
| 9. その他() |

問 33 **子どもの発育や健康状態、授乳・食事などについて不安・疑問がある場合に、平日夜間・休日に対応した専門職による「web フォームでの相談」「チャットでのオンライン相談」などのサービスがあれば、利用したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)**

- | |
|----------------------------|
| 1. 有料（例えば1回数百円程度）でもぜひ利用したい |
| 2. 無料ならぜひ利用したい |
| 3. 利用したいと思わない |

問 34 **第1子のお子さんの妊娠中と現在、それぞれの時期によく利用していた（利用している）子育てに関する情報の入手手段をお答えください。(それぞれ、あてはまる番号すべてに○)**

| | 第1子の妊娠中 | 現在 |
|--|---------|----|
| 1. 市役所や区役所の窓口・電話 (こども家庭相談、保育・教育コンシェルジュなど) | 1 | 1 |
| 2. 市役所・区役所の広報紙「広報よこはま」 | 2 | 2 |
| 3. 市や区が発行するパンフレットやチラシ等 (子育てガイドブック「どれどれ」、暮らしのガイド、「でかけてみよう！親子の居場所」、各区の子育てマップなど) | 3 | 3 |
| 4. 市役所や区役所のホームページ | 4 | 4 |
| 5. 子育て支援に取り組む団体等が発行する子育て情報誌、パンフレット、チラシ等 | 5 | 5 |
| 6. 民間企業等が発行する子育て雑誌、パンフレット、チラシ等 | 6 | 6 |
| 7. 民間企業等のウェブサイト (市役所、区役所、地域子育て支援拠点のホームページ以外、SNS等) | 7 | 7 |
| 8. 民間企業等が配信しているアプリ | 8 | 8 |
| 9. 知人・友人 | 9 | 9 |
| 10. 両親教室、母親教室 | 10 | 10 |
| 11. こんにちは赤ちゃん訪問員、育児教室(赤ちゃん教室)など | 11 | 11 |
| 12. 地域子育て支援拠点 (横浜子育てパートナー、拠点のメールマガジン、ホームページも含む) | 12 | 12 |
| 13. 地域子育て支援拠点以外の地域子育て支援の場や施設 (親と子のつどいの広場、保育所・幼稚園等での子育て広場、子育て支援者会場、子育てサロンなど) | 13 | 13 |
| 14. その他() | 14 | 14 |
| 15. 特に情報収集をしていなかった(していない) | 15 | 15 |
| 16. 覚えていない | 16 | |

問 35 子育てをする上で、**知りたい情報**についてお答えください。(あてはまる番号3つまで○)

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1. 子どもの教育・保育事業や施設に関する情報 | 2. 行政の子育て支援に関する情報 |
| 3. 子育ての悩みの相談先に関する情報 | 4. 子育てや子どもの発達、健康などに関する情報 |
| 5. 夜間や休日に受診できる医療機関に関する情報 | 6. 住宅に関する情報 |
| 7. 子どもの遊び場に関する情報 | 8. 地域のイベントやおまつりに関する情報 |
| 9. 地域の子育てサークルに関する情報 | 10. 子どもの習いごとや塾等に関する情報 |
| 11. 経済的支援制度に関する情報 | 12. 子育て中の方を対象とした割引や優待等に関する情報 |
| 13. その他 () | 14. 特に知りたい情報はない |

問 36 子育て支援に関する**オンライン手続き**（イベント等の予約受付や保育所保育料の口座振替等）**を利用したことがありますか。**(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 利用したことがある →問 38 へ | 2. 利用したことがない |
|----------------------|--------------|

問 37 問 36 で「利用したことがない」と回答した方に伺います。
子育て支援に関する**オンライン上での手続きを利用したことがない理由**をお答えください。
(あてはまる番号すべてに○)

- | |
|--|
| 1. オンライン上で手続きできることを知らなかったから |
| 2. 行いたい手続きがオンライン上でできないから（できなかったから） |
| 3. (マイナンバー認証を必要とする手続きについて、) マイナンバーカードを持っていないから |
| 4. 電子申請のサイト（マイナポータル等）が利用しにくいから |
| 5. 手続きにかかる手間が区役所の窓口や郵送で申請するよりも大きい（または変わらない）から |
| 6. 区役所の窓口や郵送で申請をすることに負担を感じないから |
| 7. 申請の際に区役所の職員等に相談したかったから |
| 8. パソコン、スマートフォン等の申請に必要な機器を持っていないから |
| 9. オンライン上での手続きに対する不安がある |
| 10. その他 () |
| 11. 特に理由はない |

問 38 今後の子育て支援の電子化に関連して、期待することをお答えください。

(あてはまる番号3つまで○)

1. 電子申請・届出が可能な子育て支援サービスの対象拡大
2. 区役所等に行く頻度が減ること
3. 作成する必要がある書類が減ること
4. 一度入力した情報（氏名や住所等）について再度の入力を求められないこと
5. 複数の子育て支援サービスに関する手続きを一度に行えること
6. 母子健康手帳の電子化
7. 妊婦健診・乳幼児健診等の各種健康診査結果の確認
8. 子育て支援サービスに必要な書類の書き方等についてオンライン上で相談できること
9. 子育てに関するオンライン上での相談
10. 子育て中の保護者とのオンライン上での交流・情報交換
11. 地域の子育て支援に関する情報の検索
12. 地域の子育て支援に関するプッシュ型の情報配信
13. 子育て支援サービス利用料の電子決済
14. 各種電子クーポンの保管・利用
15. その他（)
16. 特にない

問 39 あなたは、横浜市に10年後も住んでいたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 40 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-----------|-------------|-------|
| 1. ゆとりがある | 2. ややゆとりがある | 3. 普通 |
| 4. やや苦しい | 5. 苦しい | |

問 41 子育てをしていて、地域社会から見守られている、支えられていると感じますか。

(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. そう感じる | 2. どちらかといえばそう感じる |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばそう感じない |
| 5. そう感じない | |

問 42 現在、子育てをしていて、楽しさと大変さのどちらを感じる人が多いですか。

(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 楽しさを感じる人が多い | 2. どちらかといえば楽しさを感じる人が多い |
| 3. 楽しさと大変さを同等に感じる | 4. どちらかといえば大変さを感じる人が多い |
| 5. 大変さを感じる人が多い | |

問 43 子どもを育てている現在の生活に満足していますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | |

問 44 これまでで、子育てをしてよかったこと、うれしかったことは何ですか。

(あてはまる番号3つまで○)

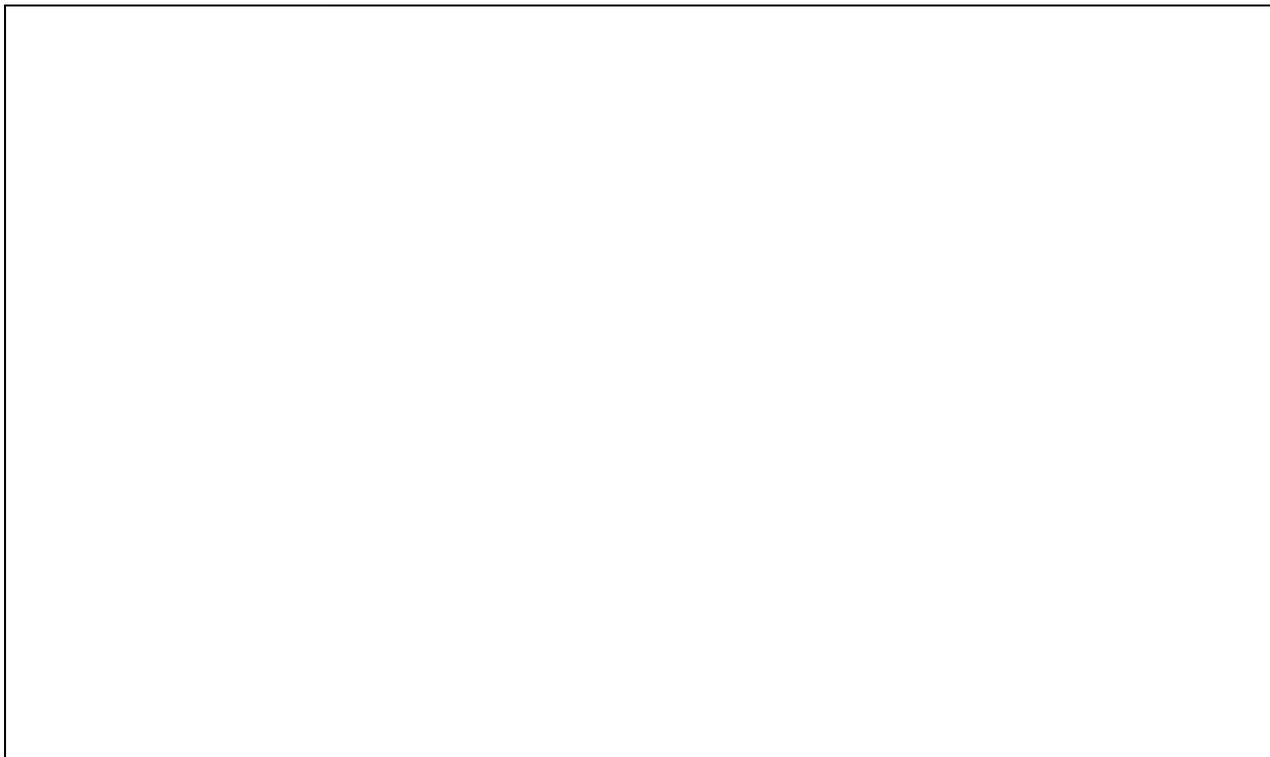
- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 子どもを持つ喜びが実感できた | 2. 子どもの成長 |
| 3. 子育てを通じて自分も成長できた | 4. 配偶者・パートナーとの関係がよくなった |
| 5. 家族間の会話が増えた | 6. 家庭が明るくなった |
| 7. 子育てを通じ友人が増えた | 8. 自分の親への感謝の念が生まれた |
| 9. その他 () | 10. 特にない |

問 45 今後、子育て支援の充実に向けて、行政にどのようなことを望みますか。

(あてはまる番号3つまで○)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 妊娠前・妊娠中の相談・支援の充実 |
| 2. 保育所等の待機児童対策 |
| 3. 保育・教育施設における保育の質の向上 |
| 4. 子どもを一時的に預けられるサービスの充実 |
| 5. 出産費用や保育・教育費などの子育て費用の助成 |
| 6. 子どもの年齢等に応じた子育て情報(地域のイベント情報等)の提供 |
| 7. 子育てに関する相談ができる体制の充実 |
| 8. 親同士が気軽に交流できる場所・機会の充実 |
| 9. 家事を支援するサービス |
| 10. 子どもの遊び場・居場所の充実 |
| 11. 自然体験・スポーツなどの子どもの体験活動の充実 |
| 12. 障害児支援の充実 |
| 13. 子どもと外出しやすい環境の整備(託児スペースの充実など) |
| 14. 子育てしやすい労働環境づくりに向けた企業への啓発 |
| 15. その他 () |

問 46 最後に、**保育・教育、地域の子育て支援など、子育ての環境や支援**に関してご意見がございましたら、
ご自由にご記入ください。



**調査にご協力いただき、ありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れ、切手は貼らずにご投函ください。**

横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた 利用ニーズ把握のための調査 <小学生調査>

【調査票】

◆本アンケート調査について

- ・ご回答いただいた内容は、本アンケート調査の目的以外に使用することは一切ございません。
また、その内容によって個人を特定することもございません。
- ・子どもたち自身の考えを計画策定や情報発信のための参考にさせていただくため、**あて名のお子さんご自身に向けた質問項目があります。**(ご協力は任意です。対象は小学4～6年生)

◆ご回答にあたってのお願い

- ・この調査は、保護者の方と、あて名のお子さん本人に回答いただく設問に分かれています。
- ・本アンケート調査は、**Web 上でのインターネット回答**と、この**調査票に直接記入する回答**方法があります。

※Web 上でのインターネット回答かこの調査票の**どちらか一方のみ**ご回答ください。

設問数が多いため、**インターネット回答を推奨**します。

<Web 上でのインターネット回答の場合>

右の二次元コードを読み取り、以下のログイン ID、PASS を入力し、
回答画面にアクセスしてください。

ID :

PASS :

※こちらの ID と PASS は回答画面にアクセスするためのものであり、個人を特定するものではありません。

<この調査票に直接記入する回答の場合>

調査票への記入は、黒または青のボールペン、万年筆、濃い鉛筆等をご使用ください。

調査にご協力いただけましたら、お手数ですが、

令和5年10月31日（火）までに

WEB 上でのインターネット回答 もしくは **同封の返信用封筒をご利用の上、
切手は貼らずにご投函ください。**

◆お問合せ先

- ・アンケート調査に関わるご不明な点は、右の二次元コードを読み取り、
ご確認ください。お問合せについては、下記までご連絡ください。

<横浜市コールセンター（8時～21時、土日祝日含む毎日）>

電話：〇〇〇〇、ファックス：〇〇〇〇

※問合せ内容によっては、担当部署の横浜市子ども青少年局企画調整課へ転送もしくは
おかけ直しをお願いすることがあります。

<担当部署>

横浜市子ども青少年局企画調整課 生野・野口

電話：045-671-4281 E-Mail：kd-kikaku@city.yokohama.jp

目 次（調査内容）

頁

| | | |
|-----|-----------------------------|----|
| 1 | お子さんとご家族の状況について..... | 1 |
| 2 | 保護者の就労状況について | 2 |
| 3 | お子さんの発達、障害の状況について | 3 |
| 4 | お子さんの放課後の過ごし方について | 4 |
| 4-1 | 放課後キッズクラブ | 6 |
| 4-2 | 放課後児童クラブ | 8 |
| 4-3 | 民間企業等が運営する学童保育事業所 | 10 |
| 4-4 | 放課後等デイサービス（障害児通所支援事業） | 11 |
| 4-5 | 横浜子育てサポートシステム | 12 |
| 4-6 | プレイパーク | 12 |
| 5 | お子さんの病気の際の対応について | 13 |
| 6 | 子育て全般について | 14 |
| 7 | あて名のお子さんご本人への質問..... | 21 |

1 あて名のお子さんご家族の状況について

問1 お住いの区はどこですか。(あてはまる番号1つに○)

| | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|---------|
| 1. 青葉区 | 2. 旭区 | 3. 泉区 | 4. 磯子区 | 5. 神奈川区 |
| 6. 金沢区 | 7. 港南区 | 8. 港北区 | 9. 栄区 | 10. 瀬谷区 |
| 11. 都筑区 | 12. 鶴見区 | 13. 戸塚区 | 14. 中区 | 15. 西区 |
| 16. 保土ヶ谷区 | 17. 緑区 | 18. 南区 | | |

問2 あて名のお子さんの学年を伺います。(あてはまる番号1つに○)

| | | |
|--------|--------|--------|
| 1. 1年生 | 2. 2年生 | 3. 3年生 |
| 4. 4年生 | 5. 5年生 | 6. 6年生 |

問3 あて名のお子さんを含めたお子さんの人数を年齢区分ごとに伺います(令和5年4月2日時点)。

※あて名のお子さんも人数に含めてください。

※該当するお子さんがいない場合は「0」と記載してください。

| | | | | | |
|---------------|----------------------|---|----------------|----------------------|---|
| お子さんの人数 | <input type="text"/> | 人 | | | |
| 未就学児(0～2歳) | <input type="text"/> | 人 | 未就学児(3～5歳) | <input type="text"/> | 人 |
| 小学校低学年(1～3年生) | <input type="text"/> | 人 | 小学校高学年(4～6年生) | <input type="text"/> | 人 |
| 中学生 | <input type="text"/> | 人 | 中学校を卒業しているお子さん | <input type="text"/> | 人 |

問4 アンケートにお答えいただく方を伺います。(あてはまる番号1つに○)

※あて名のお子さんからみた関係を回答してください。

| | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 父親 | 2. 母親 | 3. その他() |
|-------|-------|-----------|

問5 アンケートにお答えいただく方の配偶関係を伺います。(あてはまる番号1つに○)

| | |
|-----------------|------------------|
| 1. 配偶者・パートナーがいる | 2. 配偶者・パートナーはいない |
|-----------------|------------------|

問6 あて名のお子さんの父親、母親の年齢を伺います。

※ひとり親家庭の場合は、養育している親の年齢のみ回答してください。

| | | | | | | | |
|------|----------------------|----------------------|---|------|----------------------|----------------------|---|
| 【父親】 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 歳 | 【母親】 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 歳 |
|------|----------------------|----------------------|---|------|----------------------|----------------------|---|

問7 令和4年1年間の世帯全体の年間収入(税・社会保険料等控除前)を伺います。(あてはまる番号1つに○)

※ここでは、あなた以外の世帯員の収入も合計した金額を選択してください。

| | | | |
|---------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 200万円未満 | 2. 200～299万円 | 3. 300～399万円 | 4. 400～499万円 |
| 5. 500～599万円 | 6. 600～699万円 | 7. 700～799万円 | 8. 800～899万円 |
| 9. 900～999万円 | 10. 1,000～1,249万円 | 11. 1,250～1,499万円 | 12. 1,500～1,999万円 |
| 13. 2,000万円以上 | | | |

2 あて名のお子さんの保護者の就労状況について

問8 父親の就労状況（自営業及びその家族従事者含む）を伺います。（あてはまる番号1つに○）
【母子家庭の場合は、回答不要です。問9にお進みください。】

| | |
|--------------------------|---------------|
| 1. 就労している | } →問9にお進みください |
| 2. 以前は就労していたが、現在は就労していない | |
| 3. これまで就労したことがない | |

問8-1 問8で「1」に○をつけた方に伺います。

1週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間（残業時間を含む）、家を出る時間、帰宅時間をお答えください。

※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンをお答えください。

※育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況をお答えください。

※自宅で就労している場合は、仕事を開始する時間、仕事を終了する時間をお答えください。

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|----------------------|------------|----------------------|----------------------|----|----------------------|----------------------|----------------------|---|----------------------|----------------------|---|
| 1週当たりの就労日数 | <input type="text"/> | 日 | 1日当たりの就労時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 | | | | |
| 家を出る時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 | 帰宅時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 |
| 【必ず24時間制でご記入ください。（例：午後6時半の場合は18時30分）】 | | | | | | | | | | | | | |

問9 母親の就労状況（自営業及びその家族従事者含む）を伺います。（あてはまる番号1つに○）
【父子家庭の場合は、回答不要です。問10にお進みください。】

| | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 就労している | } →問10にお進みください |
| 2. 以前は就労していたが、現在は就労していない | |
| 3. これまで就労したことがない | |

問9-1 問9で「1」に○をつけた方に伺います。

1週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間（残業時間を含む）、家を出る時間、帰宅時間をお答えください。

※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンをお答えください。

※育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況をお答えください。

※自宅で就労している場合は、仕事を開始する時間、仕事を終了する時間をお答えください。

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|----------------------|------------|----------------------|----------------------|----|----------------------|----------------------|----------------------|---|----------------------|----------------------|---|
| 1週当たりの就労日数 | <input type="text"/> | 日 | 1日当たりの就労時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 | | | | |
| 家を出る時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 | 帰宅時間 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 時 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 分 |
| 【必ず24時間制でご記入ください。（例：午後6時半の場合は18時30分）】 | | | | | | | | | | | | | |

3 あて名のお子さんの発達、障害の状況について

問 10 これまでお子さんの発達や障害に関して、どこかに相談したことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

1. ある 2. ない →問 11 にお進みください。

問 10-1 問 10 で「1」に○をつけた方に伺います。

これまで相談した、もしくは相談している地域の相談機関はどちらですか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|--|---------------|-------------|
| 1. 区役所 | 2. 児童相談所 | 3. 地域療育センター |
| 4. 地域活動ホーム・ 基幹相談支援センター | 5. 学校 | 6. かかりつけの医師 |
| 7. 放課後等デイサービス | 8. 障害児相談支援事業所 | |
| 9. その他 () (例)地域子育て支援拠点、地域訓練会等 | | |

問 11 これまでお子さんの発達に関して、何らかの医師の診断を受けたことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

1. ある 2. ない →問 12 にお進みください。

問 11-1 問 11 で「1」に○をつけた方に伺います。

それはどんな診断ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 身体障害 | 2. 知的障害 | 3. 発達障害 |
| 4. 医療的ケア | 5. その他 | |

身体障害…視覚障害、聴覚障害・平衡機能障害、音声・言語障害（咀嚼障害を含む）、
肢体不自由、心臓・腎臓等の内部障害の5種類に関する診断が該当します。
(診断の結果、身体障害者手帳を所有している方が該当します。)

知的障害…知的機能の障害が発達期（おおむね18歳まで）にあらわれ、日常生活に支障が
生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にある診断が該当します。
(診断の結果、愛の手帳（療育手帳）を所有している方が該当します。)

発達障害…自閉スペクトラム症（自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害）、
限局性学習症（学習障害）、注意欠陥・多動症（注意欠陥多動性障害）等の診断が該
当します。

医療的ケア…人工呼吸器による呼吸管理、喀痰(かくたん)吸引その他の医療行為をいい、日常
生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケアを受けることが不可欠である
児童が該当します。

そ の 他…「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合
支援法）」に定める難病等の診断が該当します。

4 あて名のお子さんの放課後の過ごし方について

問 12 通常期（学校の長期休業中を除く）の月～日曜日の放課後等の時間（土曜日・日曜日は一日中）を過ごしている場所（事業を利用しているか）とその日数をお答えください。

※各事業の詳細は別紙「事業の内容と利用料」をご確認ください。

| 放課後の過ごし方 (あてはまる番号すべてに○) | 平日 (月～金曜日) | 土曜日・日曜日 |
|---|------------------------|---|
| 1. 自宅で過ごす | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 2. 親戚・友人等宅で過ごす | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 3. 近所の公園・ログハウス等外で遊ぶ | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 4. 習い事・塾 | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 5. 放課後キッズクラブ (わくわく【区分1】(16時まで利用)) (すべての子どもたちを対象とする、小学校施設を活用した放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | ※土曜日・日曜日は 開所していません |
| 6. 放課後キッズクラブ (すくすく(ゆうやけ)【区分2A】(17時まで利用)) (就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象とする、小学校施設を活用した放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 ※日曜日は 開所していません |
| 7. 放課後キッズクラブ (すくすく(ほしぞら)【区分2B】(19時まで利用)) (就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象とする、小学校施設を活用した放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 ※日曜日は 開所していません |
| 8. 放課後児童クラブ (就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象とする、保護者や地域のNPO法人などが運営する放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 9. 民間企業等が運営する学童保育事業所 (民間企業等が運営する放課後の居場所(利用要件として保護者の就労状況は不問の事業所もある)) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 10. 放課後等デイサービス (就学している障害児に、生活能力の向上のために必要な訓練等を行っている事業所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 11. 横浜子育てサポートシステム (地域住民がそれぞれ会員登録を行い、会員間で子どもの預け・預かりを行う事業) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 12. プレイパーク (市内の公園で開かれている「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに禁止事項を極力なくした野外の遊び場) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 13. その他 () | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |

問 13 学校の長期休業中（夏休み、冬休み等）の月～日曜日を過ごしている場所（事業を利用しているか）とその日数をお答えください。

※各事業の詳細は別紙「事業の内容と利用料」をご確認ください。

※日数は、長期休業中全体の日数ではなく、週当たりの日数を回答してください。

| 過ごし方 (あてはまる番号すべてに○) | 平日 (月～金曜日) | 土曜日・日曜日 |
|---|------------------------|---|
| 1. 自宅 | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 2. 親戚・友人等宅 | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 3. 近所の公園・ログハウス等で遊ぶ | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 4. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など） | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 5. 放課後キッズクラブ (わくわく【区分1】(クラブが指定する2時間程度)) (すべての子どもたちを対象とする、小学校施設を活用した放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | ※土曜日・日曜日は開所していません |
| 6. 放課後キッズクラブ (すくすく(ゆうやけ)【区分2A】(17時まで利用)) (就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象とする、小学校施設を活用した放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 ※日曜日は開所していません |
| 7. 放課後キッズクラブ (すくすく(ほしぞら)【区分2B】(19時まで利用)) (就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象とする、小学校施設を活用した放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 ※日曜日は開所していません |
| 8. 放課後児童クラブ (就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象とする、保護者や地域のNPO法人などが運営する放課後の居場所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 9. 民間企業等が運営する学童保育事業所 (民間企業等が運営する放課後の居場所(利用要件として保護者の就労状況は不問の事業所もある)) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 10. 放課後等デイサービス (就学している障害児に、生活能力の向上のために必要な訓練等を行っている事業所) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 11. 横浜子育てサポートシステム (地域住民がそれぞれ会員登録を行い、会員間で子どもの預け・預かりを行う事業) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 12. プレイパーク (市内の公園で開かれている「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに禁止事項を極力なくした野外の遊び場) | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |
| 13. その他 () | <input type="text"/> 日 | <input type="text"/> 日 |

4 - 1 「放課後キッズクラブ」について

問 14 あて名のお子さんの通う小学校区域にある「放課後キッズクラブ」についてお答えください。

利用していますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 利用している

2. 利用していない

↓ 「1」に○をつけた方

利用している理由は何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 利用料が安価
2. 学校内にあるため安心して利用できる
3. 学校施設のため、お迎えに行きやすい
4. 体育館や校庭で活動できる
5. 預かってもらえる時間がちょうどいい
6. プログラムが充実している
7. 異年齢の交流ができる
8. 職員がよい
9. 学校と同じ友達と過ごせる
10. 放課後児童クラブが利用できない
11. 保護者の事務負担がない
12. 子どもが行きたいと言っている
13. その他 ()

↓ 「2」に○をつけた方

利用していない理由は何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 保護者がいるため利用する必要がない
2. 塾や習い事に行っている
3. 放課後児童クラブを利用している
4. 民間企業等が運営する学童保育事業所を利用している
5. 放課後等デイサービスを利用している
6. 横浜子育てサポートシステムを利用している
7. プレイパークを利用している
8. 利用時間が合わない
9. 迎えに行きづらい
10. プログラムに魅力を感じない
11. 放課後は学校以外の場所で過ごさせたい
12. 施設が狭い
13. 子どもが行きたくないという
14. すくすく・ゆうやけ(17時まで利用)の月額2,000円の利用料が高い
15. すくすく・ほしぞら(19時まで利用)の月額5,000円の利用料が高い
16. その他 ()

問 14-1 問 14 で「2. 利用していない」に○をつけた方に伺います。

今後、利用したいと思えますか。また利用したい場合はその頻度をお答えください。

1. 利用したいと思う → 週 日ぐらい (または月 日ぐらい)
2. 利用したいと思わない

4 - 2 放課後児童クラブについて

問 16 放課後児童クラブについてお答えください。

※就労等で昼間保護者がいない子どもたちを対象に、保護者や地域の NPO 法人などが安全で豊かな放課後の居場所を提供する事業です。(利用料は月額平均 17,000 円(クラブによって異なります))

| 利用していますか。(あてはまる番号 1 つに○) | |
|---|--|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
| ↓ 「1」に○をつけた方 | ↓ 「2」に○をつけた方 |
| 利用している理由 は何ですか。 (あてはまる番号すべてに○) | 利用していない理由 は何ですか。 (あてはまる番号すべてに○) |
| <ol style="list-style-type: none">1. クラブの立地が迎えに行きやすい2. 開所時間が長い3. 外遊びが充実している4. 保護者の関わりが強く安心して利用できる5. 家庭的な雰囲気の中でしっかり見てもらえる6. 職員がよい7. 違う学校の友達が増える8. 放課後キッズクラブに合わなかった9. その他 () | <ol style="list-style-type: none">1. 保護者がいるため利用する必要がない2. 近くに放課後児童クラブがない3. 塾や習い事に行っている4. 放課後キッズクラブを利用している5. 民間企業等が運営する学童保育事業所を利用している6. 放課後等デイサービスを利用している7. 横浜子育てサポートシステムを利用している8. プレイパークを利用している9. 利用時間が合わない10. 活動内容に魅力を感じない11. 利用料が高い12. 保護者の運営への関わりが重いと聞く13. 施設が狭い14. 子どもが行きたくないという15. その他 () |

問 16-1 問 16 で「2. 利用していない」に○をつけた方に伺います。

今後、利用したいと思いますか。また利用したい場合はその頻度をお答えください。

| |
|---|
| 1. 利用したいと思う →週 <input type="text"/> 日ぐらい (または月 <input type="text"/> 日ぐらい) |
| 2. 利用したいと思わない |

問 16-2 問 16 で「1. 利用している」に○をつけた方に伺います。現在、何時から何時まで利用していますか。
 (時間は必ず 24 時間制でご記入ください。(例：午後 6 時半の場合は 18 時 30 分))

| 【現在の利用時間】 | |
|------------|-----------------------------|
| 通常期の平日 | 放課後から □ □ 時 □ □ 分まで |
| 学校長期休業中の平日 | □ □ 時 □ □ 分から □ □ 時 □ □ 分まで |
| 土曜 | □ □ 時 □ □ 分から □ □ 時 □ □ 分まで |

問 16-3 問 16 で「1. 利用している」に○をつけた方に伺います。

現在の利用時間は希望通りですか。(あてはまる番号 1 つに○)

| | |
|-------------------------|------------|
| 1. 希望通りである →問17にお進みください | 2. 希望通りでない |
|-------------------------|------------|

問 16-4 問 16-3 で「2. 希望通りでない」に○をつけた方に伺います。

希望としては何時から何時まで利用したいですか。

(時間は必ず 24 時間制でご記入ください。(例：午後 6 時半の場合は 18 時 30 分))

| 【希望する利用時間】 | |
|------------|-----------------------------|
| 通常期の平日 | 放課後から □ □ 時 □ □ 分まで |
| 学校長期休業中の平日 | □ □ 時 □ □ 分から □ □ 時 □ □ 分まで |
| 土曜 | □ □ 時 □ □ 分から □ □ 時 □ □ 分まで |

問 17 全員の方に伺います。

放課後児童クラブに対して、今後望むことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

| | |
|----------------------------|---|
| 1. 基本的な生活習慣や生活のリズムを身に付けること | 2. 児童が主体的に遊べる時間 |
| 3. 宿題をする学習習慣 | 4. 体力の向上 |
| 5. 施設・設備の充実 | 6. 子の成長を感じられる継続的なプログラム |
| 7. イベント・行事を通じた非日常的な体験・活動 | 8. 地域の方々など多くの人と触れ合う機会 |
| 9. 友達作り | 10. 同学年以外とのかかわり |
| 11. スタッフのスキルの向上 | 12. 職員体制の充実 |
| 13. 長期休業日の朝の開所時間の拡大 | 14. 夜の開所時間の延長 |
| 15. 学校との連携強化 | 16. 保護者の参画の機会の増加 |
| 17. おやつの実 | 18. 同一クラブを利用するきょうだい児(第2子以降)を対象とした利用料の減免 |
| 19. 長期休業日における昼食の外注サービス | 20. 送迎支援サービス |
| 21. 運営にかかる保護者負担の軽減 | 22. その他 () |
| 23. 特にな | |

4 - 4 放課後等デイサービス（障害児通所支援事業）について

問 19 放課後等デイサービスについてお答えください。

※学校通学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所を提供することを目的とした事業です。

| 利用していますか。（あてはまる番号1つに○） | |
|--|---|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
| ↓ 「1」に○をつけた方 | ↓ 「2」に○をつけた方 |
| 利用している理由は何ですか。 （あてはまる番号すべてに○） | 利用していない理由は何ですか。 （あてはまる番号すべてに○） |
| 1. 就労などで保護者が家庭にいない 2. 放課後キッズクラブが利用できない 3. 放課後児童クラブが利用できない 4. 預けていると安心 5. 活動内容が充実している 6. 友達と遊べる 7. 療育を受けることができる 8. 迎えに行きやすい場所にある 9. 遅くまで預けることができる 10. 親がきょうだい児と過ごす時間がとれる 11. 送迎がある 12. その他（ ） | 1. 利用する必要がない 2. 事業を知らなかった 3. 利用したいが空きがない 4. 放課後キッズクラブを利用している 5. 放課後児童クラブを利用している 6. 民間企業等が運営する学童保育事業所を利用している 7. 塾や習い事に行っている 8. 横浜子育てサポートシステムを利用している 9. プログラムに魅力を感じない 10. 施設が狭い 11. 医療的ケアができない 12. 子どもが行きたくないという 13. 子どもが利用したがらなかったから 14. 子どもの健康上の理由で利用が難しかったから 15. その他（ ） |

問 19-1 問 19 で「2. 利用していない」に○をつけた方に伺います。

今後、利用したいと思いますか。また利用したい場合はその頻度をお答えください。

（あてはまる番号1つに○）

| |
|---|
| 1. 利用したいと思う → 週 <input style="width: 40px;" type="text"/> 日ぐらい（または月 <input style="width: 40px;" type="text"/> 日ぐらい） |
| 2. 利用したいと思わない |

4-5 横浜子育てサポートシステムの利用について

問 20 横浜子育てサポートシステムについてお答えください。

※「子どもを預かってほしい人」が利用会員として、「子どもを預かる人」が提供会員として登録して、会員相互の信頼関係のもとに子どもの預け、預かりを行うシステムです。

| | |
|--|---|
| 横浜子育てサポートシステムを知っていますか。(あてはまる番号1つに○) | |
| 1. 知っている | 2. 知らない |
| ↓ | |
| 今後、横浜子育てサポートシステムを利用したいと思いませんか。(あてはまる番号1つに○) | |
| 1. 利用したい | 2. 利用したいと思わない |
| ↓「1」に○をつけた方 | |
| 1か月(または1年間)に利用したい日数についてお答えください。 ※現在利用している日数を含め、利用したい日数全体をお答えください。 | |
| 月 計 | <input type="text"/> <input type="text"/> 日ぐらい (または、年間 計 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 日ぐらい) |

4-6 プレイパークの利用について

問 21 「プレイパーク」についてお答えください。

※市内の公園等で地域の方々が運営している、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、禁止事項を極力なくした、野外の遊び場です。乳幼児やその保護者、小学生等と地域の人との交流の場としても活用されています。

| | | |
|---|--------------|--|
| プレイパークを知っていますか。(あてはまる番号1つに○) | | |
| 1. 知っている | 2. 知らない | →問 21-1 にお進みください |
| ↓「1」に○をつけた方 | | |
| 現在、プレイパークを利用していますか。(あてはまる番号1つに○) | | |
| 1. 利用している | 2. 利用したことがない | 3. 過去に利用していた |
| ↓「1」に○をつけた方 | | ↓「2」、「3」に○をつけた方 |
| 利用している理由をお聞かせください。(あてはまる番号すべてに○) | | 理由をお聞かせください。(あてはまる番号すべてに○) |
| 1. 普段体験できない遊びが体験できる 2. 家から近い 3. 屋外のため思いっきり遊ぶことができる 4. 子どもが運営スタッフと遊んだり話したりできる 5. 親が他の利用者や運営スタッフと話や相談ができる 6. 地域の中でつながりができる 7. その他 () | | 1. どこでやっているかわからない 2. 開催日がわからない 3. 家から遠い 4. プレイパーク以外の事業を利用している 5. 子どもが楽しめなかった 6. 習い事等で行く時間がない 7. 特に利用する必要性を感じない 8. その他 () |

問 21-1 プレイパークを「2. 知らない」または、「2. 利用したことがない」「3. 過去に利用していた」に○をつけた方に伺います。

今後、利用したいと思いませんか。(あてはまる番号1つに○)

| | |
|-------------|---------------|
| 1. 利用したいと思う | 2. 利用したいと思わない |
|-------------|---------------|

5 あて名のお子さんの病気の際の対応について

問 22 この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで登校できなかったことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

1. あった 2. なかった →問 23 にお進みください。

問 22-1 問 22 で「1」と回答した方に伺います。この1年間に行った対処方法をお答えください。「5」と「6」の選択肢に○をつけた方は、その日数をお答えください。半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。

| 1年間の対処方法 (あてはまる番号すべてに○) | 日数 |
|---|---|
| 1. 保護者が仕事等を休んで見た | |
| 2. 保護者のうち仕事等をしていない方が見た | |
| 3. 保護者が在宅勤務の傍らで見た | |
| 4. (同居者を含む) 親族・知人に預けた | |
| 5. 病児・病後児の保育施設を利用した (保育所(園)で実施しているサービスを含む) | → <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| 6. 訪問型の病児・病後児保育を利用した | → <input type="text"/> <input type="text"/> 日 |
| 7. ベビーシッターを利用した | |
| 8. その他 () | |

問 22-2 と問 22-3 は、問 22-1 で「1・3・4・7・8」のいずれかに○をつけた方に伺います。

問 22-2 「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったことはありますか。また、利用したいと思った日数をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

※病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかります。また、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

1. できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したかった →年間 日
2. 利用したいと思わなかった

問 22-3 病児・病後児保育を利用しなかった理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 病児・病後児保育を知らなかった 2. 利用手続きが面倒だった
3. 予約が取れなかった 4. 立地がよくない・近くにない
5. 利用可能時間・曜日が合わなかった 6. 利用料がかかる・高い
7. 自分たちで見たかった 8. その他 ()
9. 特に理由はない

6 子育て全般について

問 23 小学生が利用する場所を整備することを考えた場合、どのようなことがあればよく利用されると思いますか。(あてはまる番号3つまで○)

| | | |
|-----------------|-----------------|-------------------------|
| 1. 様々な体験活動ができる | 2. カフェスペースがある | 3. 大人の見守りがある |
| 4. 学習スペースがある | 5. オンライン上の居場所 | 6. 自然の中で遊べる |
| 7. 無料で勉強をみってくれる | 8. 無料や安価で飲食ができる | 9. 地域の人が開いている遊びやイベントがある |
| 10. その他 () | | 11. 特にない |

問 24 中高生世代が利用する場所を整備することを考えた場合、どのようなことがあればよく利用されると思いますか。(あてはまる番号3つまで○)

| | | |
|-----------------|-----------------|-------------------------|
| 1. 様々な体験活動ができる | 2. カフェスペースがある | 3. 大人の見守りがある |
| 4. 学習スペースがある | 5. オンライン上の居場所 | 6. 自然の中で遊べる |
| 7. 無料で勉強をみってくれる | 8. 無料や安価で飲食ができる | 9. 地域の人が開いている遊びやイベントがある |
| 10. その他 () | | |
| 11. 特にない | 12. 今はまだ分からない | |

問 25 あて名のお子さんは、過去1年間に学校の授業や行事以外で以下のような体験をしましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

| | していない | 1～2回 | 3回以上 |
|-----------------------|-------|------|------|
| ① キャンプ、登山、海水浴などの自然体験 | 1 | 2 | 3 |
| ② 農業体験 | 1 | 2 | 3 |
| ③ ボランティア | 1 | 2 | 3 |
| ④ 動物園、水族館、博物館、芸術鑑賞 | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ スポーツ観戦 | 1 | 2 | 3 |
| ⑥ 遊園地やテーマパークに行く | 1 | 2 | 3 |
| ⑦ 地域の清掃活動やおまつりなどへの参加 | 1 | 2 | 3 |
| ⑧ 調べたり学んだりしたことを発表する体験 | 1 | 2 | 3 |
| ⑨ 国際交流活動 | 1 | 2 | 3 |

問 26 現在、**お子さんの子育て（教育を含む）**について、**気軽に相談できる人**はだれですか。
(あてはまる番号すべてに○)

| | |
|---------------|-------------------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 2. 親やきょうだいなどの親族 |
| 3. 友人や知人 | 4. 近所の人 |
| 5. 地域の施設のスタッフ | 6. 区役所の職員 |
| 7. 学校の先生 | 8. 民生委員・児童委員 |
| 9. かかりつけの医師 | 10. その他 () (例)地域訓練会 |
| 11. 特にいない | |

問 27 現在、**子育てを**して**いて感じている困りごと**は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

| | | |
|----------------------------|----------------------|------------------------|
| 1. 子どもの食事 (アレルギーや偏食など) | 2. 子どもとの過ごし方・ 遊び方 | 3. 子どもの健康 |
| 4. 子どもの発達・発育 | 5. 夫婦での子育ての負担 | 6. 夫婦での子育ての 考え方の違い |
| 7. 家事の負担 | 8. 子どものしかり方・ しつけ | 9. 子どもの教育・進学 |
| 10. 子育ての心理的・身体的 な負担 | 11. 経済的な負担 | 12. 自分自身の病気や障害 |
| 13. 家族の病気や障害 | 14. 仕事との両立 | 15. 介護との両立 |
| 16. 子どもの友人関係 (いじめを含む) | 17. 登校しぶり、不登校 | 18. その他の学校生活に関する こと |
| 19. 子どものネットや ゲームとの付き合い方 | 20. 性に関すること | 21. その他 () |
| 22. 特にない →問 28 にお進みください | | |

問 27-1 問 27 感じている**子育てに関する困りごと**について、**相談した**ことはありますか。

| |
|--------------------------------|
| 1. ある →問 27-2 の後、問 28 にお進みください |
| 2. ない →問 27-3 にお進みください |

問 27-2 相談したことがある方は、**どこに相談**しましたか。(電話でも来所でもどちらでも可)
(あてはまる番号すべてに○)

| | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 2. 親やきょうだいなどの親族 |
| 3. 友人や知人 | 4. 近所の人 |
| 5. 子どもが通う学校の担任 | 6. スクールカウンセラー |
| 7. 学校の先生(担任以外) | 8. 民生委員・児童委員・主任児童委員 |
| 9. 区役所の子育て相談 | 10. 電話児童相談室 |
| 11. 児童家庭支援センター | 12. 児童相談所 |
| 13. 教育総合相談センター | 14. かかりつけの医師 |
| 15. 障害児相談支援事業所 | 16. 医療的ケア児・者等コーディネーター |
| 17. 地域活動ホーム・基幹相談支援センター | |
| 18. その他 () | |

(例)地域訓練会等

問 27-3 **相談したことがない方は、その理由**は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 相談するほどのことでもないと思うから | 2. 相談することが恥ずかしい |
| 3. (施設や機関など) 相談の時間が合わない | 4. 自分が忙しい |
| 5. 相談場所が遠い | 6. 適切な相談先がない |
| 7. 相談したことの秘密が守られるか不安 | 8. 相談先自体を知らない |
| 9. その他 () | |

問 28 子育てに関する困りごとに具体的に対応するために、**どのような相談先があれば相談しやすい**ですか。(あてはまる番号すべてに○)

| |
|--|
| 1. 子どもが自由に集まれるところでの気軽な相談(地区センター、ログハウスなど) |
| 2. 区役所や市役所において、子育ての専門職(保健師や助産師等)があらゆる困りごとに 応じ、相談から支援までを一体的に行う窓口 |
| 3. 区役所や市役所の子育ての専門職(保健師や助産師等)が家庭に訪問して行う相談 |
| 4. 教育に関する専門職(教師等)が家庭に訪問して行う相談 |
| 5. 同じ悩みをもった子育て中の当事者同士の相談 |
| 6. 土日や夜間も対応できる子育てや教育の専門職(保健師や助産師、教師等)による相談 |
| 7. インターネットやSNS、メールでの相談 |
| 8. その他 () |

問 29 **子どもの発育や健康状態、食事などについて不安・疑問がある場合に、平日夜間・休日に対応した専門職による「web フォームでの相談」「チャットでのオンライン相談」などのサービスがあれば、利用したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)**

1. 有料(例えば1回数百円程度)でもぜひ利用したい
2. 無料ならぜひ利用したい
3. 利用したいと思わない

問 30 **子育てに関する情報を、どこから入手していますか。(あてはまる番号すべてに○)**

1. 学校からの案内
2. 市役所や区役所の窓口・電話
3. 市役所・区役所の広報紙「広報よこはま」
4. 市や区が発行するパンフレットやチラシ等(暮らしのガイド、各区の子育てマップなど)
5. 市役所や区役所のホームページ
6. 子育て支援に取り組む団体等が発行する子育て情報誌、パンフレット、チラシ等
7. 民間企業等が発行する子育て雑誌、パンフレット、チラシ等
8. 民間企業等のウェブサイト
(市役所、区役所、地域子育て支援拠点のホームページ以外、SNS等)
9. 民間企業等が配信しているアプリ
10. 知人・友人
11. その他()

問 31 **子育てをする上で、知りたい情報についてお答えください。(あてはまる番号3つまで○)**

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1. 子どもの教育・進路等に関する情報 | 2. 行政の子育て支援に関する情報 |
| 3. 子育ての悩みの相談先に関する情報 | 4. 子育てや子どもの発達、健康などに関する情報 |
| 5. 夜間や休日に受診できる医療機関に関する情報 | 6. 住宅に関する情報 |
| 7. 子どもの遊び場に関する情報 | 8. 地域のイベントやおまつりに関する情報 |
| 9. 地域の子育てサークルに関する情報 | 10. 子どもの習いごとや塾等に関する情報 |
| 11. 経済的支援制度に関する情報 | 12. 子育て中の方を対象とした割引や優待等に関する情報 |
| 13. その他() | 14. 特に知りたい情報はない |

問 32 **現在、横浜市では、児童手当等の申請や電子申請システムを活用したイベント等の予約受付をオンライン上で行うことができます。これらの子育て支援に関するオンライン上での手続きを利用したことがありますか。**

(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 利用したことがある →問 35 へ | 2. 利用したことがない |
|----------------------|--------------|

問 33 問 32 で「利用したことがない」と回答した方に伺います。

子育て支援に関する**オンライン上での手続きを利用したことがない理由**をお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

1. オンライン上で手続きできることを知らなかったから
2. 行いたい手続きがオンライン上でできないから (できなかったから)
3. (マイナンバー認証を必要とする手続きについて、) マイナンバーカードを持っていないから
4. 電子申請のサイト (マイナポータル等) が利用しにくいから
5. 手続きにかかる手間が区役所の窓口や郵送で申請するよりも大きい (または変わらない) から
6. 区役所の窓口や郵送で申請をすることに負担を感じないから
7. 申請の際に区役所の職員等に相談したかったから
8. パソコン、スマートフォン等の申請に必要な機器を持っていないから
9. オンライン上での手続きに対する不安がある
10. その他 ()
11. 特に理由はない

問 34 今後の**子育て支援の電子化に関連して、期待すること**をお答えください。

(あてはまる番号3つまで○)

1. 電子申請・届出が可能な子育て支援サービスの対象拡大
2. 区役所等に行く頻度が減ること
3. 作成する必要がある書類が減ること
4. 一度入力した情報 (氏名や住所等) について再度の入力を求められないこと
5. 複数の子育て支援サービスに関する手続きを一度に行えること
6. 母子健康手帳の電子化
7. 妊婦健診・乳幼児健診等の各種健康診査結果の確認
8. オンライン上での子どもの成績等の確認
9. 子育て支援サービスに必要な書類の書き方等についてオンライン上で相談できること
10. 子育てに関するオンライン上での相談
11. 子育て中の保護者とのオンライン上での交流・情報交換
12. 地域の子育て支援に関する情報の検索
13. 地域の子育て支援に関するプッシュ型の情報配信
14. 子育て支援サービス利用料の電子決済
15. 各種電子クーポンの保管・利用
16. その他 ()
17. 特にない

問 35 あなたは、横浜市に 10 年後も住んでいたいと思いますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 2. ややそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりそう思わない | 5. そう思わない | 6. わからない |

問 36 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|-----------|-------------|-------|
| 1. ゆとりがある | 2. ややゆとりがある | 3. 普通 |
| 4. やや苦しい | 5. 苦しい | |

問 37 子育てをしていて、地域社会から見守られている、支えられていると感じますか。
(あてはまる番号 1 つに○)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. そう感じる | 2. どちらかといえばそう感じる |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばそう感じない |
| 5. そう感じない | |

問 38 子どもを育てている現在の生活に満足していますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかといえば満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない | |

問 39 今後、子育て支援の充実に向けて、行政にどのようなことを望みますか。
(あてはまる番号 3 つまで○)

- | |
|---|
| 1. 放課後施策の充実 |
| 2. 子どもを一時的に預けられるサービスの充実 |
| 3. 教育費などの子育て費用の助成 |
| 4. 子育て支援サービスに関する情報提供の充実 |
| 5. 子育てに関する相談ができる体制の充実 |
| 6. 子どもの年齢等に応じた子育て情報（地域のイベント情報等）の提供 |
| 7. 親同士が気軽に交流できる場所・機会の充実 |
| 8. 家事を支援するサービス |
| 9. 子どもの遊び場の充実 |
| 10. 自然体験・スポーツなどの子どもの体験活動の充実 |
| 11. 子どもが安心して過ごせる居場所づくり |
| 12. 障害児支援の充実 |
| 13. 子育てしやすい労働環境づくりに向けた企業への啓発 |
| 14. その他（) |

問 40 **放課後施策や子育て支援に関してご意見**がございましたら、ご自由にご記入ください。
また、本調査に関してお気づきの点がございましたら、あわせてご記入ください。

あて名のお子さんが小学3年生以下の場合

- ➔調査は以上になります。ご協力いただきありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れ、切手は貼らずにご投函ください。

あて名のお子さんが小学4年生以上の場合

- ➔問 41 以降にお進みください。

問 41 ここまでは保護者の皆さんに現状やご意見・ご希望を伺う質問でした。
問 42 以降は、子どもたち自身の考えを計画策定や情報発信のための参考にさせていただくため、あて名のお子さんご自身にご回答いただきたい質問となっています。
あて名のお子さんに、問 42 以降の質問にご回答いただくことは可能ですか。(あてはまる番号1つに○)

1. あて名のお子さんに回答いただくことができる ➔問 42 にお進みください
2. あて名のお子さんに回答いただくことは難しい
➔ 調査は以上です。ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れてご投函ください。

※この調査票の次のページ(お子さんご本人への質問)は、これまでのページと切り離すことができます。
お子さんにご回答いただける場合、必要に応じて切り取ってお渡しく下さい。
ご回答が済みましたら、これまでのページと次のページの両方を返信用封筒に入れてご投函ください。

7 お子さん（小学4年生以上）ご本人への質問

※ここからはお子さんご本人がお答えください。

横浜市では、子どもたちの毎日の生活や、大人の人が子どもをそだてていくための手助けとなるように、5年ごとに「横浜市子ども・子育て支援事業計画」という計画をつくっています。計画をきめるときや子どもたちに何かをつたえるときに、みなさんの考えを参考にしたいので、次の質問にお答えください。（名前は書かなくてよいので、自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。答えが思いうかばない場合や答えたくない質問は、そのまま飛ばして次に進んでください。）

問42 あなたが、学校がお休みの日にやりたいことに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. スポーツやプール、外遊びをすること | 2. 本やマンガを読むこと |
| 3. 旅行やキャンプに行くこと | 4. テレビを見たりゲームをしたりすること |
| 5. お手伝いやボランティアをすること | 6. 動物園や水族館などに行くこと |
| 7. スポーツの試合を見に行くこと | 8. 地域のおまつりなどに参加すること |
| 9. 外国の人と話したり海外に行くこと | 10. その他（ ） |

問43 自分の家や学校以外で、楽しく過ごせる場所に○をつけてください。（○はいくつでも）

- | |
|--|
| 1. 友達の家 |
| 2. 公園 |
| 3. キッズクラブや放課後児童クラブ・学童クラブなど学校が終わった後にみんなで過ごす場所 |
| 4. 塾や習い事、スポーツクラブなど |
| 5. 図書館や地区センターなどの誰でも使える施設 |
| 6. ショッピングセンターやレストランなどのお店 |
| 7. 地域の人がやっている食事や勉強の場所（子ども食堂など） |
| 8. 地域の人が開いている遊びの場所（プレイパークなど） |
| 9. その他（ ） |
| 10. 特にない |

問44 あなたは、横浜市がどのようなまちになってほしいと思いますか。（最もあてはまる番号1つに○）

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. きれいなまち | 2. にぎわいがあるまち |
| 3. みんなが助け合えるまち | 4. お年寄りやからだが不自由な人に優しいまち |
| 5. たくさんのことが学べるまち | 6. 自然豊かなまち |
| 7. 安全・安心なまち | 8. 子どもの意見が大切にされるまち |
| 9. 自分らしさが大切にされるまち | 10. その他（ ） |

切り取り線

切り取り線

とい
問45 あなたが、^{がっこう}学校の^{じゆぎょういがい}授業以外で、^{あたらし}新しいことを知ったり^{まな}学んだりするのはどのようなとき
ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|---|
| 1. ^{きょうかしょ} 教科書や ^{ほん} 本、 ^{しんぶん} 新聞などを ^よ 読むとき | 2. ^{べんきょう} 勉強のための ^{つか} アプリを使うとき |
| 3. ^{じゆく} 塾で ^{べんきょう} 勉強するとき | 4. ^{かぞく} 家族や ^{せんせい} 先生、 ^{ともだち} 友達と ^{はなし} 話をするとき |
| 5. ^み テレビを ^み 見るとき | 6. ^{ユーチューブ} YouTubeなどで ^{どうが} 動画 ^み を見るとき |
| 7. イベントに ^{さんか} 参加するとき | 8. インターネット ^{しら} で ^{もの} 調べ物をするとき |
| 9. その他 (^た) | |

とい
問46 あなたが、^{がっこう}学校の^{せんせい}先生や^{やくしょ}役所の人などの^{おとな}大人に^{つた}伝えたいことがあれば、どのようなことでも
^よ良いので、^{おし}教えてください。

^{こた}こた
答えてくれたお子さんへ
^{しつもん}しつもん ^おお ^{こた}こた
質問は終わりです。答えてくれてありがとうございました。
^{かみ}かみ ^{わた}わた ^{おとな}おとな ^{ひと}ひと ^{かえ}かえ
この紙は、渡してくれた大人の人に返してください。

保護者の方へ
調査にご協力いただき、ありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れ、切手は貼らずにご投函ください。
※ページを切り取られた場合、調査票本体とこのページの両方をご返送ください。

部会でのご意見と対応状況

別紙 4

| No. | 日付 | 部会名 | 部会でのご意見 | 対応状況 | 関連する問番号 | |
|-----|-------|---------|---|--|----------|---------|
| | | | | | 未就学児調査 | 小学生調査 |
| 1 | 6月16日 | 放課後部会 | 回答者は、父母と暮らしていない場合も考えられるので、誰でも答えやすいよう配慮が必要。 | 選択肢に「その他」を設けて、父母以外の方も回答いただけるようにしています。 | 問4 | 問4 |
| 2 | 6月16日 | 放課後部会 | 家族の多様化（例えば、事実婚など）に配慮した設問となるよう工夫する必要がある。 | ご意見を踏まえ、配偶関係の選択肢を修正しました。 | 問5 | 問5 |
| 3 | 6月16日 | 放課後部会 | 世帯年収は、必須の設問か。 選択肢も細かくなっており、回答に悩んでしまい結果的に回収率が低下するのではないか。 | 世帯年収の状況と子育てに対するニーズ等の違い等の把握を目的に設問を設けています。また、選択肢については、本市他の調査と合わせています。 | 問7 | 問7 |
| 4 | 7月4日 | 子育て部会 | 親子の居場所について、現在の利用状況を聞いている。 しかし、現在は利用していない場合でも、過去に利用していた人もいるため、過去の利用状況も把握しても良いのではないか。 | ご意見を踏まえ、過去に利用していた人も回答しやすいよう選択肢を修正しました。 | 問19 | |
| 5 | 6月16日 | 放課後部会 | プレイパークを1回利用したことはあるが、遊び方が分からなかったなどの理由で、継続的に利用していない場合もあるので、そのような状況も把握できる細やかな質問があっても良いと思う。 | ご意見を踏まえ、過去の利用状況や利用しなくなった理由を把握できるよう、選択肢等を修正しました。 | 問20 | 問21 |
| 6 | 7月4日 | 子育て部会 | 「子育てを感じている困りごと」の選択肢「子どもの食事」は、離乳食、アレルギー、食事を作ることの負担など、人によって解釈が異なると思われる。 どのようなこと把握したいのかを分かるようにした方が良い。 | ご意見を踏まえて、趣旨が明確になるよう「子どもの食事」について補足を追記しました。 また、食事をつくること等家事の負担についても回答いただけるよう、選択肢を追加しました。 | 問31 | 問27 |
| 7 | 7月4日 | 子育て部会 | 「子育てを感じている困りごと」の選択肢「経済的な不安」は、「経済的な負担」のほうが馴染むのではないか。 | ご意見を踏まえて、選択肢を修正しました。 | 問31 | 問27 |
| 8 | 7月4日 | 子育て部会 | 子どもの発達や障害について、質問の順番を、最初に「相談の有無」、次に「医師の診断の有無」にするなど、回答しやすいように工夫したほうが良い。 | 各部会でのご意見を踏まえて、設問の順序を修正しました。 | | |
| 9 | 7月4日 | 子育て部会 | ①最初に、障害の有無を問うのは、回答のハードルが高いと思われる。まずは、お子さんの発達、障害について「相談した」もしくは「相談中」の地域の相談機関等、先に質問してはどうか。 ②医師の診断の有無について、例えば、選択肢に「3. 医師の診断は受けてはいますが、心配になり相談したことがある」などを追加してはどうか。 保護者は、医師の診断有無に至る前段階として、まずはわが子が医師の診断受ける必要があるのかどうか、安心して不安を打ち明けられる人や場所を求めている。 また「診断したことがある・ない」だけではない日々の葛藤や不安な思いを、ニーズ調査から読み取っていただき、身近な場所で不安な気持ち受けとめやすくなるような相談支援の充実へ反映していただきたいと思う。 | | 問11～12-1 | 10～11-1 |
| 10 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 設問の順番について、最初に障害の有無を聞くのではなく、発達・障害の順番が良いのではないか。 | | | |
| 11 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 保護者の受入れ状況がさまざまであったり、診断が見つからない場合もある。また、診断がつく過程の人も回答することを考えると、医師の診断の有無ではなく、困り感などを聞いた方が良いのではないか。 | | | |

| No. | 日付 | 部会名 | 部会でのご意見 | 対応状況 | 関連する問番号 | |
|-----|-------|---------|---|---|---------|---------|
| | | | | | 未就学児調査 | 小学生調査 |
| 12 | 7月4日 | 子育て部会 | 発達・障害の相談先として、身近な「保育園や幼稚園」の先生方に相談されている保護者も多いのではないかと。 加えて、障害の有無や年齢問わない一時相談支援機関といわれる「基幹相談支援センター」も同様に加えてはどうか。 横浜市に、相談先の選択肢が多くあることを提示していただきたい。調査を通じて子育て世帯の市民に認識してもらうことも、横浜で安心して暮らせる材料の一つになるのではと思う。 | ご意見を踏まえて、選択肢を追加しました。 | 問11-1 | 問10-1 |
| 13 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 不定期の教育・保育等の利用について、「必要な日数」は保護者にとって必要かどうかの判断が難しく答えにくいのではないかと。「利用したい日数」がよいのではないかと。 | ご意見を踏まえ、「利用したい日数」に修正しました。 | 問16 | |
| 14 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 児童発達支援について、回答者に対し児童発達支援についての説明が必要。また、利用している理由について、児童発達支援は個々の発達の支援や子育て不安が解消、身近な場所だからなどの選択肢が必要でないかと。 | ご意見を踏まえ、設問に入る前に児童発達支援についての説明を記載しました。 | 問21 | |
| 15 | 7月4日 | 子育て部会 | 利用していない理由の選択肢に「本人が利用したくないから」「本人が疲れてしまうから」等を追加してはどうか。 子ども自身の理由もあると思われる。幼少期であっても子ども自身の思いを振り返られるような選択肢を増やしていただきたいと思う。 | ご意見を踏まえて、選択肢を追加しました。 | 問21 | |
| 16 | 7月4日 | 子育て部会 | 「気軽に相談できる人」の選択肢「その他」の例として、地域訓練会を提示していただきたい。 | ご意見を踏まえて、例示を追加しました。 | 問26 | 問26 |
| 17 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 人口の年齢構成も変化しているため、子育てに必要なサポートで重要だと思うものや子育てで感じる困りごとで、「周囲の子育てに関する理解」を把握する選択肢も必要ではないかと。 | ご意見を踏まえ、選択肢に追記しました。 | 問29, 31 | |
| 18 | 7月4日 | 子育て部会 | 「子育てに関する困りごとの相談先」の選択肢「その他」の例示に、「基幹相談支援センター」も提示していただきたい。 | ご意見を踏まえて、例示を追加しました。 | 問31-2 | 問27-2 |
| 19 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 電子化の問については、不安に感じている人も多いため、不安な面を把握する設問や選択肢も必要ではないかと。 | ご意見を踏まえ、選択肢に追加しました。 | 問37 | 問33 |
| 20 | 7月4日 | 子育て部会 | 「今後の子育て支援の充実に望むこと」の選択肢に「国籍や障害の有無を問わず、誰もが一緒に過ごせる場づくり」と提示していただきたい。 横浜市の市民生活を整えていくうえで重要な位置づけになるのではないかと。 | 選択肢の数や他の選択肢とのバランスを踏まえ、当該選択肢の配置は見送りしました。 なお、ご意見を踏まえ、国籍・文化の違いを認め合うことや障害のある人の暮らしやすさなど、「横浜市民意識調査」の結果を計画策定の参考にしていきます。 | 問45 | 問39 |
| 21 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 自由意見について、施策に反映できるようにようにするのであれば、回答が同じテーマに答えられるように明示した方がよい。 | 回答者に記載いただいた自由意見は、関連性の強いキーワード等を分析を行うなど、各施策への反映を検討していきます。 | 問46 | 問40 |
| 22 | 6月16日 | 放課後部会 | 学校の長期休業中の過ごし方に「ログハウス」が入ってないことが気になる。 | ご意見を踏まえ、選択肢にログハウスの文言を追加しました。 | | 問12, 13 |
| 23 | 7月4日 | 子育て部会 | 利用していない理由の選択肢に「本人が利用したくないから」「本人が疲れてしまうから」等を追加してはどうか。 子ども自身の理由もあると思われる。幼少期であっても子ども自身の思いを振り返られるような選択肢を増やしていただきたいと思う。 | ご意見を踏まえて、選択肢を追加しました。 | | 問19 |
| 24 | 7月4日 | 子育て部会 | 最初に、横浜子育てサポートの「利用の有無」を聞いているが、当該事業を知らない人もいると思われる。 そのため、最初に「知っているか」を聞く必要があるのではないかと。 | ご意見を踏まえて、当該設問の最初に「子育てサポートシステムについて知っているか」を追加しました。 | | 問20 |

| No. | 日付 | 部会名 | 部会でのご意見 | 対応状況 | 関連する問番号 | |
|-----|-------|---------|--|---|---------|------------|
| | | | | | 未就学児調査 | 小学生調査 |
| 25 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 中高生の居場所に関する質問の前に、現在（小学生）の居場所についての設問が必要ではないか。 | ご意見を踏まえ、設問を追加しました。 | | 問23 |
| 26 | 6月16日 | 放課後部会 | 「（保護者向けの質問）子どもの体験」と「（子ども向けの質問）興味・関心があること」の選択肢を同じにすれば、親と子の回答の比較・分析ができるのではないか。 | 各部会でのご意見を踏まえ、国の調査等も参考に、設問や選択肢の数、あてはまるものをいくつ選ぶか等を全体的に見直しました。 また、各部会からのご意見を踏まえ、改めて考え方を整理し、ニーズ調査では、子ども本人への質問については、本市施策の充実につなげることを目的とした内容としたいと考えています。 | | 問25, 42～46 |
| 27 | 6月16日 | 放課後部会 | 子どもと親それぞれのプライバシーに配慮できるよう工夫する必要がある。 | 調査票の子どもに回答してもらう項目は、切り離せるようにするとともに、子どもの回答も紙またはウェブを選択できるように調整しています。また、答えたくない場合は答えなくてよいことを予め伝えます。 また、各部会からのご意見を踏まえ、改めて考え方を整理し、ニーズ調査では、子ども本人への質問については、本市施策の充実につなげることを目的とした内容としたいと考えています。 | | 問41～46 |
| 28 | 6月29日 | 青少年部会 | 子どもと親それぞれのプライバシーに配慮できるよう、保護者の回答項目とお子さんの回答項目を別紙などで分けるなどの工夫が必要である。 | | | |
| 29 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 子どもの回答が保護者に見られるとなると回答内容に影響する恐れがある。自分が過去に実施した調査では、子どもの回答は、子どもが封筒に入れて封緘したうえで親に渡すこと等の配慮をした。 | | | |
| 30 | 7月18日 | 保育・教育部会 | 小学生の回答欄は、当該保護者が見えないように工夫できないか。 子どもはどうしても大人の目を気にする。 | | | |
| 31 | 6月29日 | 青少年部会 | 子ども本人への質問を回答するときには、子どもと一緒に回答する時間を確保しないといけない。それが負担になって、回収率が下がるのではないか。 | 各部会でのご意見を踏まえ、子どものみで回答できるように、対象を小学4年生以上に見直しました。 また、子ども本人への質問に入る前に、子どもに回答いただけるかについて保護者の意向を確認したうえで、子どもに調査票をお渡しいただくようにします。 | | 問41～46 |
| 32 | 6月16日 | 放課後部会 | 子ども本人の質問の対象者が1～6年生となっているが、子どもへの調査の場合は脳の発達段階等から考えて、小学校4年生からとすることが望ましい。 | 各部会でのご意見を踏まえ、対象を小学4年生以上に見直しました。また、国の調査等も参考に、設問や選択肢の数、あてはまるものをいくつ選ぶか等を全体的に見直しました。 | | 問42～46 |
| 33 | 7月4日 | 子育て部会 | 「横浜市がどのようなまちになってほしいか」などは、小学1年生に回答は難しいのではないか。 | | | |
| 34 | 6月16日 | 放課後部会 | 保護者が回答を手伝うのではなく、子どもが独立して回答できると良い。 | | | |
| 35 | 6月16日 | 放課後部会 | 子ども本人の質問の選択肢が多すぎる。 3つを選ばせるのであれば、選択肢は6つ程度にするべき。 | | | |
| 36 | 6月29日 | 青少年部会 | 子ども本人の質問の選択肢が難しい。 | | | |
| 37 | 7月4日 | 子育て部会 | 低学年の子どもが回答するには、保護者が相当かみ砕いて説明し、やっと理解できるレベルとなっている。それでも、選択肢の中に、子どもが理解できないものが含まれるため、回答の選択肢が狭まってしまう。抽象的な質問などは、特に回答は難しい。 | | | |
| 38 | 6月29日 | 青少年部会 | 高学年と低学年は、答えやすさの観点から、言葉遣いなど、それぞれの年齢に応じたつくりに変える必要がある。 | | | |
| 39 | 6月16日 | 放課後部会 | 子ども本人の質問は、ルビをつけるなど、子どもに分かりやすく工夫する必要がある。また、フォントを変えるなど、子ども向けということが見てわかるようにしてもらいたい。 | 各部会でのご意見を踏まえ、フォントやルビなどを全体的に見直しました。 | | 問42～46 |
| 40 | 6月29日 | 青少年部会 | 子ども向けのアンケートの意図をきちんと理解できるように、アンケートの目的を平易にかつ明確に説明できるよう、リード文を入れたほうが良い。 | ご意見を踏まえ、アンケートの目的を子どもへの質問のリード文に追記しました。 | | 問42～46 |

| No. | 日付 | 部会名 | 部会でのご意見 | 対応状況 | 関連する問番号 | |
|-----|-------|---------|--|--|---------|--------|
| | | | | | 未就学児調査 | 小学生調査 |
| 41 | 6月29日 | 青少年部会 | 横浜市の小学校高学年以上の暴力発生率が全国平均の2～3倍になっているので、『子どものストレス状況』を確認できるような設問を入れたほうが良い。 | 各部会からのご意見を踏まえ、改めて考え方を整理し、ニーズ調査では、子ども本人への質問については、本市施策の充実につなげることを目的とした内容としたいと考えています。 子どもの困りごとや自己肯定感、睡眠時間、不登校の経験等子どもの心身の状況等の計画への反映していくため、令和2年度に実施した「横浜市の子どもの生活実態調査」の結果を活用するとともに、今後の子どもの意見の聞く取組を進める中で、ご意見を踏まえ更なる把握について検討していきます。 | | 問42～46 |
| 42 | 7月4日 | 子育て部会 | 今の子どもは忙しいので、「何時に寝ているか」「どのくらい習い事をしているか」などの状況を聞いてはどうか。 実際の放課後の過ごし方（塾や地区センターなど）を「ある・なし」で聞く方法なども考えられる。毎日塾に通っているなどの実態が把握できるのではないか。 | | | |
| 43 | 7月4日 | 子育て部会 | 学校や家以外の居心地の良い場所などポジティブなことを聞いている印象だが、困りごとなどを聞いた方が良いのではないか。 | | | |
| 44 | 7月18日 | 保育・教育部会 | 「興味や関心」の質問の選択肢に「進学のこと」、「将来の仕事のこと」を追加してはどうか。 （理由）小学4～6年生を対象とするので、現在形のスポーツや趣味のことのほかに、未来形の事柄にどのくらい関心を持っているかも把握しておく必要があるのではないのでしょうか。自己肯定感が低い人は、将来に対する夢や希望を持っていない傾向があると言われていました。「子ども・子育て支援」にあたっては、子どもが将来に向けて夢や希望を描けるようにしていく必要があるかと思いますので、自己肯定感の現状・実態を把握することは重要と考えます。 | | | |
| 45 | 6月29日 | 青少年部会 | 『こんな居場所があったら良い』など、具体的な場所・施設などの例示をしたほうが施策につなげやすいのではないか。 | ご意見を踏まえ、居場所に関する設問については、選択肢の一部に例示（具体的な施設名等）を追加しました。 また、各部会でのご意見を踏まえ、国の調査等も参考に、設問や選択肢の数、あてはまるものをいくつ選ぶか等を全体的に見直しました。 | | 問42～46 |
| 46 | 7月4日 | 子育て部会 | 質問・回答が子どもたちにとって理解しやすいものになるようにしてほしい。 また、保護者を通しての回答は模範的な回答に偏りがちと思うので、実際に直接聞き取りをされる機会があればより本音に近い回答になると思う。 | 各部会でのご意見を踏まえ、子どものみで回答できるように、対象を小学4年生以上に見直しました。また、国の調査等も参考に、設問や選択肢の数、あてはまるものをいくつ選ぶか等を全体的に見直しました。 また、今後ニーズ調査以外でも、目的を踏まえ手法等を検討したうえで、子どもの意見の聞く取組を行っていく予定です。 | | 問42～46 |
| 47 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 他都市では、小学5・6年生にアンケートを行っている例もある。それらと比べると設問案は意図が見えにくい。どういう施策に活かしたいかを明確にすることが必要と思う。 | 各部会のご意見を踏まえ、国の調査等も参考に、設問や選択肢の数、あてはまるものをいくつ選ぶか等を全体的に見直すとともに、設問をどのように施策に活かすかを改めて整理しました。 | | 問42～46 |
| 48 | 7月18日 | 保育・教育部会 | 目的以外に使用することは…とあるが、小学生に伝わる様に「誰が回答したか、学校の先生含めて分からないようになっているので、素直に答えてください」の様な書き方が伝わるのではないか。 | ご意見を踏まえ、子ども自身が思う回答ができるよう、子どもへの質問のリード文において、名前は書かなくて良いことなどを記載しました。 | | 問42～46 |
| 49 | 7月18日 | 保育・教育部会 | 「横浜市がどのようなまちになってほしいか」の質問の選択肢に、「性別にかかわらず誰もが生きやすいまち」を追加してはどうか。 （理由）「6 様々な価値観が認められるまち」と似ていますが、この選択肢だけでは、ジェンダー平等に関わることや性的少数者の生きづらさに関わるものが拾えないため。選択肢をたてておかないと、子どもは「その他」では書きづらい、書かないと思います。 | ご意見を踏まえ、選択肢に「自分らしさが大切にされるまち」を追加しました。 | | 問44 |

| No. | 日付 | 部会名 | 部会でのご意見 | 対応状況 | 関連する問番号 | |
|-----|-------|---------|--|--|---------|-------|
| | | | | | 未就学児調査 | 小学生調査 |
| 50 | 6月16日 | 放課後部会 | 子どもの本音が聞けるようにできると良い。 大人に伝えたいことは、ぜひ聞いてみたい。 | 問46で自由意見欄の中で大人に伝えたいことを聞くこととしています。 | | 問46 |
| 51 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 家や学校に対する意見は言えないとってしまう可能性がある。自由意見欄では、学校の先生を例示しており、不整合になっている。 | 例示により、意見を伝える「大人」のイメージを持ってもらえるよう、削除は見送りました。 | | 問46 |
| 52 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 日数の書き方、同じ場面をイメージして回答できるようにした方が良い。解釈で回答内容が変わるので、同じ条件で回答できるようにした方が良い。 | 一時預かりはご意見を踏まえて修正。 その他の項目についても、同じ条件で回答していただけるよう全体的に見直し。 | (全体) | (全体) |
| 53 | 6月29日 | 青少年部会 | 保護者の方の健康状況やしんどさ、一般的な調子の悪さなども聞いても良いのではないかと。 | 全体の設問数を踏まえ、今回の調査に設問を追加することは見送りましたが、ご意見を踏まえ、保護者の健康状態等は令和2年度に実施した「横浜市の子どもの生活実態調査」の結果を活用していきます。 | - | - |
| 54 | 7月4日 | 子育て部会 | ニーズ調査以外で、今後、学校等で子どもの意見を聞く取組などの検討はあるか。 | ニーズ調査以外でも、目的を踏まえ手法等を検討したうえで、子どもの意見の聞く取組を行っていく予定です。 | - | - |
| 55 | 7月4日 | 子育て部会 | 今回の調査は、中高生が対象に含まれていないので、今後の課題として検討してもらいたい。 | | - | - |
| 56 | 7月4日 | 子育て部会 | 10年後も住んでいるか考えるときに、足りている部分と足りない部分を思い浮かべると思うので、「10年後も横浜市に住んでいるか」の回答に対して、理由を聞いても良いのではないかと。 それが子育て世帯の率直なニーズであり、横浜市の取り組む課題ではないかと考える。 | 全体の設問数を踏まえ、今回の調査に設問を追加することは見送りましたが、ご意見を踏まえ、本設問と「子どもを育てている現在の生活の満足度」「今後、子育て支援の施策に充実に向けて行政に望むこと」とをクロス集計を行い、相関関係を把握していきます。 | - | - |
| 57 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 子どもにとっての家と学校の居心地の良さはしっかり選べるようにした方がよいのではないかと。そのうえで、それ以外の場所から居心地の良さを選んでもらうのはどうか。 | 家や学校の居心地のよさの把握については、令和2年度に実施した「横浜市の子どもの生活実態調査」の結果を計画策定の参考にするとともに、今後ニーズ調査以外の子どもの意見の聞く取組を実施する際に更なる把握について検討していきます。 | - | - |
| 58 | 7月14日 | 保育・教育部会 | 不登校に関する相談をよく聞き、増加傾向にあると感じる。関連する設問を設けることは検討してもよいのではないかと。 | 全体の設問数を踏まえ、今回の調査に設問を追加することは見送りましたが、ご意見を踏まえ、子どもの不登校の経験を含めた子どもの生活実態の把握については、令和2年度に実施した「横浜市の子どもの生活実態調査」の結果等を計画策定の参考にしていくとともに、今後ニーズ調査以外の子どもの意見の聞く取組を実施する際に更なる把握について検討していきます。 | - | - |
| 59 | 7月18日 | 保育・教育部会 | やはり利用する家庭の意見だけでなく、受け入れている各園の先生方がどう感じているか（本当は地域の方の意見も含めて）も検討に含めるべきだと感じる。ある小学校の先生は、サービス重視の園からの卒園児と関する時は保護者の目が気になり、課題を強く感じるとも仰っていた。 サービスだけでなく、次の世代を担う子どもたちに育つためには私たちや行政の皆さんも志を高く持ち、横浜の子どもが育つ環境をよりよくしていきたいと思っている。 | 次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて、引き続き子ども・子育て会議の各部会で委員の皆様からご意見をいただきたいと考えています。 また、子ども・子育て支援に関わる団体の皆様の会議等に適宜お伺いし、子育て家庭の様子や本市施策の推進についてご意見をお伺いする機会を設け、計画策定に反映していきます。 | - | - |

【参考】「横浜市の子どもの生活実態調査」※令和2年度実施

1 目的

子どもや家庭の生活実態に関する基礎的なデータを収集することにより、現に困窮状態にある、または困難を抱えやすい状況にある子どもや家庭の実態を多面的に把握し、今後5か年で取り組む施策の検討や課題の分析等に活用することを目的に実施しました。

2 調査対象

- (1) 市内在住の5歳児の保護者 4,000人
- (2) 市内在住の小学5年生の子ども及びその保護者 各4,000人
- (3) 市内在住の中学2年生の子ども及びその保護者 各4,000人

3 調査方法

調査対象の子どものいる世帯を無作為で抽出し、アンケート調査票を郵送で配布し、同封の返信用封筒にて返送いただきました。

なお、小学5年生及び中学2年生の子どものいる世帯については、子どもと保護者それぞれに回答していただくため、2種類の調査票を送付しています。

4 調査期間

令和2年12月17日から令和3年1月8日

5 調査票配布・有効回答数（率）

| 種類 | 配布数 | 有効回答数 | 有効回答率 |
|-----------|--------|--------|-------|
| 5歳児の保護者 | 4,000 | 2,608 | 65.2% |
| 小学5年生 | 4,000 | 2,214 | 55.4% |
| 小学5年生の保護者 | 4,000 | 2,278 | 57.0% |
| 中学2年生 | 4,000 | 2,006 | 50.2% |
| 中学2年生の保護者 | 4,000 | 2,091 | 52.3% |
| 計 | 20,000 | 11,197 | 56.0% |

6 調査内容（小学5年生、中学2年生の子どもへの調査項目）

| 属性 | |
|------------------|---------------------------------------|
| | 性別 |
| | 通っている学校の種類 |
| 生活環境 | |
| 健康・精神状態等 | 現在の健康状態 |
| | 虫歯の有無等 |
| | 生活満足度 |
| | 自己肯定感 |
| | 精神状態 |
| 人間関係 （社会的関わり） | 親、学校の先生・友達との関係 |
| | 相談できる相手の有無・相談相手 |
| 生活習慣 | 食事の頻度 |
| | 孤食の状況 |
| | 就寝時間の規則性 |
| | 自分で使うことのできるものの有無等 （パソコン、勉強机、ゲーム機等） |
| | 放課後の居場所・誰と過ごすか |
| | ゲームやネット、SNS、家事、きょうだいなどの家族の世話の頻度等 |
| 新型コロナ | ふだんの生活に関する影響 |
| 教育 | |
| 学習習慣・環境 | 1日の勉強時間 |
| | 学校以外で勉強する場面 |
| 学力 | 学校の成績 |
| | 授業の理解度、わからなくなった時点 |
| 将来展望 | 進学の見通しとその理由 |
| 新型コロナ | 学校や勉強のことに関する影響 |
| 支援の利用状況 | |
| 支援の状況 | 居場所等の利用状況等 （地域の居場所、学習支援等） |
| その他 | |
| | 学校を休んだ、いじめられた経験等 |
| | 悩みや心配事、困っていること |
| | <自由記述あり> |

7 調査内容（5歳児、小学5年生、中学2年生の保護者への調査項目）

| 家族構成・家庭環境等の基本属性 | |
|-----------------|--------------------------|
| | 子どもの年齢・学年及びアンケート回答者 |
| | 居住区 |
| | 世帯委員数・家族構成 |
| | ひとり親世帯の該否 |
| | 養育費の取り決め、受け取りの有無 |
| | 日本語以外の使用言語 |
| | 最終学歴 |
| 生活環境 | |
| 健康・精神状態 | 現在の健康状態 |
| | 病気・障害等の有無（過去1年） |
| | 精神状態（過去1か月） |
| 親子関係 | 子どもとの関わり方 |
| 人間関係 | 相談できる相手の有無・相談相手 |
| 子どもの状況 | 健康状態（5歳児） |
| | 虫歯の有無等 |
| | 子ども（兄弟姉妹含む）障害の有無 |
| | 就寝時間の規則性（5歳児） |
| | 孤食の状況（5歳児） |
| | 食事の頻度（5歳児） |
| | 不登校経験の有無 |
| 新型コロナ | 子どもや家庭への影響 |
| 保護者の就労 | |
| 就労状況 | 就労の有無、就労形態 |
| | 平日の日中以外の勤務の有無、時間 |
| | 就労していない理由 |
| 新型コロナ | 就労に関する影響 |
| 経済状況 | |
| 家計状況 | 現在の暮らし向き |
| | 保護者が子どもの頃の暮らし向き |
| | 世帯収入 |
| 剥奪・滞納 | 病院等で受診できなかった経緯 |
| | 体験等の欠如 |
| | 食料、衣料その他の必要なものを買えなかった経験 |
| | 公共料金等の滞納・未払い経験 |
| 教育 | |
| 将来展望 | 子どもの進学の見通しとその理由 |
| 支援の利用状況等 | |
| 支援の状況 | 支援制度の利用状況（生活保護、児童扶養手当等） |
| 支援の希望 | 現在、又は将来にあったほうが良い支援 |
| | 支援を受けられるようにするため、重要だと覆うこと |
| その他 | 子どものことで現在悩んでいること |

令和5年6月21日
こども青少年局保育・教育運営課

「はじめてのおあずかり券」配付開始！

「用事を済ませたい」「自分の時間をつくってリフレッシュしたい」など、子育て中には誰かの手を借りて子どもを見てもらうことが必要なときもあります。そんなとき、理由を問わず、一時的にお子さんをお預かりしているのが、認可保育所や認可外保育施設などの一時預かり施設です。このたび、市内の一時預かり施設を無料で体験できる電子クーポンの配付を開始します。

特に低年齢児のお子様を持つ子育て負担が大きい世帯に対して、一時預かりの無料体験を通じて、誰もが気兼ねなく安心して預けられることを知っていただき、施設利用への心理的ハードルを下げることで、育児負担の軽減に繋がります。

配付対象

令和5年4月1日以降に生まれたお子様（以下、対象児童）がいる世帯。

なお、対象世帯に属するきょうだい児についても、有効期限内であれば年齢を問わず利用可能です。

使える場面

○通院したい ○美容院に行きたい、夫婦でお出かけをしたい ○リフレッシュしたい
○仕事に行きたい、求職活動をしたい など理由は問いません

配付方法

横浜市一時預かり WEB 予約システム上で配付します（裏面参照）

利用開始日

令和5年7月1日（土）

有効期限

対象児童が満2歳になった月の末日

配付時間数

対象児童1人につき24時間（30分単位で利用可能）

利用可能施設

| | | |
|---------------|---------------------|--------------|
| 対象事業 | 乳幼児一時預かり事業（認可外保育施設） | 一時保育（認可保育所等） |
| 対象年齢 | 生後57日～就学前 ※ | |
| 施設数（令和5年4月時点） | 36施設 | 約450施設 |

※ 施設によって異なります。



裏面あり

クーポン利用の流れ

あらかじめ、以下の手続きを行うことで利用可能です。

横浜市一時預かりWEB予約システムで住所や氏名などを入力し、アカウントを作成する

利用を希望する施設で事前面談を実施する

予約システム上で電子クーポンが発行される

予約システムや電話で利用予約を行う

利用日当日にスマートフォンを持参し、クーポンの利用画面を施設に提示する

<画面イメージ>

お知らせ

2022/09/01(木) 10:00
【横浜市】
<令和5年度生まれ対象>
はじめてのお預かり券を配布しています
お知らせ一覧へ▶

施設を探す

My施設

予約状況を確認する

利用履歴

はじめてのお預かり券

はじめてのお預かり券の残り時間

20 時間 0 分 /24時間

対象のお子さまを選択 南 ひなた

お預かり券を使う 利用履歴

利用予定日時 : 2023/01/02(月)
09:00~17:00
施設名 : デモ用施設8_坂本即時
お子さま : 南 ひなた
状態 : 確定済 時間入力>

利用予定日時 : 2023/01/02(月)
09:00~17:00
施設名 : デモ用施設8_坂本即時
お子さま : 南 太郎
状態 : 確定済 時間入力>

HOMEへ戻る

はじめてのお預かり券を使う

施設名 : デモ用施設8_坂本即時
利用予定日時 : 2023/01/02(月)
09:00~17:00
状態 : 確定済

利用時間を入力ください

3 時間 30 分

確定する

ご利用目的 : 就学(通学、通園、通園
通等を含む)
給食注文 : なし
おやつ注文 : なし
備考 :

予約受付日時 : 2022/12/16(金)
16:08:01

※使用するボタンを押した後、施設担当者が内容を
確認するので、この画面を提示してください。

使用する

戻る

横浜市一時預かり WEB 予約システム

横浜市では、一時預かり WEB 予約システムを導入しています。位置情報を活用した施設検索や、空き状況の確認ができます。

URL はこちら↓

<https://ichiji-yoyaku.city.yokohama.lg.jp>

二次元コードはこちら↓



お問合せ先

こども青少年局保育・教育運営課担当課長 齋藤 淳一 Tel 045-671-2386

令和5年6月21日
こども青少年局地域子育て支援課

地域で子どもを預かる「横浜子育てサポートシステム」 無料クーポン（子サポ de あずかりおためし券）を配付し、 利用料の改定を行います！

令和5年4月以降に赤ちゃんが生まれた世帯で子サポの利用会員となった方を対象に、満2歳の誕生日まで使用できる**8時間分の無料クーポン(子サポ de あずかりおためし券)**を配付します！（※6月22日～配付開始、7月1日～利用可能）

また、**7月1日から利用料を1時間800円から500円に改定**し、より利用しやすくすることで、子どもの預かりをきっかけに地域で子育ての先輩など、人とのつながりを広げ、育児負担の軽減に繋がります。

1 「子サポ de あずかりおためし券」配付

配付対象

令和5年4月1日以降に生まれたお子様（以下、対象児童）がいる世帯。
※対象の世帯に属するきょうだい児についても、一人当たり1枚で利用可能です。

使える場面

○通院したい ○美容院に行きたい、夫婦でお出かけをしたい
○リフレッシュしたい ○仕事に行きたい、求職活動をしたい など理由は問いません

配付時間数

対象児童1人につき8時間（※通常利用料 1時間500円）

有効期限

対象児童が満2歳になった月の末日

クーポン受取方法

会員として入会手続きを行った後に紙のクーポン配付
※令和6年度は、電子クーポンでの配付を予定しています。

<利用登録問い合わせ先：横浜子育てサポートシステム区支部事務局（各区地域子育て支援拠点内）>

<http://famisapo.city.yokohama.lg.jp/mechanism-flow/search-office/2013030700039/>

二次元コードはこちら →



クーポン利用の流れ

- ① 横浜子育てサポートシステムの入会説明会に参加し、入会手続きを行う→クーポン配付
- ② 事務局に利用の依頼
- ③ 事務局での利用調整、預かる会員との事前打ち合わせの実施
- ④ 預かり実施
- ⑤ 預かる会員への利用料支払の際に、1時間単位で使用枚数を渡す



2 利用料改定など

(1) 援助活動にかかる利用料改定

7月1日から利用料を値下げします。

| 期間 | 月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く） | | 土、日曜日・祝日 年末年始（12/29～1/3） | | | |
|------------------|---------------------|------|-----------------------------|------|------|------|
| | AM7:00～PM7:00 | | 先の時間帯以外の時間 | | | |
| 時間 | 改定前 | 改定後 | 改定前 | 改定後 | 改定前 | 改定後 |
| 1人1時間 | 800円 | 500円 | 900円 | 600円 | 900円 | 600円 |
| 1時間を超え 30分ごとに | 400円 | 250円 | 450円 | 300円 | 450円 | 300円 |

(2) 援助活動を行った方に市から給付金支払＜新規＞

利用料改定に合わせて、援助活動を行った方（提供会員）に、利用者からの利用料に加えて、横浜市から1時間につき500円の給付金を支払います。

【例：平日日中1時間の場合】

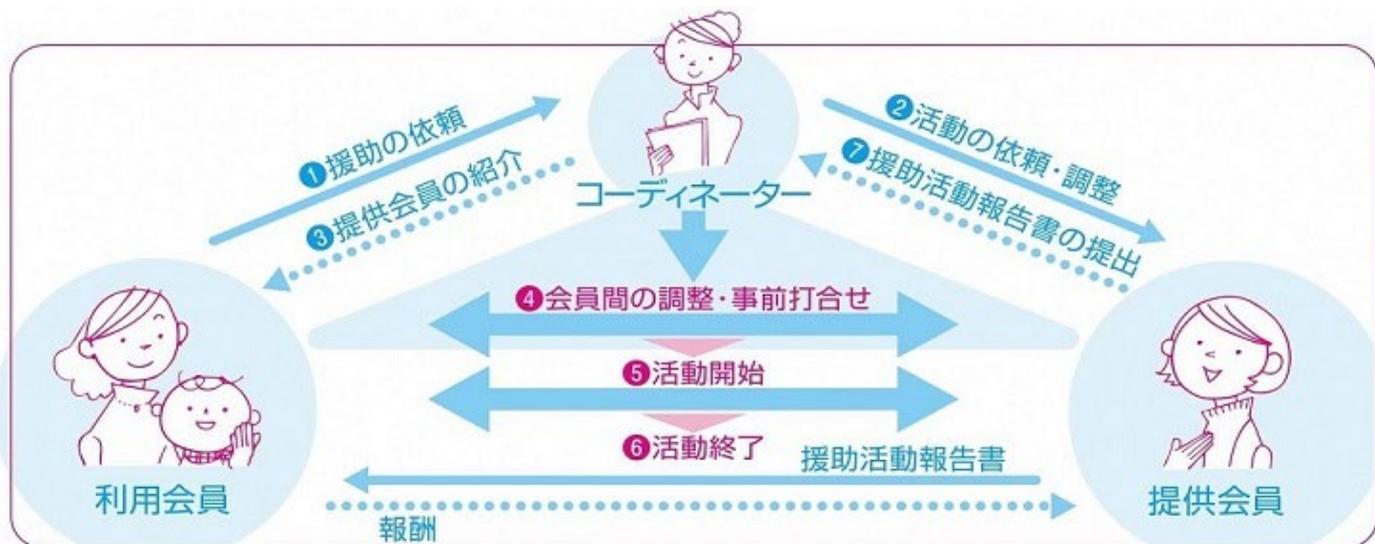
＜改定後＞ 利用料500円＋市からの給付金500円＝1,000円

＜現行＞ 利用料800円のみ

＜参考＞「横浜子育てサポートシステム」のしくみ

安心して子育てができるよう、地域ぐるみで子育て支援や仕事と育児を両立できる環境を作ることを目的に、地域で子どもを預けたり、預かったりする会員制の有償のささえあい活動です。

横浜子育てサポートシステムの運営は、横浜市が本部事務局を、子育て支援を行っている法人が区支部事務局を担い、専任のコーディネーターがコーディネートを行っています。



お問合せ先

こども青少年局地域子育て支援課長 五十川 聡 Tel 045-671-4776

横浜市立大学と連携したハマスタディ調査結果について

横浜市と横浜市立大学は「データ活用に関する包括連携協定」に基づき、令和4年度から「家庭と子育てに関するコホート研究(ハマスタディ)」に関する協定書を締結し、調査・分析を行いました。本研究は、横浜市立大学学長裁量事業学術的研究推進事業「YCU未来共創プロジェクト」及び横浜市立大学創立100周年記念事業基金「新たな研究創生プロジェクト」に採択され、この度、第1弾の調査結果が取りまとめられましたので、発表します。

調査結果から得られたデータをもとに横浜市立大学と連携し分析を進め、横浜市の子ども・子育て支援施策等への活用を進めてまいります。

1 調査結果のポイント

—子どもが生まれると女性の家事時間が増加、家事時間とwell-beingには負の相関—

- ・フルタイムで働く妻の平日の家事時間は子どもがいない家庭で1.8時間に対し、子どもができると2.2~2.5時間に増加。夫は子ども数と家事時間に関連がみられず、妻の家事時間のおよそ半分だった。
- ・家事の外部化・自動化を通じて家事時間を削減できる可能性が示唆された。
- ・妻の家事時間とWell-being^{*1}には負の相関がみられた。
- ・理想子ども数と実際の子ども数とのギャップはおよそ0.27~0.36人少ない傾向だった。



※詳しくは横浜市立大学から発表の記者発表資料（別紙）をご確認ください。

URL：<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2023/hamastudy.html>

※1 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

2 ハマスタディとは

横浜市をはじめとした都市型の少子化の要因を、家庭と子育ての観点から継続的な調査^{*}によって明らかにすること目的としたものです。市内在住の子育て世代から1万世帯を無作為に抽出し、同じ調査票を夫婦それぞれで回答します。

※調査については、令和4~8年度（5年間）にかけて同じ方を対象に年1回調査を行い、暮らしの変化や政策の評価の検証を行う予定です。（第2弾調査：令和5年12月頃）

本研究の結果から、家庭と子育ての現状の把握とともに、横浜市中期計画2022~2025において基本戦略としている「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現に向けて、施策改善に活用していきます。

URL：<https://www.hamastudy.net/>

3 参考

○データ活用に関する包括連携協定について

データ活用に関する相互の連携・協力を強化し、「データを重視した政策形成の推進」や「官民データ活用に関する教育及び普及啓発」を効果的に進めるため、横浜市、横浜市立大学でデータ活用に関する包括連携協定を締結しました（平成30年5月22日）。

○家庭と子育てに関するコホート研究（ハマスタディ）に関する協定について

横浜市と横浜市立大学が相互に連携・協力し「家庭と子育てに関するコホート研究（ハマスタディ）」を推進するため、協定を締結しました。（令和4年11月25日）

○全庁的なデータ利活用について

横浜市では、データ利活用をこれまで以上に全庁的な視点で推進するため、令和5年度から政策局にデータ・ストラテジー担当を設置しています。データの分析や見える化などを通じて、データに基づく政策を推進していきます。

| お問合せ先 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・「家庭と子育てに関するコホート研究(ハマスタディ)」に関する協定書に関すること こども青少年局企画調整課長 柿沼 千尋 Tel 045-671-4280・全庁的なデータ利活用に関すること 政策局政策課データ・ストラテジー担当課長 大山 紘平 Tel 045-671-4799 |

文部科学記者会・科学記者会
厚生労働記者会・厚生日比谷クラブ
横浜市政記者会・横浜経済記者クラブ 同時発表

2023年7月12日
横浜市立大学

こどもが生まれると女性の家事時間が増加、 家事時間と well-being には負の相関 —横浜市の結婚・子育て世代への大規模アンケート調査より報告—

横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科の原広司准教授らの研究グループは、横浜在住の結婚・子育て世代1万世帯を対象とした大規模なアンケート調査（ハムスタディ）を実施し、調査結果より、フルタイム勤務の夫婦における家事・育児時間、Well-being^{*1}との関係、家事の外部化・自動化と家事時間との関係などを明らかにしました。

本調査は、5年間に渡る大規模なコホート研究^{*2}であり、横浜市をはじめとした都市型の少子化の要因を家庭と子育ての観点から継続的な調査によって明らかにすることを目的としています。研究成果によって、家庭と子育ての現状の把握とともに、子育てしやすいまち、政策づくりへの提言につなげます。

本研究のプロトコルは、プレプリントサーバーの Research Square に投稿し、公開されました。（5月5日オンライン）※本報告では、夫婦の家事時間と育児時間に焦点をあてた分析結果を中心にご報告します。

研究成果のポイント

- 横浜市在住の結婚・子育て世代を対象にした5年間（2022年度～2026年度）にわたる1万世帯を対象とした大規模なコホート調査
- フルタイムで働く妻の平日の家事時間はこどもがいない家庭で1.8時間に対し、こどもができると2.2～2.5時間に増加。夫はこども数と家事時間に関連がみられず、妻の家事時間のおよそ半分だった。
- 家事の外部化・自動化を通じて家事時間を削減できる可能性が示唆された。
- 妻の家事時間と Well-being には負の相関がみられた。
- 理想こども数と実際のこども数（将来の予定こども数を含む）とのギャップはおおよそ0.27人～0.36人少ない傾向だった。

研究背景

日本では少子化が加速しており、人口はより減少していくことが予想されています。その背景には、経済状況、価値観や社会の変化などの様々な要因が存在します。社会の担い手であるこどもが減ることは、社会に対して中長期的に大きな影響を及ぼすことが想定されます。国や地方自治体は、こどもや親を支える政策、活動を実施しており、最近ではこども家

庭庁が設立されました。社会全体で少子化対策への関心が高まっています。

しかしながら、こうした政策や活動が実際に市民の暮らしや子育てを良くしているのか、子どもを望む人がその望みを叶えられる社会になっているのか、あるいは子どもを望まない人も納得のいく社会になっているのか、といったことは十分に検証されていない現状があります。また、子ども数に着目するだけでなく、夫婦の Well-being も重要な観点ですが、こうした点はほとんど議論されていません。

今回、横浜市民の実情を把握し、政策や活動の評価を行い、世の中に発信することを目的として本研究（ハマスタディ）を実施することにしました。ハマスタディとは「家庭と子育てに関するコホート研究」の通称で、“HAMA = ‘H’aving ‘A’ Baby, parenting, and ‘MA’rrige life”から名付けました。

本調査は横浜市在住の結婚・子育て世代を対象に実施するものでありますが、同じような特徴をもつ国内外の都市においても、本研究成果がその課題解決に役立つことを目指しています。

研究内容

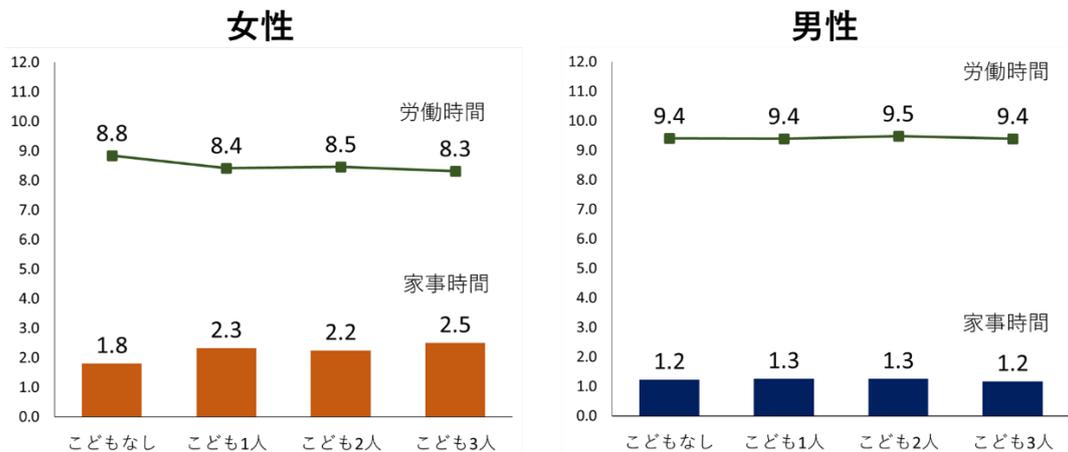
① 回収結果

横浜市在住の結婚・子育て世代（妻が20歳～39歳）1万世帯の夫婦2万人を対象に、2023年1月から調査票を送付、回収しました。その結果、3272世帯、5458件の回答が得られました（世帯の回収率32.7%、女性の回収率27.0%、男性の回収率25.4%）。特筆すべき点として、通常の調査では低くなりやすい男性の回答率が本調査では高く、また、夫婦双方の回答も多く寄せられた点です。夫婦の回答が得られたことで、夫婦間の差異や特徴などを検証することが可能です。

さらに、自由記述欄（横浜市の暮らしや子育てに関する意見や要望）の記入数は3,000件を超え、全体の回答者の5割以上にのぼりました。少子化・子育て政策への関心の高さがうかがえました。

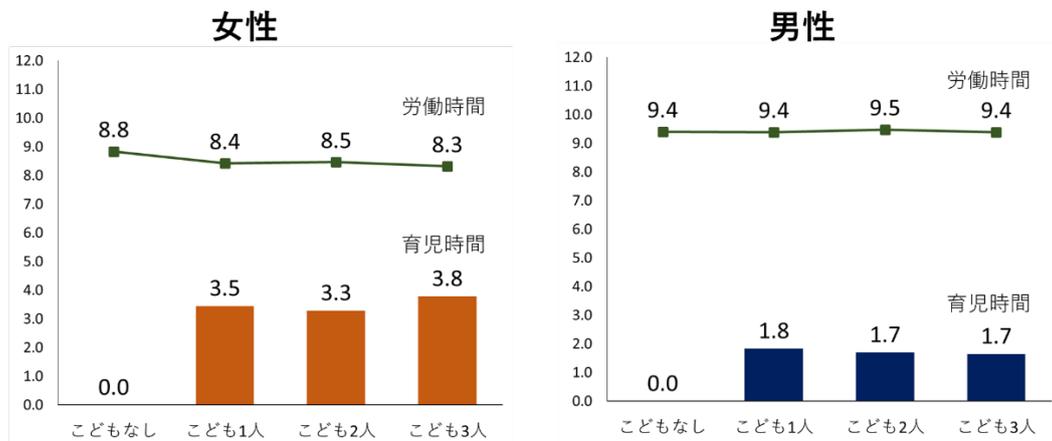
② フルタイム^{*3}で勤務する方の平日の家事・育児時間（図1, 図2）

フルタイムで勤務する方について、性別・子ども数別の平日家事時間と一日当たりの平日労働時間を算出しました（女性：n=630、男性：n=1967、※nは、分析に用いたサンプル数を指します）。女性は子どもなしの世帯に比べて、子どもありの世帯で平日家事時間は0.4～0.7時間増加し、労働時間は0.3～0.5時間減少していました。一方で、男性は子ども数による家事時間および労働時間の変化はみられませんでした。この結果から、家事時間の増加分は主に女性が担い、労働時間を減らして家事時間に充てている可能性が示唆されました。



(図1) フルタイム勤務者の性別・子ども数別の平日家事時間と労働時間

同様に、平日の育児時間を算出しました。その結果、子どもができることで女性は3.3～3.8時間、男性は1.7～1.8時間の育児時間を要していることがわかりました。女性は男性に比べて約2倍の育児時間を費やしていることが明らかになりました。

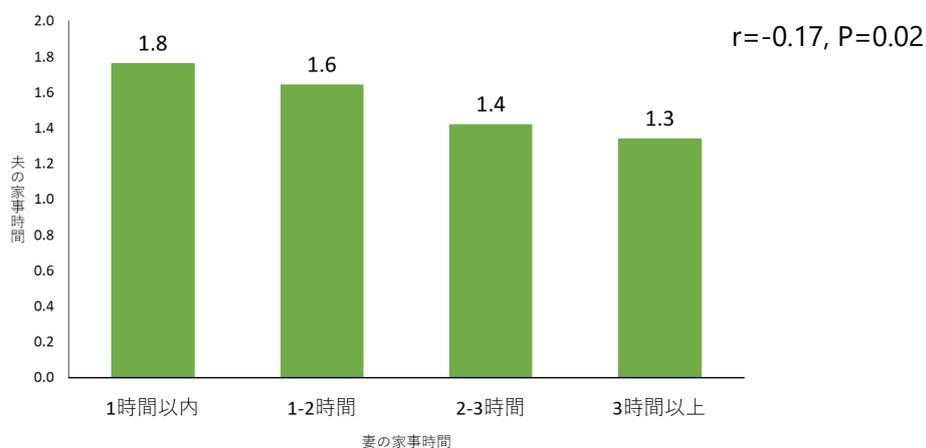


(図2) フルタイム勤務者の性別・子ども数別の平日育児時間と労働時間

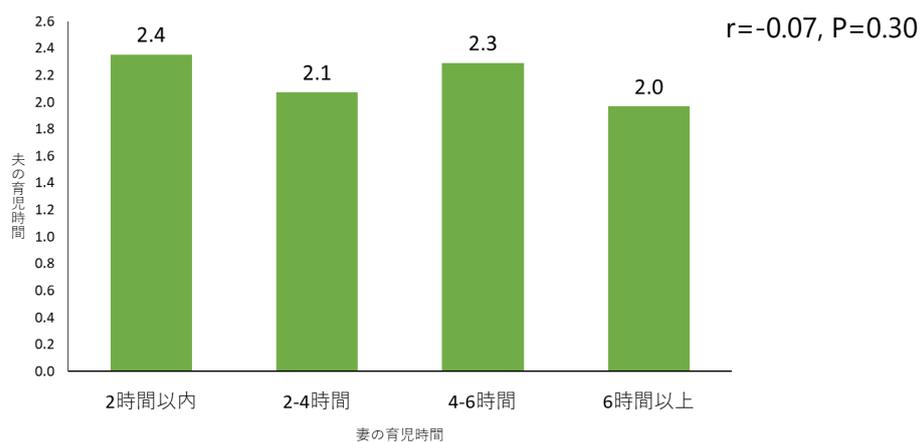
③ 夫婦がフルタイム勤務の家事・育児時間の関係 (図3, 図4)

夫婦双方が回答し、かつフルタイムで共働き世帯のデータ (n=201) を用いて、夫婦の家事時間、育児時間の関係を分析しました。妻の家事時間と夫の家事時間には負の相関関係がみられました ($r=-0.17, P=0.02$)。つまり、妻の家事時間が増えれば夫の家事時間が減り、夫の家事時間が増えれば妻の家事時間が減る関係が確認されました。ただし、妻の家事時間に比べて夫の家事時間は総じて短い傾向にありました。

一方で、育児時間では夫婦間での相関関係は確認されませんでした ($r=-0.07, P=0.30$)。家事に比べて育児は夫婦で関わり合い、互いの育児時間を補完しているものではないことが示唆されました。



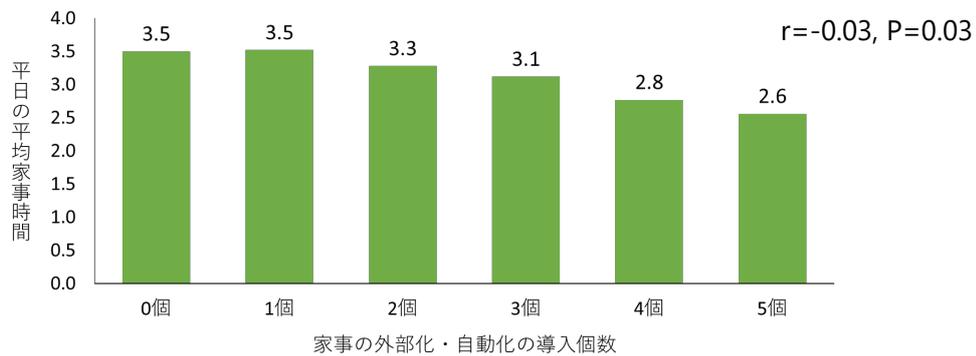
(図3) 夫婦ともにフルタイム勤務の妻の家事時間と夫の家事時間



(図4) 夫婦ともにフルタイム勤務の妻の育児時間と夫の育児時間

④ 家事の外部化・自動化 (図5)

お惣菜などを利用する家事の外部化、あるいは家電製品の進化による家事の自動化は広く一般に普及しています。本調査では、食洗器、ロボット掃除機、全自動ドラム乾燥機、電気調理鍋、お惣菜（週1回以上）の利用状況を把握し、これらの導入数ごとの女性の平日家事時間を比較しました（ $n=2699$ ）。その結果、導入数が多いほど、家事時間が減少する傾向がみられました（ $r=-0.03, P=0.03$ ）。この結果から、これらのサービスや家電の利用は女性の家事時間の削減に寄与する可能性が示唆されました。



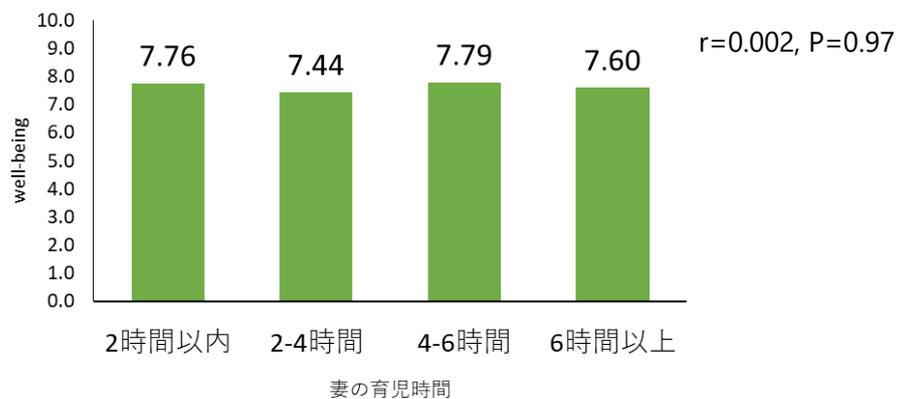
(図5) 家事の外部化・自動化の導入数と女性の平日家事時間

⑤ フルタイム勤務者の妻の平日の家事・育児時間と Well-being との関係 (図6, 図7)

フルタイム勤務をする妻の平日の家事・育児時間と Well-being の関係を検証しました (n=201)。その結果、妻の家事時間が長くなるにつれて、Well-being は悪化する傾向がみられました ($r=-0.14, P=0.04$)。一方で、育児時間と Well-being ではこうした関係は確認されませんでした ($r=0.002, P=0.97$)。この結果から、妻の Well-being に対して家事時間が関連している可能性が示唆されました。



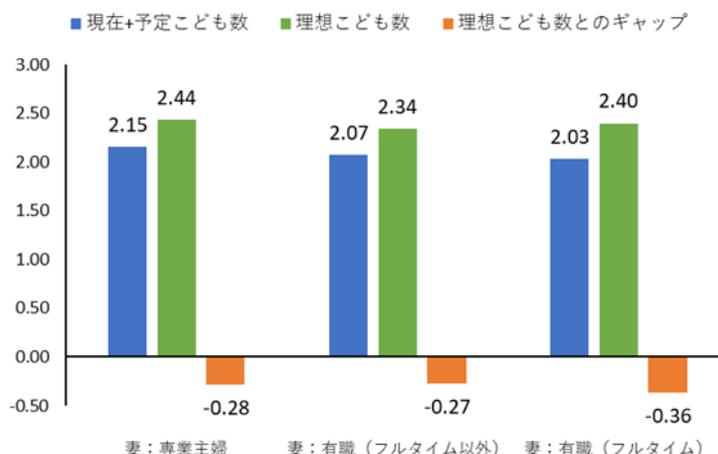
(図6) 妻の家事時間と Well-being の関係



(図7) 妻の育児時間と Well-being の関係

⑥ 妻の勤務状況と理想子ども数とのギャップ（図 8）

妻の勤務状況を専業主婦、有職（フルタイム以外）、有職（フルタイム）の3つに区分し、「現在+予定子ども数」、「理想子ども数」、「理想子ども数とのギャップ」を算出しました（n=1195）。なお、夫はいずれの 카테고리でも有職（フルタイム）がほとんどだったため、区分はしていません。専業主婦の場合の理想子ども数とのギャップは-0.28、有職（フルタイム以外）は-0.27、有職（フルタイム）は-0.36となり、有職（フルタイム）でギャップが大きい傾向にありました。ただし、統計的な有意差は認められませんでした（P=0.154）。



（図 8）妻の勤務形態別の子ども数

今後の展開

ハマスタディ研究は、2022 年度から 2026 年度までの 5 年間にわたるコホート調査です。本結果は 1 年目の Wave1 の調査結果であり、2023 年度中に Wave2、2024 年度以降も Wave3～5 と継続して実施、分析を行います。Wave2 以降は、政策の変化や各家庭の変化などを捉え、その変化と各指標との関連を明らかにします。本調査の結果は横浜市にもフィードバックし、今後の政策等の検討に活用していただく予定です。

研究体制

本研究では、学部・学科を横断し、協働で研究を行っております。

研究代表者：

国際商学部・国際マネジメント研究科・准教授 原広司

研究分担者：

国際商学部・データサイエンス研究科・教授 黒木淳

国際商学部・国際マネジメント研究科・教授 白石小百合

国際マネジメント研究科・特任教授 松村眞吾

医学研究科発生生育小児医療学・教授、小児科医 伊藤秀一

産婦人科診療教授・周産期医療センター長、産婦人科医 倉澤健太郎
医学研究科看護学専攻地域看護学・医学部看護学科 地域看護学・教授、保健師 有本梓
国際マネジメント研究科 共同研究員 松崎陽平（横浜市立市民病院小児科長、小児科医）

研究費

本研究は、横浜市と連携協定を締結して取り組みを進める「家庭と子育てに関するコホート研究（ハマスタディ）」の一環として行われ、横浜市立大学 学長裁量事業 学術的研究推進事業「YCU 未来共創プロジェクト」および横浜市立大学 創立 100 周年記念事業募金「新たな研究創生プロジェクト」の支援を受けて実施しました。

※横浜市発表の記者発表資料 URL : <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kodomo/2023/0712hamastudy.html>

論文情報

タイトル : Evaluation of planned number of children, the well-being of the couple, and associated factors in a prospective cohort in Yokohama (HAMA study): study protocol

著者 : Koji Hara, Makoto Kuroki, Sayuri Shiraishi, Shingo Matsumura, Shuichi Ito, Kentaro Kurasawa, Azusa Arimoto, Yohei Matsuzaki

掲載雑誌 : preprint

DOI : <https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-2863209/v1>

※お断り：本研究成果については、現在、プレプリントサーバーへ登録、公開していますが、査読審査により論文内容が修正される可能性があります。

参考

ハマスタディ WEB サイト : <https://www.hamastudy.net/>

<取材対応に関する窓口>

横浜市立大学 広報課長 上村一太郎

Tel : 045-787-2414 koho@yokohama-cu.ac.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 横浜市立大学は、様々な取り組みを通じてSDGsの達成を目指します。



用語説明

* 1 Well-being :

個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。本報告での **Well-being** は、主観的幸福感と呼ばれる指標を使用しており、現在の幸福感を 0 点から 10 点までで選択してもらったものである。

* 2 コホート研究 :

共通の特徴をもつ集団を追跡し、その集団がどのように変化し、どの要因がその変化に関連しているのかを明らかにしようとする観察的な研究。

* 3 フルタイム :

本報告では、週 40 時間以上勤務の者をフルタイムと定義。産前産後休業（産休）および育児休業制度（育休）を利用している人は含んでいない。